Panasonic®

取扱説明書

デジタルカメラ/
レンズキット/ダブルズームレンズキット/ボディ

品番 DMC-G1K/DMC-G1W
DMC-G1

安全上のご注意

はじめに

準備

基本

応用・撮影

応用・再生

他の機器との接続

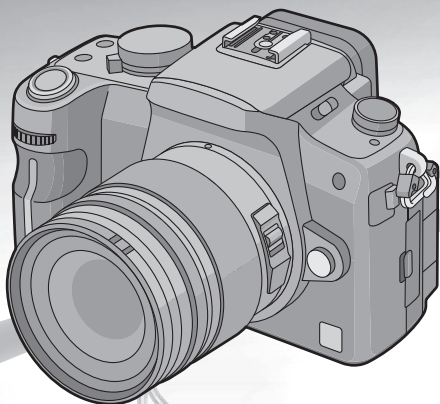
その他Q&A

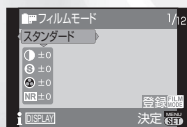
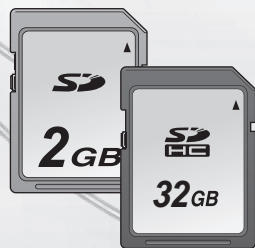
このたびは、パナソニック製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

- 取扱説明書をよくお読みのうえ、正しく安全にお使いください。
- **ご使用前に「安全上のご注意」(6～9ページ)を必ずお読みください。**
- 保証書は「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確かめ、取扱説明書とともに大切に保管してください。

保証書別添付

VQT1U31-1

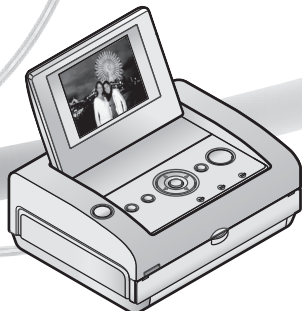
大切な瞬間を楽しくカンタンに撮る

おまかせで撮る
(P44)
カメラが自動でシーンを判別
「インテリジェントオートモード」

マニュアル操作で撮る
(P77、90)
手動で露出やピントを合わせる
「マニュアルフォーカス」、
「マニュアル露出」など

色合いを調整して撮る
(P86、99)
画像の明るさ、色調などを変える
「フィルムモード」、
「マイカラーモード」など

各機器にSDカードスロットがある場合は、カードを直接スロットへ！
SDHC カードは、SDHC カード対応機器でのみ使用できます。

・見る・残すLUMIX（ルミックス）

見る P126

● テレビで見る

SDカード / ビデオケーブル
HDMIミニケーブル(別売)

残す P122

● ご家庭のプリンターで手軽にプリント
(PictBridge（ピクトブリッジ）対応のプリンター)
● お店でカードを渡してプリント
● 画像に日付を入れてプリント(P125)

SDカード / USB接続ケーブル

さらに 活かす、残す！ P120

● 画像をパソコンに保存
● パソコンで画像をメール送信
● パソコンで画像を直接操作してプリント

SDカード / USB接続ケーブル

● DVDレコーダーで画像をDVDやハードディスクに保存
※詳しくは、DVDレコーダーの取扱説明書をお読みください。

SDカード

もくじ

はじめに

準備

基本

応用･撮影

→「安全上のご注意」を必ずお読みください（6～ 9ページ）

応用・再生

他の機器との接続

その他・Q & A

安全上のご注意 （必ずお守りください）

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

■ **誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。**

	危険	「死亡や重傷を負うおそれが大きい内容」です。
	警告	「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。
	注意	「傷害を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

■ **お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。**

	してはいけない内容です。		実行しなければならない内容です。

⚠危険

液もれ・発熱・発火・破裂によるけがを防ぐために

バッテリーパック※は、誤った使いかたをしない（※以降は、「バッテリー」と表記）

- 指定外のものは使わない
- 分解や加工（はんだづけなど）、加圧、（電子レンジやオーブンなどでの）加熱、火中投入などをしない
- 炎天下（特に真夏の車内）など、高温になるところに放置しない
- 右図の端子部（⊕・⊖）に金属を接触させない

バッテリーチャージャー（充電器）/ACアダプターは、本機専用のバッテリーにのみ使用する

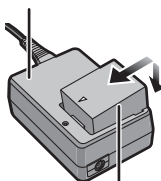
バッテリーは、正しく使う

- 専用のバッテリーチャージャー/ACアダプターで充電する

■ **バッテリーの液もれが起こったら**

- お買い上げの販売店にご相談ください。
- 液が身体や衣服についたら、水でよく洗い流してください。
- 液が目に入ったら、失明のおそれがあります。
  すぐにきれいな水で洗い、医師にご相談ください。

⚠警告

ショートや発熱による火災や感電を防ぐために

電源コードは、誤った使いかたをしない

- 加工しない･傷つけない
- 熱器具に近づけない
- 無理に曲げない･ねじらない･引っ張らない
- 束ねたりしない
- 傷んだら使わない
- 差し込みがゆるい電源コンセントには使わない
- たこ足配線や定格外(交流100 V～240 V以外)で使わない
- ぬれた手で抜き差ししない

電源プラグは、正しく扱う

- 定期的に乾いた布でふく(ほこりなどがたまると、湿気などで絶縁不良となり、火災の原因になります)
- 根元まで確実に差し込む
- 接点部周辺に金属類(クリップなど)を放置しない

雷が鳴ったら、触れない

本体やバッテリーチャージャー/ACアダプターには、金属部があります。

分解や改造はしない、ぬらさない、異物を入れない

内部には、電圧の高い部分があります。

異常時には、バッテリーを外す

- 内部がぬれたり、金属や異物が入ったとき
- 外装ケースが破損したとき
- 煙や異臭、異音が出たとき

⚠警告

乗り物の運転中に使わない

事故の誘発につながります。
- 歩行中も、周囲や路面の状況に十分注意する

ストラップは肩に掛けて使う

けがや事故の原因になることがあります。
- 首に掛けての使用はしない

運転者などに向けてフラッシュを発光しない

事故の誘発につながります。

ストラップを乳幼児の手の届くところに置かない

誤ってストラップを首に巻きつけ、事故につながるおそれがあります。

電源を入れたまま長時間、直接触れて使用しない

本機の温度の高い部分に長時間、直接触れていると低温やけど※の原因になります。長時間ご使用の場合は、三脚などをお使いください。

※血流状態が悪い人（血管障害、血液循環不良、糖尿病、強い圧迫を受けている）や皮膚感覚が弱い人（高齢者）などは、低温やけどになりやすい傾向があります。

可燃性・爆発性・引火性のガスなどのある場所で使わない

火災や爆発の原因になります。
- 粉じんの発生する場所でも使わない

メモリーカードは乳幼児の手の届くところに置かない

誤って飲み込むと、身体に悪影響を及ぼします。
- 万一、飲み込んだら、すぐ医師にご相談ください。

⚠注意

フラッシュ発光部およびAF補助光は、至近距離（数cm）で直接見ない

視力障害などの原因になることがあります。

フラッシュを人の目に近づけて発光しない

視力障害などの原因になることがあります。

- 乳幼児を撮影するときは、1 m以上離してください。

フラッシュの発光部分を直接手で触らない・ごみなどの異物が付いたまま使わない・テープなどでふさがない

やけどの原因になることがあります。
発光熱によって出る煙などで故障の原因になることがあります。

- 発光直後は、しばらく触らないでください。

次のような場所に放置しない

火災や感電、けがの原因になることがあります。

- 異常に温度が高くなるところ（特に真夏の車内やボンネットの上など）
- 油煙や湯気の当たるところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 重いものの下
- 足元など、誤って踏んでしまうようなところ

次のときは、バッテリーを取り出す

バッテリーを入れたまま放置すると、絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因になることがあります。

- 長期間使わないとき
- お手入れのとき

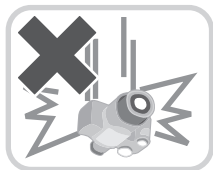
病院内や機内では、病院や航空会社の指示に従う

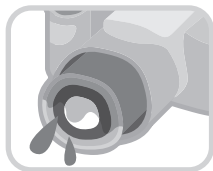
本機からの電磁波などが、計器類に影響を及ぼすことがあります。

レンズを太陽や強い光源に向けたままにしない

集光により、内部部品が破損し、火災の原因になることがあります。

ご使用の前に

■ 本機の取り扱いについて…

- 落下などによる強い振動や衝撃を与えないでください。
  誤動作や、画像が記録できなくなる、またはレンズや液晶モニターが破壊される可能性があります。
- 下記の場所では、故障などの原因になることがありますので、特にお気をつけください。
  ・砂やほこりの多いところ
  ・雨の日や浜辺など水がかかるところ
- レンズ部や端子部を汚れた手で触らないでください。
  また、レンズやボタンのすき間から液体や砂、異物などが入らないようにお気をつけください。
- 万一水や海水がかかったときは、柔らかい乾いた布でふいてください。
- デジタルカメラボディのマウント内に手を入れないでください。センサー部は精密機器ですので故障、破損の原因になります。

■ つゆつきについて(レンズやファインダーがくもるとき)…

- つゆつきは、温度差や湿度差があると起こります。レンズ汚れ、かび、故障の発生原因になりますのでお気をつけください。
- つゆつきが起こった場合、電源を[OFF]にし、2時間ほどそのままにしてください。周囲の温度になじむと、くもりが自然に取れます。

■ 事前に必ずためし撮りをしてください

大切な撮影(結婚式など)は、必ず事前にためし撮りをし、正常に撮影されていることを確かめてください。

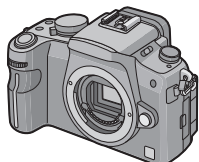
■ 撮影内容の補償はできません

本機およびカードの不具合で撮影されなかった場合の内容の補償についてはご容赦ください。

■ 著作権にお気をつけください

あなたが撮影したものは、個人として楽しむ以外は、著作権法上権利者に無断では使用できません。個人として楽しむ目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでお気をつけください。

■ 「使用上のお願い」も、あわせてお読みください(P156)

同梱品

デジタルカメラボディ
（本文中では**本体**と表記します）

付属品をご確認ください。

● 記載の品番は2008年10月現在のものです。

DMC-G1K（レンズキット商品）に付属

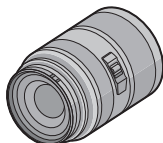
□ **交換レンズ**（H-FS014045）
LUMIX G VARIO 14–45 mm/
F3.5–5.6 ASPH./MEGA O.I.S.
（本文中では**レンズ**と表記します）

□ **レンズフード**
VYC0981

□ **レンズキャップ**
VYF3201
（お買い上げ時は交換レンズに装着されています）

□ **レンズリアキャップ**
VFC4315
（お買い上げ時は交換レンズに装着されています）

□ **レンズ収納袋**
VFC4357

DMC-G1W（ダブルズームレンズキット商品）に付属

□ **交換レンズ**（H-FS045200）
LUMIX G VARIO 45–200 mm/
F4.0–5.6/MEGA O.I.S.
（本文中では**レンズ**と表記します）

□ **レンズフード**
VYC0986

□ **レンズキャップ**
VYF3201
（お買い上げ時は交換レンズに装着されています）

□ **レンズリアキャップ**
VFC4315
（お買い上げ時は交換レンズに装着されています）

□ **レンズ収納袋**
VFC4358

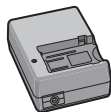
同梱品（つづき）

☐

バッテリーパック
DMW-BLB13
（本文中では**バッテリー**と表記します）
- 充電してから、お使いください。

☐

USB 接続ケーブル
K1HA08CD0024

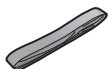
☐

バッテリーチャージャー/AC アダプター
DE-A49A
（本文中では**チャージャー**と表記します）

☐

CD-ROM
- パソコンにソフトウェアをインストールしてお使いください。

☐

電源コード
K2CA2CA00019

☐

ストラップ
VFC4355

☐

ビデオケーブル
K1HA08CD0026

☐

ボディキャップ
VKF4385
（お買い上げ時はデジタルカメラボディに装着されています）

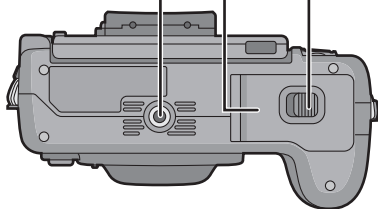
- **カードは別売です。**
- 別売品については131ページを参照してください。
- 電源コードキャップおよび包装材料は商品を取り出したあと、適切に処理をしてください。
- **本書ではDMC-G1KおよびDMC-G1Wに同梱の交換レンズ14–45 mm/F3.5–5.6を用いて説明をしています。**
- 付属品をなくされたときは、お買い上げの販売店または修理ご相談窓口(P172～174)にお問い合わせください。

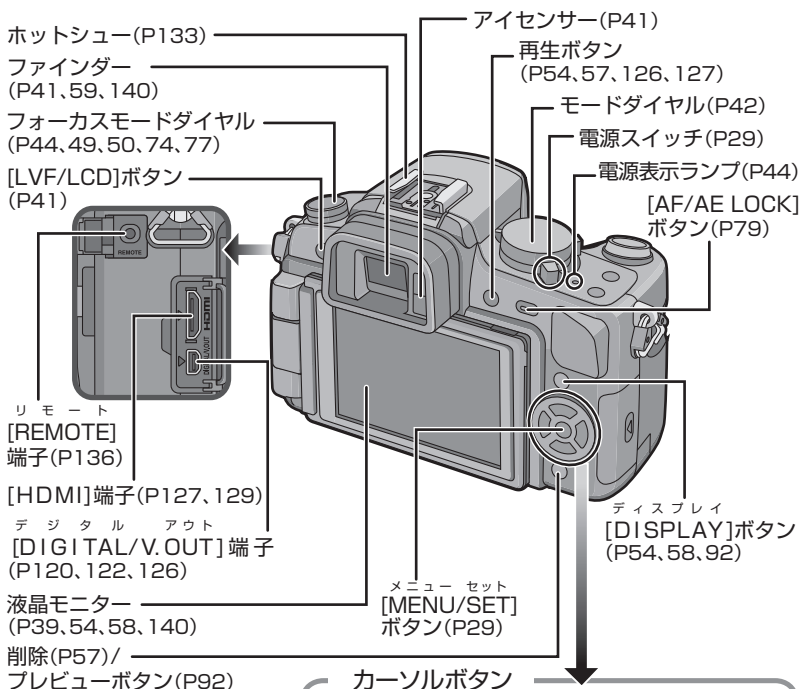
各部の名前

■ デジタルカメラボディ

前ダイヤル
(P31、47、52、55、56、68、89、90)

前ダイヤルは左右方向に回す操作と押して決定する操作※との2とおりあります。
本書では、前ダイヤルを下図のように説明しています。

※各種設定時には決定や終了などの[MENU/SET]ボタンと同じ働きをします。

※三脚を使用する場合は、本機を取り付けた状態で三脚が安定していることを確認してください。

各部の名前（つづき）

カーソルボタン

本書では、カーソルボタンを下図のように、または、▲/▼/◀/▶で説明しています。

例:▼(下)ボタンを押すとき

または　**▼を押す**

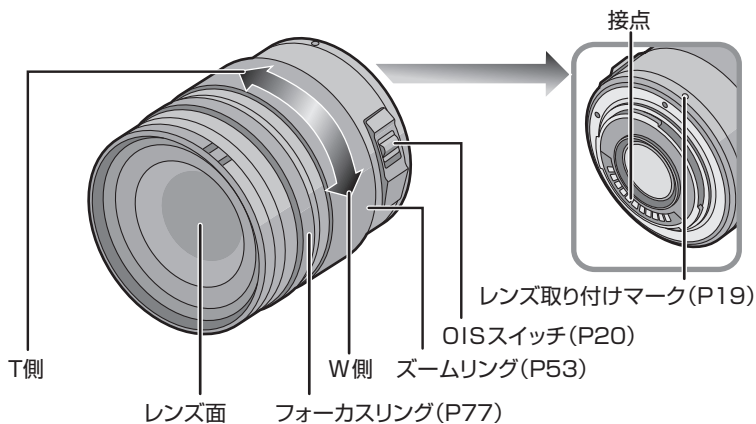
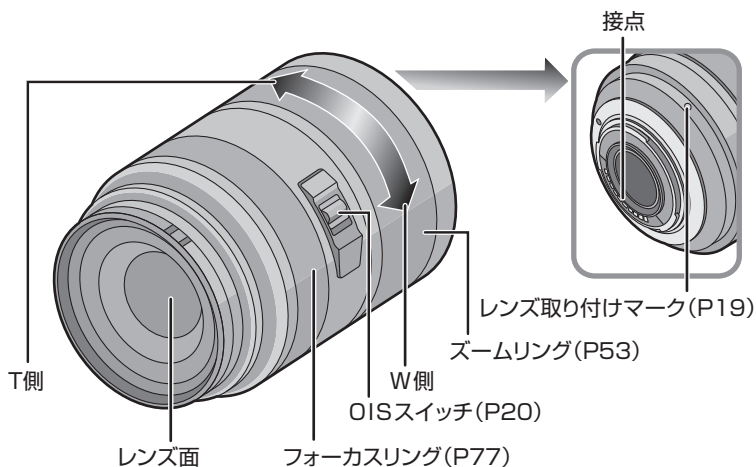
▲(上)/ISO(P84)

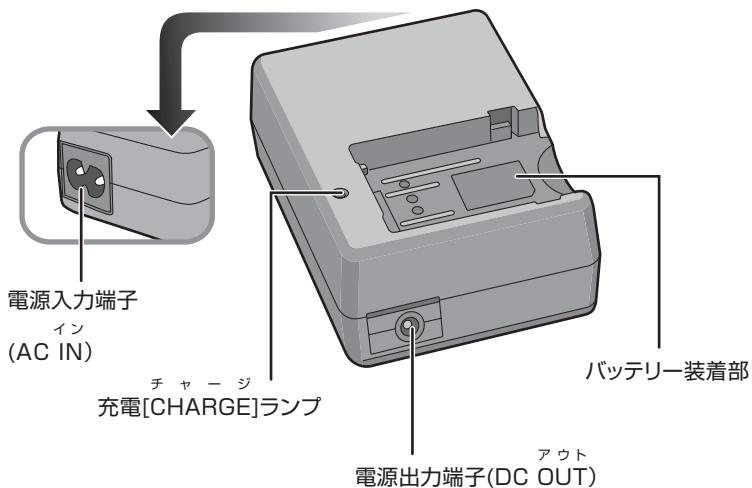
◀(左)/オートフォーカスモード(P74)

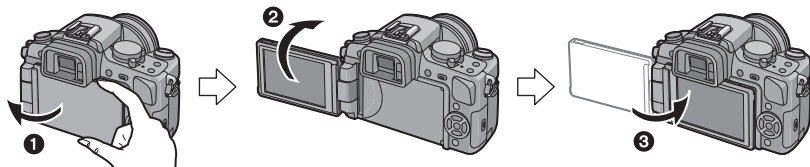
▼(下)/ Fn (P34)（ファンクション）　▶(右)/ WB (P81)（ホワイトバランス）

以下のメニューを割り当てることができます。
画像横縦比/クオリティ/測光モード/暗部補正/ガイドライン表示

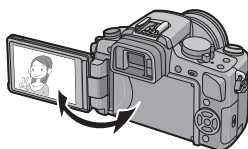
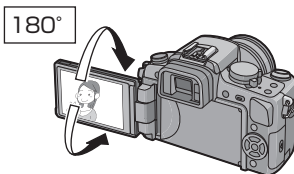
■ 同梱レンズ

H-FS014045（LUMIX G VARIO 14–45 mm/F3.5–5.6 ASPH./MEGA O.I.S.）

H-FS045200（LUMIX G VARIO 45–200 mm/F4.0–5.6/MEGA O. I .S.）

各部の名前（つづき）

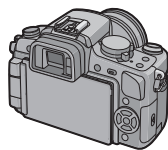
■ バッテリーチャージャー/ACアダプター(P23、137、138)

液晶モニターを回転させる

お買い上げ時、液晶モニターは収納状態になっています。
液晶モニターを下図のようにして液晶面を表にします。

❶ 液晶モニターを開く
（最大180°開きます）
❷ レンズ方向に180°回転させる
❸ 元の位置へ閉じる

液晶モニターの回転範囲

■ 左右開き方向

■ 前後回転方向

- レンズ方向に180°まで回転します。
- 手前に90°まで回転します。

お知らせ

- **液晶モニターは十分開いてから回転させ、無理な力を加えないようお気をつけください。故障の原因になります。**
- 液晶モニターの周囲を持つと、液晶モニターにムラが発生しますが、故障ではありません。また、撮影画像や再生画像にも影響はありません。
- 液晶モニターを使用しないときは、汚れや傷防止のため液晶モニターを内側に収納しておくことをおすすめします。

本機に使用可能なレンズ

本機は、DMC-G1KおよびDMC-G1Wに同梱の交換レンズなど、マイクロフォーサーズシステムのレンズマウント規格に準拠した専用レンズ(マイクロフォーサーズマウント)を使うことができます。
撮影シーン、目的に合わせてレンズを選択してください。
専用レンズ以外では、オートフォーカスや正確な測光はできません。また、働かない機能があります。

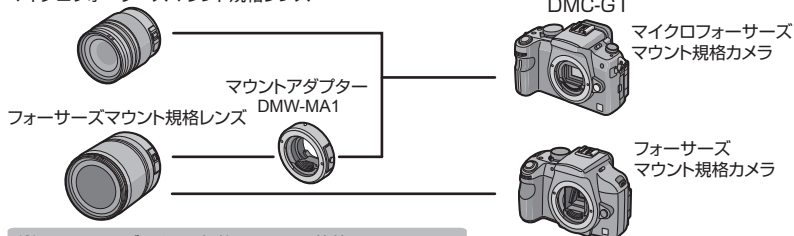
■ マイクロフォーサーズマウント

マイクロフォーサーズシステムのレンズマウント規格のことです。新たに開発されたデジタルカメラ専用の交換レンズです。

■ DMC-G1KおよびDMC-G1Wに同梱の交換レンズ以外を使用する場合

- レンズの種類によって縦位置検出機能(P41)、手ブレ補正(P104)、クイックAF(P109)、コンティニュアスAF(P109)などの使用できない機能があります。
- お使いのレンズの絞り値によって、フラッシュ撮影可能範囲などが異なります。
- 撮影の前にお使いのレンズでためし撮りをして確認してください。
- マウントアダプター(別売:DMW-MA1)を使用することで、フォーサーズ TM マウント規格のレンズを使用することもできます。ただし、[AFC]モード(P50)、コンティニュアスAF(P109)は使えません。コントラストAFに対応していないレンズをお使いの場合は、マニュアルフォーカス撮影のみのご使用となります。その他一部の機能に制限があります。

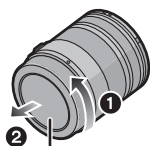
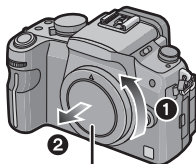
なお、マイクロフォーサーズマウント規格レンズはフォーサーズマウント規格のカメラでは構造上ご使用になれません。マイクロフォーサーズマウント規格カメラ専用です。

レンズ装着組み合わせ図

対応レンズの最新情報は、カタログ/ホームページなどをご覧ください。
http://panasonic.jp/support/dsc/

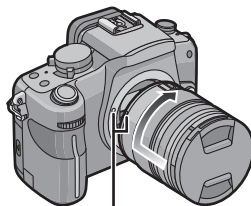
レンズを付ける・取り外す

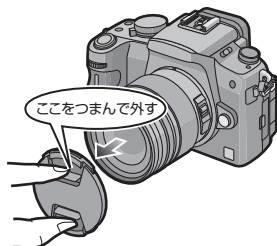
- 電源が[OFF]になっていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。

本体にレンズを付ける場合

1 レンズリアキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外す

- マウント内に指を入れないでください。

2 本体とレンズのレンズ取り付けマーク(赤いマーク)を合わせて、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回す

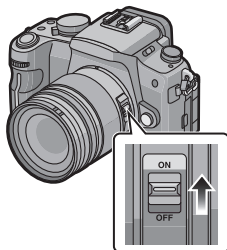
- レンズを付けるときは、レンズ取り外しボタンを押さないでください。
- レンズを本体に対して傾いた状態で付けようとすると、本体のレンズ取付部を傷つける恐れがありますのでお気をつけください。
- レンズが正しく付いていることを確認してください。

3 レンズキャップを外す

- レンズキャップを外して撮影してください。

レンズを付ける・取り外す（つづき）

■ 手ブレを補正するために

DMC-G1KおよびDMC-G1Wに同梱の交換レンズには、手ブレ補正機能があります。
本体にレンズを付けたときに、手ブレ補正機能が働くように設定します。

レンズのOISスイッチを [ON] にする

- 撮影メニューの[手ブレ補正]で、手ブレ補正のモードを[MODE1]、[MODE2]または[MODE3]に切り換えることができます。(P104)お買い上げ時は、[MODE1]に設定されています。
- 三脚を使用するときは、OISスイッチを[OFF]に設定することをおすすめします。[OFF]に設定すると、液晶モニター/ファインダーに[((✋OFF]が表示されます。

本体からレンズを取り外す場合

1 レンズキャップを付ける

2 レンズ取り外しボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に止まるまで回して外す

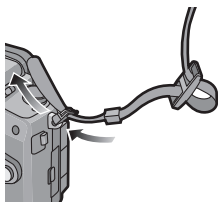
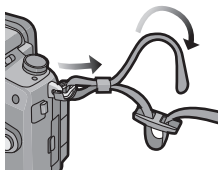
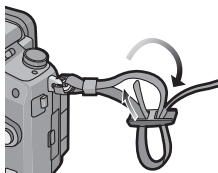
- 本体の内部にごみやほこりが付着するのを防ぐために、必ずボディキャップを付けてください。
- レンズの接点を傷つけないように、必ずレンズリアキャップを付けてください。

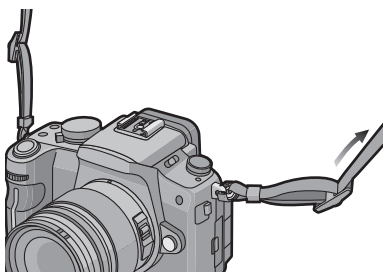
お知らせ

- レンズの交換は、ごみやほこりの少ない場所で行ってください。ごみなどが付着した場合は、157ページをお読みください。
- 電源を[OFF]にしているときや持ち運びするときは、レンズ面の保護のため、レンズキャップを付けてください。
- **ボディキャップ、レンズキャップ、レンズリアキャップの紛失にお気をつけください。**

ストラップを付ける

● 落下防止のため、ストラップを取り付けてご使用いただくことをおすすめします。

1 ストラップを本体のストラップ取付部にとおす

2 矢印に従って、ストラップの端をリングにとおしたあと、留め具にとおす

3 ストラップの端を留め具のもう一方の穴にとおす

4 ストラップのもう一方を引いて、抜けないことを確認する

● 手順**1**～**4**の操作を行って、もう片方のストラップも取り付けてください。

お知らせ

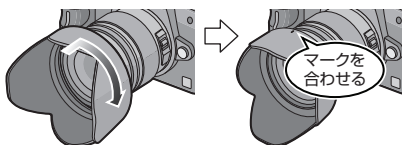
● ストラップは必ず手順に従って正しく取り付けてください。
● ストラップがしっかり付けられていることを確認してください。
● LUMIX のロゴが外側になるように付けてください。

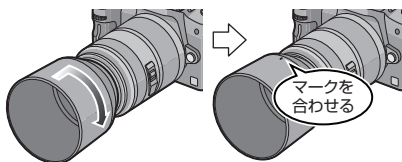
準備

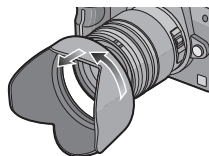
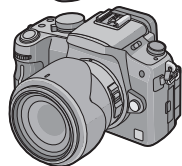
レンズフードを付ける

日差しの強い中、逆光時のゴーストやフレアを軽減します。余分な光をさえぎり、より美しく撮れます。
- 電源が[OFF]になっていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。
- レンズフードに記載されている品番を確かめてから、レンズに取り付けてください。

DMC-G1KおよびDMC-G1Wに同梱の交換レンズ14–45 mm/F3.5–5.6に付属しているレンズフード(花型)を取り付ける場合

レンズフードの短いほうを上下にしてレンズに挿入し、矢印の方向へ止まるまで回す

DMC-G1Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6に付属しているレンズフードを取り付ける場合

レンズフードをレンズに挿入し、矢印の方向へ止まるまで回す

■ 一時的にレンズフードを外して運ぶ場合(仮収納)

1 レンズフードを矢印の方向に回して取り外す

2 レンズフードの向きを逆にし、上記と同じ操作でレンズフードを付ける
- レンズキャップを付けてください。
- 仮収納時は、確実にレンズフードが付いていることを確認して、画像にレンズフードが映っていないことを確認してください。

お知らせ
- 花型レンズフードの付け外しは、レンズフードの短いほうを持って行ってください。
- フラッシュ使用時にレンズフードを付けていると、フラッシュ光がレンズフードにさえぎられ、画面の下が暗く(ケラレ)なり、調光もできなくなります。レンズフードを外して使用することをおすすめします。
- 暗いところでAF補助光を使用するときは、レンズフードを外してください。

バッテリーを充電する

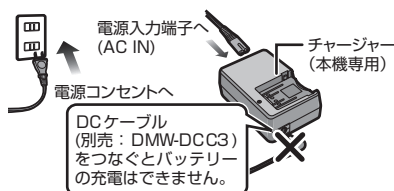
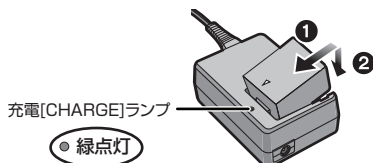
■ 本機で使えるバッテリー(2008年10月現在)

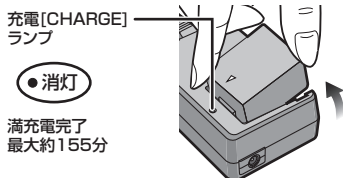
本機で使えるバッテリーはDMW-BLB13です。

パナソニック純正品に非常によく似た外観をした模造品のバッテリーが一部海外で流通していることが判明しております。このようなバッテリーの模造品の中には、一定の品質基準を満たした保護装置を備えていないものも存在しており、そのようなバッテリーを使用した場合には、発火・破裂等を伴う事故や故障につながる可能性があります。安全に商品をご使用いただくために、バッテリーを使用するパナソニック製の機器には、弊社が品質管理を実施して発売しておりますパナソニック純正バッテリーのご使用をおすすめいたします。
なお、弊社では模造品のバッテリーが原因で発生した事故・故障につきましては、一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

- **本機専用のチャージャーとバッテリーを使用してください。**
- **お買い上げ時、バッテリーは充電されていませんので、充電してからお使いください。**
- チャージャーは屋内で使用してください。
- 充電は周囲の温度が10 ℃～35 ℃(バッテリーの温度も同様)のところで行ってください。

準備

1 電源コードをつなぐ

2 バッテリーの向きに気をつけて、バッテリーを差し込む

3 充電が完了したらバッテリーを取り外す

- 充電が完了すると、チャージャーの[CHARGE] ランプが消灯します。

バッテリーを充電する（つづき）

■ 充電ランプが点滅するときは

- バッテリーの温度が高すぎる、あるいは低すぎます。充電時間が通常よりも長くなります。または充電が完了しない場合があります。
- チャージャーやバッテリーの端子部が汚れています。このようなときは、汚れを乾いた布でふき取ってください。

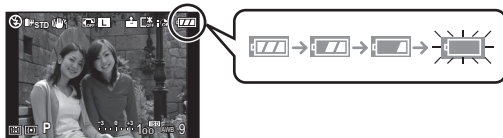
お知らせ

- 充電完了後は、電源コンセントから外してください。
- 使用後や充電中、充電後はバッテリーが温かくなります。また使用中は本機も温かくなりますが、異常ではありません。
- 充電完了後にバッテリーを長期間放置すると、バッテリーは消耗します。
- バッテリー残量が残っていても、そのまま充電できますが、満充電での頻繁な継ぎ足し充電はおすすめできません。（使用時間が短くなり、バッテリーが膨らむ特性があります）
- 正しく充電したにもかかわらず、著しく使用できる時間が短くなったときは、寿命と考えられます。新しいバッテリーをお買い求めください。
- **チャージャーは海外でも使うことができます。(P138)**
- **電源プラグの接点部周辺に金属類(クリップなど)を放置しないでください。ショートや発熱による火災や感電の原因になります。**

バッテリーについて（充電・記録可能枚数）

■ バッテリー残量表示について

残量表示が液晶モニター/ファインダーに表示されます。
[ACアダプター(P137)につないで使用するときは表示されません]

- バッテリー残量がなくなると表示が赤に変わり点滅します。(電源表示ランプも点滅します)
  バッテリーを充電または満充電されたバッテリーと交換してください。

■ 電池寿命について

記録可能枚数	約330枚	条件はCIPA規格でプログラムAEモード時
撮影使用時間	約165分	

CIPA規格による撮影条件

- CIPAは、カメラ映像機器工業会(Camera & Imaging Products Association)の略称です。
- 温度23 ℃/湿度50%、液晶モニターを点灯※
- 当社製のSDメモリーカード(512 MB)使用
- 付属バッテリー使用
- DMC-G1KおよびDMC-G1Wに同梱の交換レンズ 14–45 mm/F3.5–5.6使用
- 電源を入れてから30秒経過後、撮影を開始(手ブレ補正[MODE1]使用)
- **30秒間隔で1回撮影**、フラッシュを2回に1回フル発光
- 10枚撮影ごとに電源を切り、バッテリーの温度が下がるまで放置

※[オートパワーLCD]または[パワーLCD](P36)時は記録可能枚数が減少します。

記録可能枚数は撮影間隔によって変わります。撮影間隔が長くなると記録可能枚数は減少します。[例えば2分に1回撮影した場合は、上記(30秒に1回撮影)の枚数の約1/4(約82枚)になります]

ファインダー使用時の記録可能枚数(条件は上記 CIPA 規格と同じ)

記録可能枚数	約350枚
撮影使用時間	約175分

液晶モニター使用時の再生時間

再生時間	約330分

記録可能枚数/再生時間は、バッテリーの保存状態や使用条件によって多少変わります。

■ 充電について

充電時間	最大約155分

別売のバッテリーパック(DMW-BLB13)の充電時間と**記録可能枚数**は、付属のバッテリーパックの場合と同じです。
充電時間は、バッテリーの状態や充電環境によって多少変わります。
充電が正しく完了すると、チャージャーの[CHARGE]ランプが消灯します。

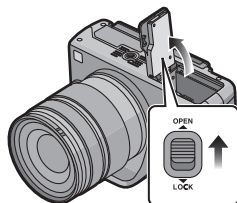
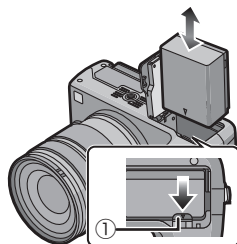
お知らせ

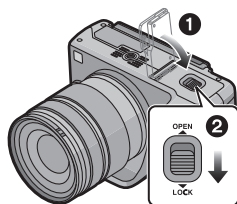
- バッテリーは、充電回数が増えると、使用時間が短くなり、膨らむ特性を持っています。長く使用するためには、頻繁な継ぎ足し充電を避けてお使いいただくことをおすすめします。
- スキー場などの低温下では、バッテリーの性能が一時的に低下し、使用時間が短くなる場合があります。

準備

バッテリーを入れる・取り出す

- 電源が[OFF]になっていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。

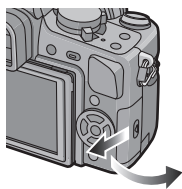
1 開閉レバーを矢印の方向(OPEN側)にスライドさせて、バッテリー扉を開く

2 向きに気をつけて、奥まで入れる 取り出すときは、①のレバーを矢印の方向に引いて取り出す

3 ❶バッテリー扉を閉じる

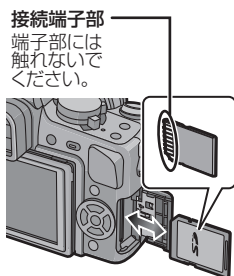
❷開閉レバーを矢印の方向(LOCK側)にスライドさせて確実に閉じる

お知らせ

- 使用後は、バッテリーを取り出しておいてください。
- 電源を[ON]にしたまま、バッテリーを取り出さないでください。カメラの設定が正しく保存されない可能性があります。
- 付属のバッテリーは、本機専用です。本機以外で使わないでください。
- バッテリーは当社製のものをお使いください。
- バッテリーの取り出しは、電源を切り、電源表示ランプが完全に消えてから行ってください。(本機が正常に動作しなくなったり、カードや撮影内容が壊れる場合があります)

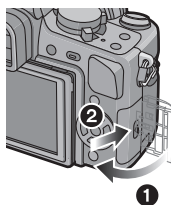
カード（別売）を入れる・取り出す

- 電源が[OFF]になっていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。
- カードは当社製のものをお使いいただくことをおすすめします。

1 カード扉をスライドさせて開く

2 向きに気をつけて、「カチッ」と音がするまで奥まで入れる 取り出すときは、「カチッ」と音がするまで押し、まっすぐ引き抜く

- カードを奥まで入れないと、カードが壊れる原因になることがあります。

3 ❶カード扉を閉じる

❷最後までスライドさせて確実に閉じる

- カード扉が完全に閉じない場合は、一度カードを取り出してから、もう一度入れ直してください。

お知らせ

- 必ず電源を[OFF]にしてから、カード扉を開けてください。
- カードの取り出しは、電源を切り、電源表示ランプが完全に消えてから行ってください。（本機が正常に動作しなくなったり、カードや撮影内容が壊れる場合があります）

カードについて

カードアクセス中は・・・

カードに画像を記録しているときは、アクセス表示が点灯します。

（アクセス表示）
アクセス表示は赤く点灯します。

カード

本機では、以下のカードが使用できます。（本書では、これらを**カード**と記載しています）

カードの種類	特長
SDメモリーカード(8 MB～2 GB) （SD規格に準拠したFAT12、FAT16形式でフォーマット済み）	●記録/読み出し速度が速い。 ●書き込み禁止スイッチが付いています。（スイッチを「LOCK」側にすると、データの書き込みや消去、フォーマットはできなくなります。戻すと可能になります。） 書き込み禁止スイッチ 2GB
SDHCメモリーカード (4 GB、6 GB、8 GB、12 GB、16 GB、32 GB)※ （SD規格に準拠したFAT32形式でフォーマット済み）	
マルチメディアカード	―
miniSDカード	●本機で使用する場合は、専用のアダプターを必ず装着してお使いください。（アダプターのみを本機に挿入すると、正常に動作しません。必ず、カードを入れてお使いください。）
microSDカード/microSDHCカード	

※2006年にSDアソシエーションにより策定された、2 GBを超える大容量メモリーカードの新規格です。
※SDHCメモリーカード対応の機器で使用できますが、SDメモリーカードのみに対応した機器では使用することができません。（必ずお使いの機器の説明書をお読みください）

- 4 GB以上のカードはSDHCロゴのある（SD規格準拠）カードのみ使用できます。
- **最新情報は下記サポートサイトでご確認ください。**
  http://panasonic.jp/support/dsc/

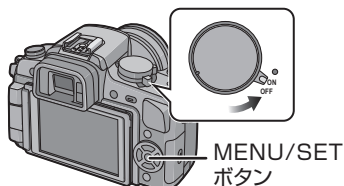
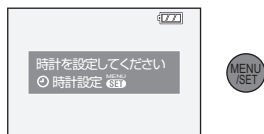
お知らせ

- **アクセス表示点灯中、画像の読み出しや削除、フォーマット(P38)中などは、電源を切ったり、バッテリーやカード、DCケーブル(別売:DMW-DCC3)（ACアダプター使用時）を取り外さないでください。また、本機に振動や衝撃を与えないでください。**
  カードやカードのデータが壊れたり、本機が正常に動作しなくなることがあります。
- カードに記録されたデータは電磁波、静電気、本機やカードの故障などによりデータが壊れたり消失することがあります。大切なデータはパソコンなどに保存することをおすすめします。
- パソコンやその他の機器でフォーマットした場合、もう一度本機でフォーマットしてください。（P38）

時計を設定する

●お買い上げ時は、時計設定されていません。

1 電源を[ON]にする

●「時計を設定してください」が表示されます。

2 [MENU/SET]を押す

3 ◀/▶で合わせたい項目(年・月・日・時・分・表示順・時刻表示形式)を選び、▲/▼で設定する

●表示順を変えると、以下のように表示されます。
(例:2008年12月1日10時00分)
・[年/月/日]:2008/12/ 1 10:00
・[日/月/年]:10:00 1/DEC/2008
・[月/日/年]:10:00 DEC/ 1/2008
●時刻表示形式は[24時間]または[AM/PM]から選択します。
●[AM/PM]表示に切り換えた場合は、AM/PMが表示されます。
●時刻表示形式を[AM/PM]に設定すると、午前0:00はAM12:00、午後0:00はPM12:00で表示されます。この表示は、アメリカなどで一般的に使用されている表示方法です。
●[⏏]を押すと、時計を設定せずに中止します。

:ホームの時間
:旅行先の時間(P139)

表示順　時刻表示形式

4 [MENU/SET]を押して決定する

●時計設定終了後、一度電源を[OFF]にしてからもう一度[ON]にして、設定どおり表示されているか確認してください。

時計設定を変更する

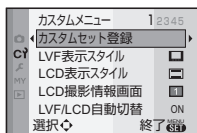
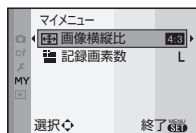
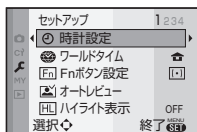
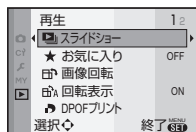
セットアップメニューの[時計設定]を選び、▶を押してください。(P31)
●上記の手順**3**、**4**の操作で変更できます。
●**バッテリーなしでも約3ヵ月間、時計用内蔵電池を使って時計設定を記憶できます。(内蔵電池を充電するには、満充電されたバッテリーを本機に約24時間入れてください)**

お知らせ

●撮影時に[DISPLAY]を数回押すと、時計が表示されます。
●年は2000年から2099年まで設定できます。
●時計設定を行っていないと、お店にプリントを依頼するときに、正しい日付をプリントすることができませんのでお気をつけください。
●時計設定を行っていれば、カメラの画面上に日付が表示されていなくても、正しく日付をプリントできます。

メニューを使って設定する

お好みの撮影や再生ができるように設定したり、より楽しく、使いやすくするためのメニューを用意しています。
特に「セットアップメニュー」は、本機の時計や電源に関する大切な設定です。ご使用の前に、設定を確認してください。

[📷](撮影メニュー)(P102～107)	
● 横縦比、画素数などをお好みで設定できます。 	
[C](カスタムメニュー)(P108～111)	[MY](マイメニュー)
● 画面の表示方法やボタンの働きなど、本機の操作をお好みに応じて設定できます。また、変更した設定内容を登録しておくことができます。 	● 最近使用したメニュー項目を最大 5つまで記憶します。よく使うメニュー項目を簡単に呼び出すことができます。
[🔧](セットアップメニュー)(P34～38)	[▶](再生メニュー)(P112～119)
● 時計の設定や電子音の切り換えなど、使いやすさの設定ができます。 	● 画像の回転や保護、切り抜き、プリントするときに便利な設定(DPOF)など、撮影した画像に対して設定ができます。

■ 状況により設定できない/働かない機能について

本機では仕様上、お使いの状況により、設定できなくなったり、働かなくなる機能があります。詳しくは、146ページをお読みください。

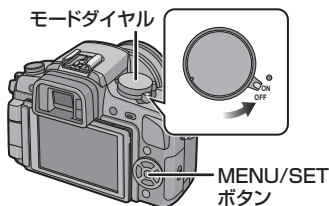
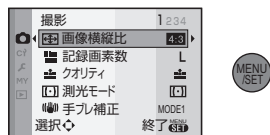
メニュー項目の設定方法

ここでは、撮影メニューの設定方法を説明していますが、カスタムメニューやセットアップメニュー、マイメニュー、再生メニューも同じ方法で設定できます。

● カスタムメニューの[メニュー位置メモリー](P111)を[ON]に設定していると、前回終了したメニュー項目を選択状態の画面になります。

例）プログラムAEモードで、[暗部補正]を[OFF]から[強]に設定する

1 電源を[ON]にする

2 モードダイヤルを[P]に合わせる

3 [MENU/SET]を押して メニューを表示させる

他のメニューとの切り換え

例）セットアップメニューとの切り換え

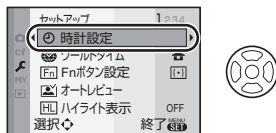
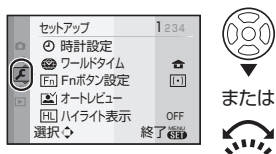
1 ◀を押す

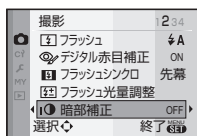
2 ▼または前ダイヤルを回してセットアップメニューアイコン[ ]を選ぶ

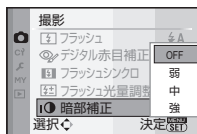
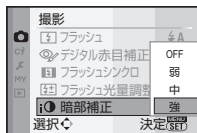
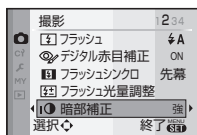
または

3 ▶を押す

● 続けてメニュー項目を選んで設定してください。

準備

4 ▲/▼または前ダイヤルを回して[暗部補正]を選ぶ

●一番下の項目を選んで、さらに▼を押す、または前ダイヤルを右に回すと、2画面目に移ります。

5 ▶または前ダイヤルを押す

●項目によっては、設定が表示されないものや、表示のされかたが異なるものがあります。

6 ▲/▼または前ダイヤルを回して[強]を選ぶ

7 [MENU/SET]または前ダイヤルを押して決定する

8 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

●シャッターボタン半押しでも終了できます。

クイックメニューを使って設定する

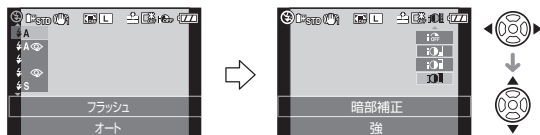
クイックメニューを使うと、一部のメニューを簡単に呼び出すことができます。
● モードによっては、設定できない項目もあります。

1 [Q.MENU]を押してクイックメニューを表示する

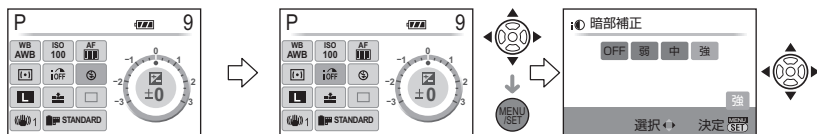
2 ▲/▼/◀/▶ または前ダイヤルで項目と設定内容を選ぶ

● 設定可能なメニュー項目が、選択時にオレンジ色で表示されます。
● 撮影時の表示画面によって設定方法は以下のように異なります。
表示画面については、58ページをお読みください。

[ ](液晶モニタースタイル)

● 項目と設定内容を選んだあと、下記手順4へ進んでください。

[ ](液晶モニタースタイル)のLCD撮影情報画面

● 項目を選び、[MENU/SET]を押したあと、設定内容を選びます。

[ ](ファインダースタイル)

● 項目を選び、前ダイヤルを押したあと、設定内容を選びます。

3 [MENU/SET]または前ダイヤルを押して決定する

4 [Q.MENU]を押して、クイックメニューを終了する

● シャッターボタン半押しでも終了できます。

準備

必要に応じて設定してください。

セットアップメニューを使う

[時計設定]、[オートレビュー]、[エコモード]は大切な項目です。ご使用の前に設定を確認してください。

● インテリジェントオートモード時は、[時計設定]、[ワールドタイム]、[電子音]のみ設定できます。

項目	設定(▶はお買い上げ時の設定です)・お知らせ
時計設定 日付や時刻を変更するときに設定します。	● 詳しくは、29ページをお読みください。
ワールドタイム お住まいの地域と海外などの旅行先の時刻を設定します。	[旅行先]: 旅行先の地域 ▶ [ホーム]: お住まいの地域 ● 詳しくは、139ページをお読みください。
Fn **Fn(ファンクション)ボタン設定** ▼ボタンに撮影メニューまたはカスタムメニューを割り当てます。よく使う機能を登録しておくと、便利にお使いいただけます。	[画像横縦比] [クオリティ] ▶ [測光モード] [暗部補正] [ガイドライン表示] ● 撮影メニューの詳細については、102ページをお読みください。 ● ガイドライン表示の詳細については、108ページをお読みください。
オートレビュー 撮影後に撮影画像を表示する時間を設定します。	[レビュー]: [OFF] [1秒] ▶ [3秒] [5秒] [ホールド]: シャッターボタン半押しまで表示 [ズーム]: 4倍拡大で表示 ▶ [OFF] [1秒] [3秒] [5秒] ● [ホールド]に設定した場合、単写(P49)、セルフタイマー撮影(P73)時は、オートレビュー中に再生画面の表示切り換え(P54)などができます。 ● [ホールド]に設定した場合、ズーム時間の設定は無効になります。 ● 連写(P69)、オートブラケット撮影(P71)時は、オートレビューの設定にかかわらず、オートレビューされます。(拡大/ホールドはされません)オートレビューの設定はできません。 ● [ハイライト表示](P35)を[ON]に設定していると、オートレビュー時に白とびの起こっている部分が黒と白の点滅で表示されます。

項目	設定(▶はお買い上げ時の設定です)・お知らせ
HL ハイライト表示 オートレビューまたは再生時に、白とびの起こっている部分を黒と白の点滅で表示します。	▶ [OFF] [ON] ●白とびが起こっている場合は、ヒストグラム(P61)を参考に、露出をマイナス方向に補正して(P68)再度撮影することをおすすめします。 ●フラッシュ撮影時、被写体からの距離が近すぎると白とびが起きる場合があります。このとき、ハイライト表示を[ON]に設定していると、フラッシュ光が当たったところが白とびとなって、黒と白の点滅で表示されます。 ハイライト表示[ON] ハイライト表示[OFF]
ECO エコモード 設定した時間の間に何も操作しないと、自動的に電源を切ります。 また、使用しない間、液晶モニターを自動的に消灯することで、バッテリーの消耗を防ぎます。	[パワーセーブ]: 設定した時間の間に何も操作をしないと、自動的に電源を切ります。 [OFF] [1分] [2分] ▶ [5分] [10分] [自動液晶OFF]: 設定した時間の間に何も操作をしないと、自動的に液晶モニターを消灯します。 ▶ [OFF] [15秒] [30秒] ●[パワーセーブ]を解除する場合は、シャッターボタンを半押しするか、電源を[OFF]にしてからもう一度[ON]にしてください。 ●インテリジェントオートモード時は、[パワーセーブ]は[5分]に固定されます。 ●[自動液晶OFF]を[15秒]または[30秒]に設定すると[パワーセーブ]は[2分]に固定されます。 ●液晶モニターを再度点灯させるには、いずれかのボタンを押してください。 ●カスタムメニューの[LVF/LCD自動切替](P108)を[OFF]にして使用することをおすすめします。

準備

必要に応じて設定してください。

セットアップメニューを使う（つづき）

項目	設定（▶ はお買い上げ時の設定です）・お知らせ
液晶調整 / LVF調整 液晶モニター/ファインダーの明るさや色合いを7段階に調整します。	● ▲/▼ で画面の明るさを、◀/▶ または前ダイヤルでコントラストと彩度を調整します。 ● 液晶モニター表示時は液晶モニターを、ファインダー表示時はファインダーを調整します。
LCDモード 屋外などの明るい場所で液晶モニターが見にくいときに見やすくします。	▶ [OFF] [**（オートパワーLCD）**]：周囲の明るさに応じて、自動的に明るさを調整します。 [**（パワーLCD）**]：液晶モニターが通常より明るくなり、屋外でも見やすくなります。 ● 液晶モニターの画面に表示される画像の明るさを強調しているため、被写体によっては実際と違って見える場合がありますが、記録される画像に影響はありません。 ● [パワーLCD]の液晶モニターの画面は、撮影時、30秒間何も操作しないと、自動的に通常の明るさに戻ります。いずれかのボタンを押すと、再び明るく点灯します。 ● 太陽光などが反射して画面が見にくい場合は、手などでさえぎってください。 ● [オートパワーLCD]または[パワーLCD]時は記録可能枚数が減少します。
番号リセット 次に撮影される画像のファイル番号を0001にします。	● フォルダー番号が更新され、ファイル番号が0001から始まります。（P121） ● フォルダー番号は100～999まで作成されます。フォルダー番号が999になると番号リセットができなくなりますので、データをパソコンなどに保存してフォーマット（P38）することをおすすめします。 ● フォルダー番号を100にリセットするには、まずカードをフォーマットしてから、[番号リセット]を実行し、ファイル番号をリセットしてください。そのあと、フォルダー番号のリセット画面が表示されますので、[はい]を選びます。

項目	設定(▶ はお買い上げ時の設定です)・お知らせ
設定リセット 設定をお買い上げ時の状態に戻します。	**撮影設定** **セットアップ/カスタム設定** ● セットアップ/カスタム設定をリセットすると、以下の設定内容もリセットされます。また、再生メニューの[お気に入り](P113)は[OFF]、[回転表示](P114)は [ON]になります。 ・フィルムモード(P86) ・シーンモードの[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2](P98)、[ペット](P98)の誕生日設定 ・[ワールドタイム](P139)の設定内容 ● フォルダー番号、時計の設定は変わりません。
電子音 フォーカス音、セルフタイマー作動音、警告音を設定します。	[ ]: なし ▶ [ ]: 小 [ ]: 大
ビデオ出力 各国のカラーテレビ方式に合わせて設定します。	▶ [NTSC]: 日本やアメリカなど [PAL]: ヨーロッパなど ● ビデオケーブル、HDMIミニケーブル(別売)接続時に働きます。
TV画面タイプ テレビの種類に合わせて設定します。	[16:9]: 画面が16:9のテレビと接続時 ▶ [4:3]: 画面が4:3のテレビと接続時 ● ビデオケーブル接続時に働きます。
HDMI出力解像度 HDMIミニケーブル(別売)を使って本機をHDMI対応のハイビジョンテレビに接続して再生する際に、HDMI出力の映像方式を設定します。	▶ [AUTO]: 接続したテレビからの情報を元に、自動的に出力解像度を決定します。 [1080i]: 有効走査線数1080本のインターレース方式で出力します。 [480p]※1/[576p]※2: 有効走査線数480本(または576本)のプログレッシブ方式で出力します。 ※1 [ビデオ出力]を[NTSC]に設定しているとき ※2 [ビデオ出力]を[PAL]に設定しているとき **インターレース方式/プログレッシブ方式について** 1/60秒ごとに有効走査線を半分に分けて交互に流すi=インターレース(飛び越し走査)に対し、1/60秒ごとに有効走査線を同時に流す高密度な映像信号をp=プログレッシブ(順次走査)といいます。 本機の[HDMI]端子はハイビジョン映像出力[1080i]に対応しています。プログレッシブ映像、ハイビジョン映像を楽しむにはそれぞれ対応テレビが必要です。 ● [AUTO]に設定していて映像がテレビに出ないときは、[1080i]または[480p]([576p])に切り換えて、お使いのテレビが表示できる映像方式に合わせてください。(テレビの説明書もお読みください) ● HDMIミニケーブル(別売)接続時に働きます。 ● 詳しくは、127ページをお読みください。

準備

セットアップメニューを使う（つづき）

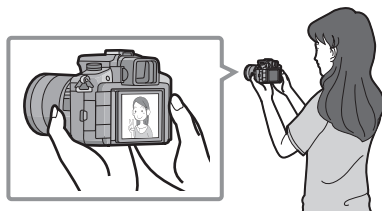
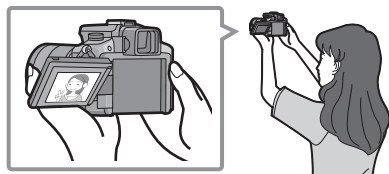
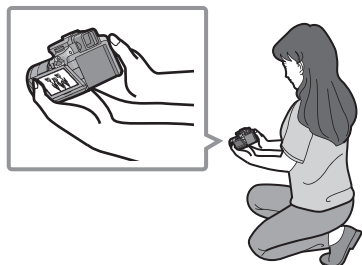
セットアップメニューの設定方法はP31へ

項目	設定（▶ はお買い上げ時の設定です）・お知らせ
ビエラリンク 本機とHDMIミニケーブル（別売）を使って接続したビエラリンク対応機器を自動的に連動させ、ビエラのリモコンで操作できるように設定します。	[OFF]：本機のボタンでの操作になります。 ▶ [ON]：ビエラリンク対応機器のリモコンで操作ができるようになります。（すべての操作はできません） 本機のボタンでの操作は制限されます。 ● HDMIミニケーブル（別売）接続時に働きます。 ● 詳しくは、129ページをお読みください。
Ver. **バージョン表示** 本体とレンズのファームウェアバージョンを確認できます。	● レンズを取り付けていないときは、レンズファームウェアは［–.–］と表示されます。
SCN **シーンメニュー** モードダイヤルを / / / / / SCN に切り換えたときに表示される画面を設定します。	[OFF]：現在選択されているアドバンスシーンモード（P93）や、シーンモード（P97）の撮影画面を表示 ▶ [AUTO]：アドバンスシーンモードや、シーンモードの選択画面を表示
USB **USBモード** USB接続ケーブル（付属）を使って本機をパソコンやプリンターに接続する際に、USB通信方式を設定します。	▶ [接続時に選択]：パソコンまたはPictBridge対応プリンターに接続したときに、[PC]または[PictBridge（PTP）]のいずれかを選択します。 [PC]：パソコンに接続する場合に設定します。 [PictBridge（PTP）]：PictBridge対応プリンターに接続する場合に設定します。 ● [PC]に設定すると、USBの Mass Storage（マス ストレージ）通信方式で接続されます。 ● [PictBridge（PTP）]に設定すると、USBのPTP（Picture Transfer Protocol）（ピクチャー トランスファー プロトコル）通信方式で接続されます。
フォーマット カードをフォーマット（初期化）します。**フォーマットするとデータを元に戻すことができませんので、よく確認してからフォーマットしてください。**	● フォーマットするときは、十分に充電されたバッテリーまたはACアダプター（P137）を使用し、フォーマット中は電源を[OFF]にしないでください。 ● 他の機器でフォーマットしたカードは、もう一度本機でフォーマットしてください。 ● フォーマットできないときは、お買い上げの販売店へご連絡ください。

液晶モニター/ファインダーについて

液晶モニターについて

液晶モニターの角度を調節すると、さまざまなアングルからの撮影が可能になり便利です。(P17)

■ 通常撮影時

■ ハイアングル撮影時

液晶モニターを手前に180°開き、角度を調節する。

- 前に人がいて、被写体に近づけないときなどに便利です。

■ ローアングル撮影時

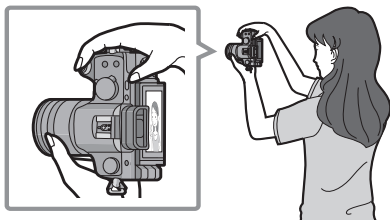
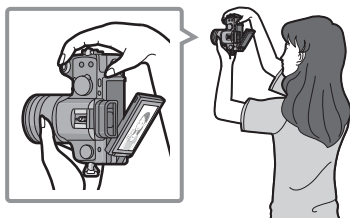
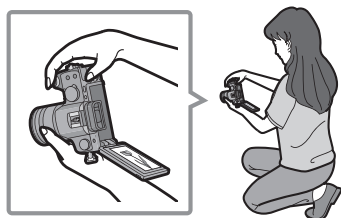
液晶モニターを手前に180°開き、角度を調節する。

- 低い位置にある花などを撮影するときなどに便利です。

■ 縦撮影時

液晶モニターを開き、見やすい角度に回転させる。

● AF補助光ランプ(P13)を指などでふさがないでください。

通常撮影時

ハイアングル撮影時

ローアングル撮影時

縦位置検出機能について

本機を縦に構えて撮影した画像を、再生時に自動で縦向きに表示することができる機能です。([回転表示](P114)を[ON]に設定している場合のみ)

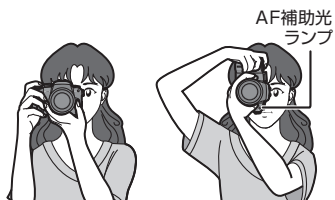
- 本機を上に向けたり、下に向けたりして撮影すると、画像を縦向きに表示できない場合があります。
- 縦位置検出機能は、対応したレンズ(P18)を使用しているときのみ使えます。
  (対応レンズについては、カタログ/ホームページなどをご覧ください)

液晶モニターとファインダーを切り換える

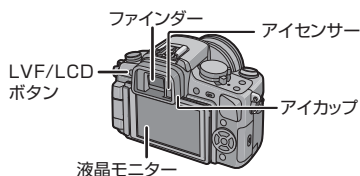
■ アイセンサー自動切り換えについて

カスタムメニューの[LVF/LCD自動切替](P108)を[ON]に設定しているときにはアイセンサーが働き、ファインダーに目や物を近づけるとファインダー表示に、離すと液晶モニター表示に自動的に切り換えます。

- 液晶モニターが点灯しているときは、ファインダーは消灯し、ファインダーが点灯しているときは、液晶モニターは消灯します。
- お使いの眼鏡の形状やカメラの構えかた、または接眼部付近に強い光が当たることなどにより、アイセンサーが正しく働かない場合があります。その場合は手動で切り換えてください。
- アイセンサー自動切り換えはアイセンサーに近づく物を認識すると働きますので、[エコモード](P35)を使用する場合は[LVF/LCD自動切替]を[OFF]に設定することをおすすめします。

AF補助光ランプ

縦に構える場合

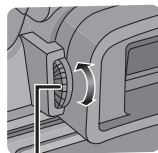
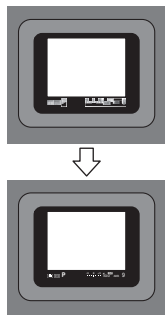
[LVF/LCD]を押して切り換える

- LCD(液晶モニター)表示と、LVF(ファインダー)表示を手動で切り換えることができます。LVFとは「Live View Finder」の略で、ファインダー表示を表します。

■ 視度調整について

使う前に、視力に合わせてファインダー内の表示がよく見えるようにします。

ファインダー内の表示を見て、はっきり合うところまで視度調整ダイヤルを回して調整してください。

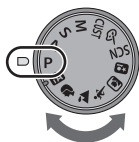
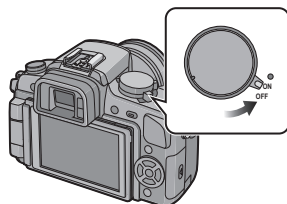
お知らせ

- アイカップは取り外しできません。汚れた場合などお手入れの際は、157ページをお読みください。

撮影モードを選ぶ

撮影モードを切り換えると、被写体や撮影状況に合わせてカメラが最適な設定を行うインテリジェントオートモードや、目的に適した撮影ができるシーンモードなどに設定することができます。

1 電源を [ON] にする

2 モードダイヤルを切り換える

- モードダイヤルはゆっくり回して確実に各モードに合わせてください。(モードダイヤルは360°回転します)

▭ の部分に使用したいモードを合わせる

基本

iA インテリジェントオートモード P44

カメラにおまかせで撮影します。

P プログラムAEモード P49

お好みの設定で撮影します。

応用

A 絞り優先AEモード P89
絞り値を決めて撮影します。

S シャッター優先AEモード P89
シャッタースピードを決めて撮影します。

M マニュアル露出モード P90
絞り値とシャッタースピードを決めて撮影します。

CUST カスタムモード P101
あらかじめ登録しておいた設定で撮影します。

マイカラーモード P99
光の色、明るさ、色の鮮やかさを手軽に確認しながら撮影します。

SCN シーンモード P97
撮影シーンに合わせて撮影します。

アドバンスシーンモード

人物モード P94
人物を撮影します。

風景モード P94
風景を撮影します。

スポーツモード P95
スポーツシーンを撮影します。

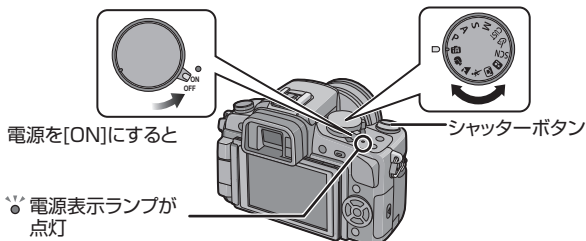
クローズアップモード P95
近くにある被写体を撮影します。

夜景&人物モード P96
夜景や夜景を背景にした人物を撮影します。

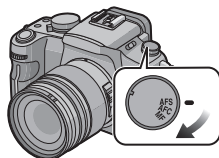
撮影モード: iA

カメラにおまかせで撮る（iA：インテリジェントオートモード）

被写体や撮影状況に合わせてカメラが最適な設定を行うので、カメラまかせで気軽に撮りたいときや初心者におすすめです。

- 以下の機能が自動的に働きます。
  - ・自動シーン判別/デジタル赤目補正/顔認識/インテリジェントISO/暗部補正/長秒ノイズ除去/クイックAF/フォーカス優先/逆光補正

1 モードダイヤルを[iA]に合わせる

2 フォーカスモードダイヤルを[AFS]または[AFC]に合わせる

- [AFS]および[AFC]については、50ページをお読みください。

3 両手で軽く持ち、脇を締め、肩幅くらいに足を開いて構える

AF補助光ランプ

シャッターボタンを半押し(軽く押す)してピントを合わせる

- ピントが合うと、フォーカス表示(緑)が点灯します。
- 顔認識機能により、顔に合わせてAFエリアが表示されます。その他の場合は、ピントの合ったところにAF エリアが表示されます。
- ピントが合っていないときは、フォーカス表示が点滅します。この場合は撮影されませんので、再度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ直してください。
- ピントが合う範囲は、使用するレンズによって異なります。
  - · DMC-G1KおよびDMC-G1Wに同梱の交換レンズ14–45 mm/F3.5–5.6装着時:0.3 m～∞
  - · DMC-G1Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6装着時:1.0 m～∞

シャッターボタンを全押し(さらに押し込む)して撮影する

- ピントが合うまで、撮影できません。
- カードに画像を記録しているときは、アクセス表示(P28)が赤く点灯します。

基本

お知らせ

- シャッターボタンを押す瞬間に、カメラが動かないようにお気をつけください。
- フラッシュ発光部やAF補助光ランプを指などでふさがないでください。
- レンズ部には触らないでください。
- 撮影時には、足場が安定していることを確認し、ボールや競技者などと衝突する恐れがある場所では周囲に十分お気をつけください。

■ フラッシュを使って撮影するときは(P62)

■ ズームを使って撮影するときは(P53)

■ マニュアルフォーカスを使って撮影するときは(P77)

カメラにおまかせで撮る（[iA]：インテリジェントオートモード）（つづき）

自動シーン判別について

カメラが最適なシーンを判別すると、各シーンのアイコンが2秒間青色で表示後、通常の赤色に変わります。

[iA] →

i人物	i風景	iマクロ
i夜景&人物 ・[⚡A]選択時のみ	i夜景 ・[⊛]選択時のみ	

- どのシーンにもあてはまらない場合は[iA]になり、標準的な設定を行います。
- [ ]と判別された場合に、三脚などを使用し、ブレの量が少ないとカメラが判断したとき、シャッタースピードは通常より遅くなります。撮影中はそのままカメラを動かさないようにお気をつけください。
- 追尾AF時（P75）は、指定した被写体に最適なシーンを判別します。

■ 顔認識について

[ ]、[ ]のときは、カメラが人の顔を自動的に検知し、認識した顔にピントや露出を合わせます。（P75）

お知らせ

- 以下のような条件によって、同じ被写体でも異なるシーンに判別される場合があります。
  - ・被写体条件
    顔の明暗/被写体の大きさ/被写体までの距離/被写体の濃淡/被写体が動いている場合
  - ・撮影条件
    夕暮れ/朝焼け/低照度/手ブレが発生した場合/ズーム倍率
- 意図したシーンで撮影したい場合は、目的に合った撮影モードで撮影することをおすすめします。

■ 逆光補正について

逆光とは、被写体の後ろ側から光が当たることです。このとき、被写体が暗く写りますので、画像全体を明るくすることにより逆光を補正します。インテリジェントオートモードでは自動で逆光補正が働きます。

追尾AF機能

指定した被写体にピントや露出を合わせることができます。さらに、被写体が動いても、自動でピントと露出を合わせ続けます。

1 ◀を押す

- 画面左下に[ ]が表示されます。
- 画面中央に追尾AF枠が表示されます。
- もう一度◀を押すと、追尾AFは解除されます。

2 被写体を追尾AF枠に合わせ、シャッターボタンを半押しして被写体にロックする

- 被写体を認識すると、AFエリアが緑色になります。
- シャッターボタンを離すと追尾AF枠が黄色に変わり、ロックした被写体に最適なシーンを判別します。
- ◀を押すと、ロックは解除されます。

露出を補正する

露出を補正して撮影することができます。詳しくは、68 ページをお読みください。

1　前ダイヤルを押して露出補正操作に切り換える

2　前ダイヤルを回す

- 露出補正値は、画面下部に表示されます。
- 露出を補正しない場合は、"0"を選んでください。

フラッシュについて

- **フラッシュを使うときは、フラッシュを開いてください。(P62)**
- 被写体の種類や明るさに応じて、[i⚡A]、[i⚡A◎]、[i⚡S◎]になります。
- フラッシュは2回発光します。特に[i⚡A◎]または[i⚡S◎]の場合は、デジタル赤目補正(P63)が働き、間隔が長くなりますので、2回目の発光終了まで動かないようにしてください。
- インテリジェントオートモードでは、メニューを使ってフラッシュのモードを切り換えることはできません。

インテリジェントオートモード時の設定内容

- 以下の機能のみ設定できます。

撮影メニュー

・[画像横縦比](P102)/[記録画素数](P102)/[クオリティ](P103)/[手ブレ補正]※(P104)

※[MODE1]または[MODE2]のみ設定できます。

カスタムメニュー

・[カスタムセット登録](P100)/[ガイドライン表示](P108)

セットアップメニュー

・[時計設定]/[ワールドタイム]/[電子音]

- フィルムモード(P86)は[スタンダード]、[スタンダード B&W (白黒)]のみ設定できます。

基本

カメラにおまかせで撮る（iA：インテリジェントオートモード）（つづき）

● 以下の設定項目は固定されます。

項目	設定内容
エコモード(パワーセーブ)(P35)	5分
フラッシュシンクロ(P67)	先幕
連写速度(P69)	H（高速）
オートブラケット(P71)	補正幅：3・1/3
	ブラケット順序：0/–/+
セルフタイマー(P73)	セルフタイマー10
オートフォーカスモード(P74)	顔認識（顔が認識されないときは[23点]）
ホワイトバランス(P81)	AWB
ISO感度(P84)	iISO（インテリジェントISO）（最高ISO感度は[ISO800]）
測光モード(P104)	マルチ測光
デジタル赤目補正(P105)	ON
暗部補正(P105)	中
色空間(P106)	sRGB
長秒ノイズ除去(P107)	ON
プリAF(P109)	Q-AF
フォーカス優先(P110)	ON
AF補助光(P110)	ON

● 以下の機能は使えません。
 ・[ハイライト表示]/[エコモード]の[自動液晶OFF]/AF/AEロック/
 ホワイトバランス微調整/ホワイトバランスブラケット/マルチフィルムブラケット/
 [フラッシュ光量調整]/[EX光学ズーム]/[デジタルズーム]/[ISO感度上限設定]/
 [AF/AEロック切替]/[AF/AEロック維持]/[ダイレクト1点AF移動]/[レンズ無しレリーズ]
● セットアップメニュー、カスタムメニューのその他の項目は、プログラムAEモードなどで設定することができます。
 設定した内容はインテリジェントオートモードに反映されます。

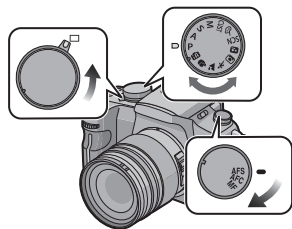
撮影モード：P

お好みの設定で撮る（P：プログラムAEモード）

インテリジェントオートモード(P44)で撮影するときよりも、多彩なメニューを設定し、さらに自由な撮影をすることができます。

● ドライブモードレバーを[□]に合わせる。

1 モードダイヤルを[P]に合わせる

● 撮影時の設定を変更したいときは、102ページの「撮影メニューを使う」、または108ページの「カスタムメニューを使う」をお読みください。

2 フォーカスモードダイヤルを[AFS]または[AFC]に合わせる

● [AFS]および[AFC]については、50ページをお読みください。

3 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせる

● ピントが合っていないときは、フォーカス表示が点滅します。この場合は撮影されませんので、再度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ直してください。

● ピントが合う範囲は、使用するレンズによって異なります。
- ・DMC-G1KおよびDMC-G1Wに同梱の交換レンズ14–45 mm/F3.5–5.6装着時：0.3 m～∞
- ・DMC-G1Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6装着時：1.0 m～∞

● シャッタースピードは、[ISO100]、開放絞り値F3.5（DMC-G1KおよびDMC-G1Wに同梱の交換レンズ14–45 mm/F3.5–5.6装着時）またはF4.0（DMC-G1Wに同梱の交換レンズ 45–200 mm/F4.0–5.6装着時）の場合、約8秒～1/4000秒の間で自動的に設定されます。

4 半押しのままさらにシャッターボタンを全押しして撮影する

● ピントが合うまで、撮影できません。

● ピントが合っていない場合でもシャッターボタンの全押しで撮影されるようにしたいときは、カスタムメニューの[フォーカス優先]を[OFF]に設定してください。(P110)

● カードに画像を記録しているときは、アクセス表示(P28)が赤く点灯します。

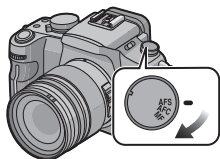
■ 画像が暗く写るときなどに、露出を補正して撮影するには(P68)

■ 画像が赤っぽく写るときなどに、色を調整して撮影するには(P81)

お好みの設定で撮る（P：プログラムAEモード）（つづき）

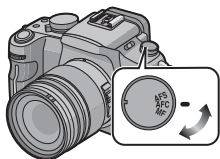
シャッターボタン半押しでピントを固定する（AFS）

フォーカスモードダイヤルを[AFS]に合わせる

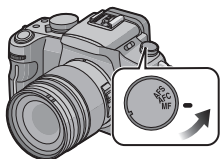
- AFSとは「Auto Focus Single」の略で、シャッターボタンを半押しすると、ピントが固定される機能です。
- 通常は[AFS]をお使いください。
- 連写時のピントは1枚目に固定されます。
  詳しくは、70ページをお読みください。

動きに合わせて連続的にピントを合わせる（AFC）

シャッターボタンを半押ししている間、被写体の動きに合わせて常にピント合わせを行うので、構図が決めやすくなります。
動いている被写体を撮影する場合は、予測してピント合わせを行います。（動体予測）

フォーカスモードダイヤルを[AFC]に合わせる

- AFCとは「Auto Focus Continuous」の略で、シャッターボタンを半押ししている間、被写体に合わせて常にピント合わせを行う機能です。
- ズームリングをW端からT端に回したり、急に被写体を遠くから近くに変えたあとは、ピントが合うまで時間がかかることがあります。
- 連写時はシャッターボタンを押したあともピントを合わせ続けます。詳しくは、70ページをお読みください。
- シャッターボタン半押し前にピントを合わせる動きについては、カスタムメニューの[プリAF]（P109）の項目をお読みください。
- [AFC]ではピントが合ってもフォーカス音は鳴りません。またオートフォーカスモードを[▦]に設定している場合は、AFエリアは表示されません。
- 明るさが足りないときは[AFS]になり、その際は被写体にピントが合うとAFエリアが表示され、フォーカス音が鳴ります。
- 撮影中、ピントが合いにくいときは、再度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ直してください。

マニュアルフォーカスで撮る（MF）

フォーカスモードダイヤルを[MF]に合わせる

- 詳しくは、77 ページをお読みください。

ピントの合わせかた

被写体を画面に合わせて、シャッターボタンを半押しする

ピント	合っている	合っていない
フォーカス表示	点灯	点滅
AFエリア	緑	―
音	ピピッ	―

※適正露出にならないときは、赤くなり点滅します。(ただし、フラッシュ発光時は除く)

- オートフォーカスモードを[▦]に設定していて、AFエリアが複数(最大23個)点灯した場合は、点灯したすべてのAFエリアにピントが合っています。ピントを合わせる位置を決めて撮影したいときは、オートフォーカスモードを[■]に切り換えてください。(P74)
- フォーカスモードが[AFC]の場合はフォーカス音は鳴りません。またオートフォーカスモードを[▦]に設定している場合は、AFエリアは表示されません。

ピントが合わないとき

オートフォーカスモードが[■]設定時に被写体が撮りたい構図の中央にないときなどは、AFエリアを移動することができます。(P76)

■ 被写体によってオートフォーカスモードを変えて撮影する(P74)

■ ピントが合いにくい被写体や撮影環境

- 動きの速い被写体、非常に明るい、または濃淡のないもの
- ガラス越しや光るものの近くにある被写体を撮影するとき
- 暗いときや手ブレしているとき
- 被写体に近すぎるときや、遠くと近くを同時に撮るとき

手ブレを防ぐために

手ブレ警告表示[((◎))]が表示されたときは、手ブレ補正(P104)、三脚、セルフタイマー(P73)、シャッターリモコン(別売: DMW-RSL1)(P136)などをお使いください。

- 特に以下の場合にはシャッタースピードが遅くなって撮影されますので、シャッターを切ったあと、画像が出るまで本機を固定してください。三脚の使用をおすすめします。
  - ・スローシンクロ
  - ・赤目軽減スローシンクロ
  - ・アドバンスシーンモード(P93)の[夜景&人物]/[夜景]
  - ・シーンモード(P97)の[パーティー]
  - ・シャッタースピードを遅くしたとき

基本

お好みの設定で撮る（P：プログラムAEモード）（つづき）

プログラムシフトについて

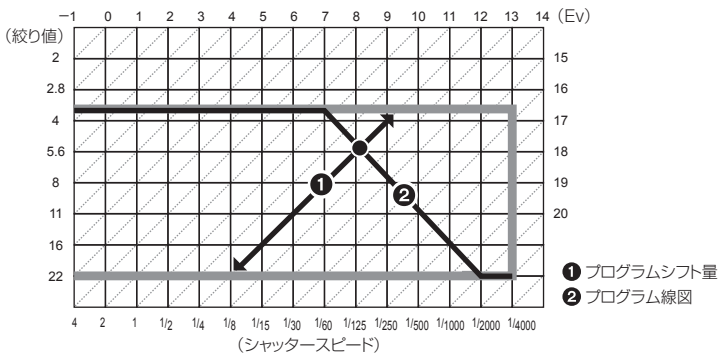
プログラムAEで本機が自動的に設定したシャッタースピードと絞り値の組み合わせを、同じ露出のままで変えることができます。これをプログラムシフトといいます。
プログラムAEでの撮影時に、より背景をぼかしたい（絞り値を小さくする）、動きを表現したい（シャッタースピードを遅くする）などの設定が可能です。

1　シャッターボタンを半押しして、画面に絞り値とシャッタースピードの数値を表示させる

2　数値が表示されている間に（約10秒間）、前ダイヤルを回してプログラムシフトする

- 数値の表示中は、前ダイヤルを押すごとに、プログラムシフト操作と露出補正操作（P68）が切り換わります。
- プログラムシフトされている場合は、画面にプログラムシフト表示が出ます。
- プログラムシフトを解除するには、電源を [OFF] にするか、プログラムシフト表示が消えるまで、前ダイヤルを回してください。

プログラムシフト表示

<プログラムシフトの例>
DMC-G1KおよびDMC-G1Wに同梱の交換レンズ14−45 mm/F3.5−5.6装着時

お知らせ

- カスタムメニューの[露出設定切替]（P110）で、露出補正の切り換えかたを変更できます。
- シャッターボタンを半押ししたときに、適正露出でない場合は、絞り値とシャッタースピードが赤色で表示され、点滅します。
- プログラムシフトが有効になってから、10秒以上経過すると、プログラムシフト設定可能な状態は解除され通常のプログラム AE に戻りますが、プログラムシフトされた設定は維持されています。
- 被写体の明るさによっては、プログラムシフトできない場合があります。

ズームを使って撮る

光学ズーム/EX光学ズーム(EZ)/デジタルズームで撮る

風景などを広く(広角)撮ったり人や物を大きく(望遠)撮ることができます。

大きく撮るには(望遠)

ズームリングをT側へ回す(P15)

広く撮るには(広角)

ズームリングをW側へ回す(P15)

さらに大きく撮るには撮影メニューで[EX光学ズーム]を[ON]に、また、[デジタルズーム]を[2×]または[4×]に設定すると、より拡大が可能になります。
EX光学ズーム(最大2倍)使用時は、各画像横縦比(4:3/3:2/16:9)で[L]以外の記録画素数に設定してください。

■ ズームの種類

種類	光学ズーム	EX光学ズーム(EZ)	デジタルズーム
焦点距離/最大倍率	DMC-G1KおよびDMC-G1Wに同梱の交換レンズ 14–45 mm/F3.5–5.6 装着時		
	14 mm～45 mm (28 mm～90 mm)※1	2倍※2 (55 mm～178 mm)※1	12.8倍(光学ズーム3.2倍含む) 25.4倍(EX光学ズーム2倍含む)
	DMC-G1Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6 装着時		
	45 mm～200 mm (90 mm～400 mm)※1	2倍※2 (178 mm～792 mm)※1	17.8倍(光学ズーム4.4倍含む) 35.1倍(EX光学ズーム2倍含む)
画質	劣化しない	劣化しない	拡大するほど劣化する
条件	なし	撮影メニューの[EX光学ズーム](P105)を[ON]に設定し、EZ付きの記録画素数(P102)を選ぶ	撮影メニューの[デジタルズーム](P106)を[2×]または[4×]に設定する

※1 35 mmフィルムカメラ換算値です。
※2 記録画素数や画像横縦比により変わります。

■ EX光学ズームの仕組み

例えば[S EZ](310万画素相当)に設定すると、撮像素子の持つ1200万画素相当の領域のうち、310万画素相当分の中央部を切り取って撮影するので、より望遠効果の高い写真が撮影できます。

お知らせ

- **インテリジェントオートモード時は、EX光学ズームおよびデジタルズームは設定できません。**
- **アドバンスシーンモードおよびシーンモード時は、デジタルズームは設定できません。**
- EZとは「Ex. optical Zoom」の略で、EX光学ズームを表します。
- ピントを合わせたあと、ズーム操作をした場合は、もう一度ピントを合わせ直してください。
- デジタルズーム使用時は、手ブレ補正が効きにくくなることがあります。
- デジタルズーム使用時は三脚を使用し、セルフタイマー(P73)を使って撮影することをおすすめします。
- デジタルズーム使用時は、オートフォーカスモードが[■]に固定されます。

画像を見る

1 [▶] を押す

▶ ボタン

2 ◀/▶ で画像を送る

◀：前の画像へ　　▶：次の画像へ

- 画像送りの早さは、再生の状況によって変わります。
- ◀/▶ を押したままにすると、画像を連続して送ることができます。

■ 再生を終了するには

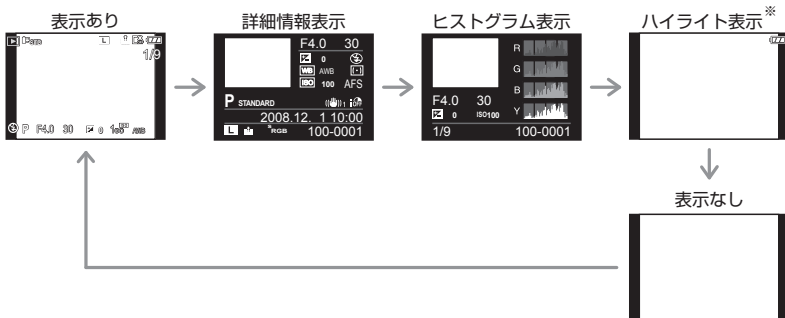
再度 [▶] を押すか、シャッターボタンを半押しする

お知らせ

- 本機は(社)電子情報技術産業協会(JEITA)にて制定された統一規格DCF(Design rule for Camera File system)および、Exif(Exchangeable Image File Format)に準拠しています。DCF規格に準拠していないファイルは再生できません。

再生画面の表示情報を切り換える

[DISPLAY] を押して切り換える

- メニュー画面表示時は[DISPLAY]は働きません。再生ズーム時(P56)、スライドショー中(P112)は、表示ありと表示なしの切り換えになります。
- ヒストグラムについては、61ページをお読みください。

※セットアップメニューの[ハイライト表示](P35)を[ON]にしているときのみ表示されます。

複数の画像を一覧表示する（マルチ再生）

前ダイヤルを左側に回す

1画面⇨12画面⇨30画面⇨
カレンダー画面表示

- 前ダイヤルを右側に回すと、1つ前に戻ります。
- 回転表示はされません。

選択画像番号/
トータル枚数

■ 1画面表示に戻すには

1　▲/▼/◀/▶ で画像を選ぶ

- 撮影画像や設定によって、アイコンが表示されます。

2　[MENU/SET] または前ダイヤルを押す

- 選択されていた画像が表示されます。

画像を撮影日ごとに表示する（カレンダー再生）

撮影した日付ごとに画像を表示させることができます。

1 前ダイヤルを左側に回して、カレンダー画面表示にする

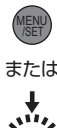
2 ▲/▼/◀/▶ で再生する日付を選ぶ

▲/▼：月を選択
◀/▶：日を選択

- 撮影した画像が1枚もない月は表示されません。

3 [MENU/SET] または前ダイヤルを押して、選択した日付に撮影された画像を表示する

- カレンダー画面表示に戻すには、前ダイヤルを左側に回してください。

または

4 ▲/▼/◀/▶ で画像を選び、[MENU/SET] を押す

- 選択されていた画像が表示されます。

お知らせ

- はじめに選ばれる日付は、再生画面で選んでいた画像の撮影日になります。
- 同じ日付で複数の撮影画像がある場合は、その日の最初に撮影された画像が表示されます。
- カレンダーの表示できる範囲は、2000年1月から2099年12月までです。
- [時計設定]を行わずに撮影した場合、2008年1月1日に表示されます。
- [ワールドタイム]で旅行先を設定して撮影された画像は、旅行先の日時でカレンダー表示されます。

再生画面を拡大する(再生ズーム)

前ダイヤルを右側に回す

1倍⇨2倍⇨4倍⇨8倍⇨16倍

- 拡大したあと、前ダイヤルを左側に回すと、倍率が小さくなります。
- 倍率を変えると、約1秒間ズーム位置表示が表示され、▲/▼/◀/▶で拡大部分の位置を移動させることができます。
- 拡大するほど、画質は粗くなります。
- 表示する位置を移動させると、約1秒間ズーム位置が表示されます。

■ 再生ズームのまま表示画像を切り換えるには

再生ズームのズーム倍率、ズーム位置を保持したまま表示画像を切り換えることができます。

再生ズーム中に前ダイヤルを押して画像送り操作に切り換え、◀/▶で画像を送る

- 再生ズーム中は、前ダイヤルを押すごとに、画像送り操作とズーム位置移動操作が切り換わります。

お知らせ

- 再生ズーム中も、[DISPLAY] を押して、液晶モニター/ ファインダーに表示する情報の表示ありと表示なしを切り換えることができます。
- 撮影した画像を拡大して保存したい場合は、トリミングを行ってください。(P118)
- 他機で撮影した画像は再生ズームできない場合があります。
- ズーム倍率とズーム位置は、電源が切れると(パワーセーブを含む)解除されます。
- 以下の画像は、ズーム位置が中央に戻ります。
  - ・[画像横縦比]が異なる画像
  - ・[記録画素数]が異なる画像
  - ・回転方向が異なる画像([回転表示]を[ON]にしている場合)

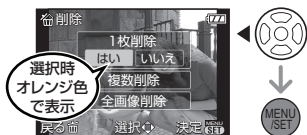
画像を削除する

画像は一度削除すると元に戻すことができません。

[▶] を押す

1枚削除

1 削除する画像を選び、[🗑] を押す

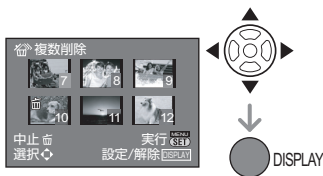
2 ◀で [はい] を選び、[MENU/SET] を押す

複数(50枚まで)/全画像削除

1 [🗑] を押す

2 ▲/▼で [複数削除] または [全画像削除] を選び、[MENU/SET] を押す
- [全画像削除]→手順**5**へ

3 ▲/▼/◀/▶ で画像を選び、[DISPLAY] で設定する（繰り返す）
- 設定した画像に[🗑]が表示されます。もう一度[DISPLAY]を押すと設定が解除されます。

4 [MENU/SET] を押す

5 ▲で [はい] を選び、[MENU/SET] を押す

■ [お気に入り](P113)設定時に[全画像削除]を選んだときは

再度、選択画面が表示されます。[全画像削除]または[★以外全削除]を選び、▲で[はい]を選んで画像を削除してください。([お気に入り] 設定した画像がない場合は、[★以外全削除]を選択できません)

お知らせ

- 削除中([🗑]表示中)は電源を[OFF]にしないでください。また、十分に充電されたバッテリーまたはACアダプター(P137)を使用してください。
- [複数削除]、[全画像削除]または[★以外全削除]中に[MENU/SET]を押すと、途中で削除が中止されます。
- 削除枚数により、時間がかかることがあります。
- DCF規格外または[プロテクト]設定(P116)された画像の場合は、[全画像削除]または[★以外全削除]をしても削除されません。

液晶モニター/ファインダーの表示を切り換える

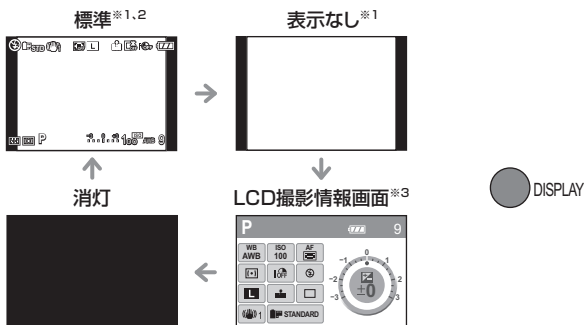
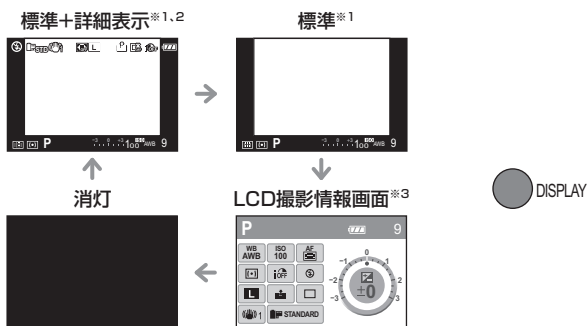
表示情報を切り換える

[DISPLAY]を押して切り換える

● メニュー画面表示時は[DISPLAY]は働きません。

液晶モニター表示

カスタムメニューの[LCD表示スタイル](P108)で、液晶モニターの表示画面を[ ](液晶モニタースタイル)または[ ](ファインダースタイル)から選ぶことができます。

[ ]設定時

[ ]設定時

ファインダー表示

カスタムメニューの[LVF表示スタイル](P108)で、ファインダーの表示画面を[ ](ファインダースタイル)または[ ](液晶モニタースタイル)から選ぶことができます。

[ ]設定時

[ ]設定時

※1カスタムメニューの[ガイドライン表示]を[OFF]以外に設定すると、ガイドラインが表示されます。[ ]に設定している場合は、クイックメニューを使ってガイドラインの位置を移動することができます。(P60)
※2カスタムメニューの[ヒストグラム]を[ON]に設定すると、ヒストグラムが表示されます。クイックメニューを使ってヒストグラムの位置を移動することができます。(P61)
※3カスタムメニューの[LCD撮影情報画面]を[OFF]以外に設定すると表示されます。画面の色を青系色、赤系色、黒系色の3種類から選ぶことができます。(P108)

お知らせ

- 夜景&人物モード(P96)では、ガイドラインはグレーで表示されます。

液晶モニター/ファインダーの表示を切り換える（つづき）

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

■ ガイドライン表示について

被写体を交点上やライン上に配置すると、被写体の大きさや傾き、バランスを見ながら、意図的な構図で撮影することができます。

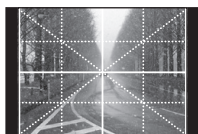
[田]：画面全体を3等分にして、バランスのよい構図の撮影を行いたい場合に使います。

[⊠]：画面の中心に被写体を配置したい場合に使います。

[⊟]：ガイドラインの位置を設定できます。画面の中心から外れた被写体をバランスよく撮影したい場合に使います。

[田]選択時

[⊠]選択時

[⊟]選択時

■ [⊟] でガイドラインの位置を設定する

- カスタムメニューの[ガイドライン表示]を[⊟]に設定してください。（P108）

1 [Q.MENU]を押して、クイックメニューを表示する（P33）

2 ◀/▶でガイドラインを選び、[MENU/SET]を押す

- 前ダイヤルでも設定できます。
- クイックメニュー画面では選択された項目がオレンジ色で表示され、ガイドラインが選ばれたときはガイドラインそのものがオレンジ色で表示されます。

3 ▲/▼/◀/▶で位置を設定する

4 [MENU/SET]を押して終了する

5 [Q.MENU]を押して、クイックメニューを終了する

- シャッターボタン半押しでも終了できます。
- カスタムメニューからも、ガイドラインの位置を設定できます。

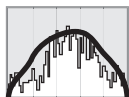
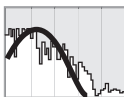
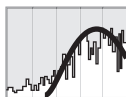
■ ヒストグラムについて

ヒストグラムとは、横軸に明るさ、縦軸にその明るさの画素数を積み上げたグラフです。撮影した画像のヒストグラムの形状(グラフの分布)を見ることによって、その画像の露出状況を判断することができます。

❶ 暗い部分、中間調、明るい部分がバランスよく分布し、撮影するのに適した画像となります。
❷ 暗い部分が多すぎる露出アンダー気味の画像となります。夜景など黒いものが画面の大部分を占めている場合もこのようなヒストグラムになります。
❸ 明るい部分が多すぎる露出オーバー気味の画像となります。白いものが画面の大部分を占めている場合もこのようなヒストグラムになります。

ヒストグラムの表示例

❶ 適正な明るさの画像

❷ 暗い画像

❸ 明るい画像

■ ヒストグラムの位置を設定する

● カスタムメニューの[ヒストグラム]を[ON]に設定してください。(P108)

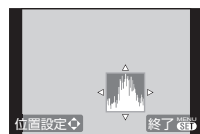
1 [Q.MENU] を押して、クイックメニューを表示する(P33)

2 ◄/► でヒストグラムを選び、[MENU/SET] を押す
- 前ダイヤルでも設定できます。
- クイックメニュー画面では選択された項目がオレンジ色で表示され、ヒストグラムが選ばれたときはヒストグラムの枠がオレンジ色で表示されます。

ヒストグラム
選択時オレンジ色で表示

3 ▲/▼/◄/► で位置を設定する

4 [MENU/SET] を押して終了する

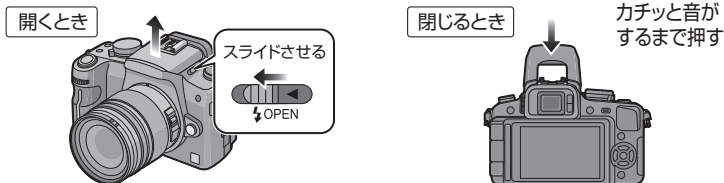
5 [Q.MENU] を押して、クイックメニューを終了する
- シャッターボタン半押しでも終了できます。
- カスタムメニューからも、ヒストグラムの位置を設定できます。

お知らせ

- **撮影画像とヒストグラムが以下の条件で一致しない場合は、ヒストグラムがオレンジ色で表示されます。**
  - ・露出補正時またはマニュアル露出モード時、マニュアル露出アシストが0 EV以外のとき
  - ・フラッシュが発光するとき
  - ・フラッシュが閉じているときに、適正露出にならないときや、暗いところで液晶モニター/ファインダーの明るさが正確に表示できないとき
- 撮影時のヒストグラムは目安です。
- パソコンの画像編集ソフトなどで表示されるヒストグラムとは一致しません。

撮影モード：iA P A S M CUST SCN

内蔵フラッシュを使って撮る

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

■ フラッシュを開く/閉じる

- 使わないときは、フラッシュは必ず閉じておいてください。
- フラッシュが閉じているときは、[⊘]に固定されます。

フラッシュ設定を切り換える

撮影内容に合わせて、内蔵フラッシュの発光のしかたを設定します。

- フラッシュを開く。

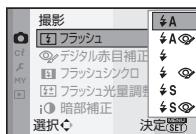
1 撮影メニューから［フラッシュ］を選ぶ（P31）

2 ▲/▼ でモードを選び、[MENU/SET] を押す

- 選択できるフラッシュ設定については、63ページの「撮影モード別フラッシュ設定」をお読みください。

3 [MENU/SET] を押してメニューを終了する

- シャッターボタン半押しでも終了できます。

撮影
フラッシュ
デジタル赤目補正
フラッシュシンクロ
フラッシュ光量調整
暗部補正
⚡A
⚡A👁
⚡
⚡👁
⚡S
⚡S👁
選択
決定 MENU SET

項目	設定内容
⚡A：オート	撮影状況に応じて、自動的にフラッシュが発光します。
⚡A👁（⚡A👁）：赤目軽減オート	撮影状況に応じて、自動的にフラッシュが発光します。人の瞳が赤く写る（赤目現象）のをおさえるため、フラッシュが予備発光し、そのあと撮影のために再び発光します。 ● **暗い場所で人物を撮影するときなどに適しています。**
⚡：強制発光	フラッシュを強制的に発光させます。 ● **逆光時や蛍光灯などの照明の下に被写体があるときなどに適しています。**
⚡👁（⚡👁）：赤目軽減強制発光	フラッシュを強制的に発光させます。同時に赤目現象をおさえます。 ● **逆光時や蛍光灯などの照明の下に被写体があるときなどに適しています。**
⚡S：スローシンクロ	フラッシュ発光とともにシャッタースピードを遅くして背景の夜景なども明るく写します。 ● **夜景を背景に人物を撮影するときなどに適しています。**
⚡S👁（⚡S👁）：赤目軽減スローシンクロ	フラッシュ発光とともにシャッタースピードを遅くして背景の夜景なども明るく写します。同時に赤目現象をおさえます。 ● **夜景を背景に人物を撮影するときなどに適しています。**
⊘：発光禁止	どのような撮影状況でもフラッシュが発光しません。 ● **フラッシュ禁止の場所で撮影するときなどに適しています。**

※ **フラッシュは 2 回発光します。特に[⚡A◎]、[⚡◎]、[⚡S◎]に設定した場合は、間隔が長くなりますので、2回目の発光終了まで動かないようにしてください。また、発光する間隔は被写体の明るさにより異なります。**

■ デジタル赤目補正について

赤目軽減([⚡A◎]、[⚡◎]、[⚡S◎])選択時にフラッシュが発光すると、赤目を自動的に検出して画像データを修正します。

- 赤目の状態によっては補正できない場合があります。また、目以外の物が補正される場合があります。
- 撮影メニューの[デジタル赤目補正](P105)で[OFF]([⚡A◎]、[⚡◎]、[⚡S◎])にも設定できます。

■ 撮影モード別フラッシュ設定

設定できるフラッシュ設定は、撮影モードによって異なります。
(○：設定可、×：設定不可、◎:アドバンスシーンモード、シーンモード初期設定)

	⚡A	⚡A◎	⚡	⚡◎	⚡S	⚡S◎	⊛
iA	○※	×	×	×	×	×	○
P	○	○	○	○	○	○	○
A	○	○	○	○	○	○	○
S	○	○	○	○	×	×	○
M	×	×	○	○	×	×	○
	×	×	×	×	×	×	○
	○	◎	○	×	×	×	○
	○	◎	○	×	×	×	○
	◎	○	○	×	×	×	○
	○	◎	○	×	×	×	○
	○	◎	○	×	×	○	○
	×	×	×	×	×	×	◎
	×	×	×	×	×	×	◎
	×	×	×	×	×	×	◎
	×	×	×	×	×	×	◎
	◎	×	○	×	×	×	○

	⚡A	⚡A◎	⚡	⚡◎	⚡S	⚡S◎	⊛
	◎	×	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○
	×	×	×	×	×	◎	○
	×	×	×	×	×	×	◎
	×	×	×	×	×	×	◎
	×	×	×	×	×	×	◎
	×	×	×	×	×	×	◎
	×	×	×	×	×	◎	○
	○	◎	○	×	×	×	○
	○	◎	○	×	×	×	○
	◎	×	○	×	×	×	○

※[⚡A]選択時は、被写体の種類や明るさに応じて、[i⚡A]、[i⚡A◎]、[i⚡S◎]になります。

- 撮影モードを変更すると、フラッシュの設定が変わることがあります。変更が必要な場合には、再度フラッシュ設定をしてください。
- 設定したフラッシュ設定は電源を[OFF]にしても記憶していますが、アドバンスシーンモードまたはシーンモードを変更して使用すると、アドバンスシーンモードまたはシーンモードのフラッシュ設定は初期設定に戻ります。

内蔵フラッシュを使って撮る（つづき）

■ ISO感度別フラッシュ撮影可能範囲

ISO感度	DMC-G1KおよびDMC-G1Wに同梱の交換レンズ 14–45 mm/F3.5–5.6装着時		DMC-G1Wに同梱の交換レンズ 45–200 mm/F4.0–5.6装着時	
	フラッシュ撮影可能範囲		フラッシュ撮影可能範囲	
	W端時	T端時	W端時	T端時
AUTO	約45 cm～約6.2 m※	約30 cm～約3.9 m※	約1.0 m～約5.5 m※	約1.0 m～約3.9 m※
ISO100	約45 cm～約3.1 m	約30 cm～約1.9 m	約1.0 m～約2.7 m	約1.0 m～約1.9 m
ISO200	約45 cm～約4.4 m	約30 cm～約2.7 m	約1.0 m～約3.8 m	約1.0 m～約2.7 m
ISO400	約45 cm～約6.2 m	約30 cm～約3.9 m	約1.0 m～約5.5 m	約1.0 m～約3.9 m
ISO800	約60 cm～約8.8 m	約30 cm～約5.5 m	約1.0 m～約7.7 m	約1.0 m～約5.5 m
ISO1600	約60 cm～約12.5 m	約60 cm～約7.8 m	約1.0 m～約11.0 m	約1.0 m～約7.8 m
ISO3200	約90 cm～約17.7 m	約75 cm～約11.1 m	約1.0 m～約15.5 m	約1.0 m～約11.1 m

※[ISO感度上限設定](P107)を[OFF]に設定時

- フラッシュ撮影時に被写体との距離が近い場合、レンズでフラッシュ光がさえぎられ、撮影画像の一部が暗くなります。被写体との距離を確認しながら撮影してください。フラッシュ光がさえぎられる被写体との距離は、使用するレンズによって異なります。
  - ・DMC-G1KおよびDMC-G1Wに同梱の交換レンズ14–45 mm/F3.5–5.6装着時：45 cm以内(W端)/30 cm以内(T端)
  - ・DMC-G1Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6装着時：30 cm以内

■ フラッシュモード別のシャッタースピード

フラッシュモード	シャッタースピード
⚡A	1/30 ※1～1/4000秒
⚡A◎	
⚡	1/30 ※2～1/160秒
⚡◎	

フラッシュモード	シャッタースピード
⚡S	1～1/4000秒
⚡S◎	
⊘	60 ※3～1/4000秒

※1 シャッター優先AEモード時は60秒となります。
※2 シャッター優先AEモード時は60秒、マニュアル露出モード時はB（バルブ）となります。
※3 マニュアル露出モード時はB（バルブ）となります。

- フラッシュ発光時は、シャッタースピードが1/160秒より速い設定はできません。
- インテリジェントオートモード時のシャッタースピードは判別シーンによって異なります。

お知らせ

- フラッシュに物を近づけたり、発光中にフラッシュを閉じないでください。熱や光で変形、変色する場合があります。
- 赤目軽減オートなどの予備発光の直後にフラッシュを閉じないでください。故障の原因となります。
- フラッシュ撮影可能範囲外で撮影すると、適正露出にならず、白っぽく撮れる場合や暗くなる場合があります。
- フラッシュ充電中は、フラッシュアイコンが赤に点滅し、シャッターボタンを全押ししても、撮影できません。
- フラッシュ光が十分に届かない被写体はホワイトバランスが合わない場合があります。
- **レンズフードが付いた状態でフラッシュ撮影すると、フラッシュの光がフードにさえぎられることがあります。**
- 撮影を繰り返すと、フラッシュの充電に時間がかかる場合があります。アクセス表示が消えてから撮影してください。
- 赤目軽減の効果には個人差があり、被写体までの距離や被写体の人が予備発光を見ていないなどの条件によって、効果が現れにくい場合があります。
- 外部フラッシュ装着時は、外部フラッシュが優先されます。
  外部フラッシュについては、133 ページをお読みください。

内蔵フラッシュを使って撮る（つづき）

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

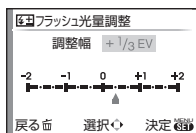
フラッシュの発光量を調整する

使えるモード：P A S M CUST SCN

被写体が小さい、反射率が極端に高い、または低いときは、フラッシュの発光量を調整してください。

1 撮影メニューから［フラッシュ光量調整］を選ぶ（P31）

2 ◀/▶ でフラッシュの発光量を設定し、［MENU/SET］を押す

- −2 EV から+2 EVの範囲で、1/3 EVごとに調整できます。
- フラッシュ発光量を調整しない場合は、“0 EV”を選んでください。
- 前ダイヤルでも設定できます。

3 ［MENU/SET］を押してメニューを終了する

- シャッターボタン半押しでも終了できます。

お知らせ

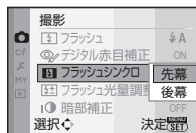
- フラッシュ発光量が調整されているときは、液晶モニター/ファインダーのフラッシュアイコンに［+］または［−］が表示されます。
- 設定したフラッシュ発光量は、電源を［OFF］にしても記憶しています。

後幕シンクロに設定する

使えるモード：P A S M CUST

後幕シンクロとは、車など動きのある被写体をスローシャッターでフラッシュ撮影する場合、シャッターが閉じる直前に発光する撮影方法です。

1 撮影メニューから［フラッシュシンクロ］を選ぶ（P31）

2 ▼で［後幕］を選び、[MENU/SET]を押す

3 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

- シャッターボタン半押しでも終了できます。

項目	効果
先幕（さきまく）	一般的なフラッシュ撮影の方法です。
後幕（あとまく）	被写体の後ろに光源が写り、躍動感が出ます。

お知らせ

- 通常は[先幕]に設定してください。
- [後幕]に設定すると、液晶モニター/ファインダーのフラッシュアイコンに[2nd]が表示されます。
- フラッシュシンクロの設定は、外部フラッシュ使用時にも有効です。(P133)
- シャッタースピードが速いときは、フラッシュシンクロの効果が十分に得られない場合があります。
- [後幕]設定時は、[ ]、[ ]、[ ]に設定できません。

撮影モード:

露出を補正して撮る

被写体と背景の明るさに大きく差がある場合など、適正な露出が得られないときに補正します。

露出オーバー		適正露出		露出アンダー
	露出をマイナス方向に補正してください。		露出をプラス方向に補正してください。	

1 前ダイヤルを押して露出補正操作に切り換える

2 前ダイヤルを回して、露出を補正する

●露出を補正しない場合は、"0"を選んでください。

露出補正表示

3 撮影する

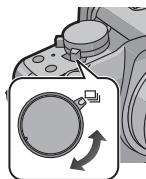
お知らせ

- EVとは「Exposure Value」の略で、露出量を表す単位です。絞り値またはシャッタースピードが変化するとEVが変化します。
- 設定した露出補正量は、電源を[OFF]にしても記憶しています。ただし、インテリジェントオートモード時は露出補正量は記憶されません。
- 被写体の明るさによっては、露出補正できない範囲があります。
- ダイヤルの誤操作にお気をつけください。
- プログラムAEモードでは、絞り値とシャッタースピードの数値が画面に表示中は前ダイヤルを押すごとに、プログラムシフト操作と露出補正操作が切り換わります。
- 絞り優先AEモードでは前ダイヤルを押すごとに、絞り設定操作(P89)と露出補正操作が切り換わります。
- シャッター優先AEモードでは前ダイヤルを押すごとに、シャッタースピード設定操作(P89)と露出補正操作が切り換わります。
- カスタムメニューの[露出設定切替](P110)で操作方法を変更できます。
- [ ](液晶モニタースタイル)時のクイックメニュー(P33)では、◀/▶または前ダイヤルで露出補正表示を選んだあと、▲/▼で露出補正ができます。
- [ ](ファインダースタイル)時のクイックメニューでは、前ダイヤルまたは◀/▶で露出補正表示を選んでから、前ダイヤルまたは[MENU/SET]を押すと、前ダイヤルまたは◀/▶で露出補正ができます。

連写する

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

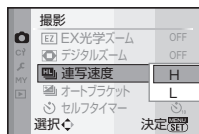
シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。撮影後、お気に入りの画像を選んでください。

ドライブモードレバーを[ ]に合わせる

2 ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを押したままにすると連続撮影されます。

連写[H(高速)設定時]

■ 連写速度を変更する場合

1. 撮影メニューから[連写速度]を選ぶ(P31)
2. ▲/▼で連写速度を選び、[MENU/SET]を押す
3. [MENU/SET]を押してメニューを終了する
   - シャッターボタン半押しでも終了できます。

		[H](高速)	[L](低速)
連写速度		3コマ/秒	2コマ/秒
連写枚数	RAWファイルあり	最大7コマ	
	RAWファイルなし	カードの空き容量による※	

※ カードの空き容量がいっぱいになるまで撮影されますが、途中から連写速度が遅くなります。遅くなるタイミングは記録画素数、クオリティの設定、使用するカードによって異なります。

- 最初の連写速度はカードの転送速度に関係ありません。
- 上記の連写速度は、シャッタースピードが1/60より速く、フラッシュを発光させないときの値です。
- 連写速度は、以下の設定によって低下することがあります。
  - ・ISO感度(P84)/[記録画素数](P102)/[クオリティ](P103)/[フォーカス優先](P110)/フォーカスモード
- RAWファイルについては、103ページをお読みください。

撮影モード：iA P A S M CUST SCN

連写する（つづき）

■ 連写とピントについて

ピント合わせは、フォーカスモードとカスタムメニューの[フォーカス優先]（P110）の設定によって異なります。

フォーカスモード	フォーカス優先	ピント合わせ
AFS	ON	1 枚目
	OFF	
AFC※1	ON	常時ピント※2
	OFF	予測ピント※3
MF	―	マニュアルで設定したフォーカス

※1 被写体が暗い場合、ピントは1枚目に固定されます。
※2 常時ピントを合わせながら連写するので、連写速度は遅くなることがあります。
※3 連写速度を優先し、可能な範囲でピントの予測を行います。

お知らせ

- シャッターボタンを押したまま連続撮影するときは、シャッターリモコン（別売：DMW-RSL1）の使用をおすすめします。シャッターリモコンについては、136ページをお読みください。
- [H]設定時、1枚目の露出、ホワイトバランスに固定されます。
  [L]設定時、1枚ごとに露出、ホワイトバランスを調整します。
- 屋内外など明暗差の大きい場所（風景）で動きのある被写体を追いながら撮影した場合、露出が安定するまでに時間がかかる場合があります。このときに連写を行うと、最適な露出にならないことがあります。
- 暗いところでは、シャッタースピードが遅くなるため、連写速度（コマ/秒）が遅くなることがあります。
- [オートレビュー]の設定にかかわらずオートレビューされます。（拡大/ホールドはされません）セットアップメニューで[オートレビュー]の設定はできません。
- フラッシュが発光するときは、1枚しか撮影できません。
- **ホワイトバランスブラケット撮影時（P83）は、1回の撮影で3枚の画像を記録しますので、次の撮影までに時間がかかります。**
- **マルチフィルムブラケット撮影時（P88）は、マルチフィルムブラケット設定に従って、最大3枚のフィルムが撮影されます。**

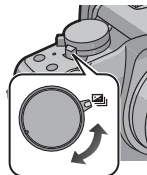
撮影モード: iA P A S M CUST SCN

露出を自動的に変えながら撮る（オートブラケット撮影）

シャッターボタンを押すごとに、露出の補正幅に従って露出を変えながら最大で7枚まで撮影します。露出が異なる画像の中からお好きな露出の画像を選ぶことができます。

補正幅:[3・1/3]、ブラケット順序:[0/－/＋] 設定時の例

1枚目	2枚目	3枚目
±0 EV	－1/3 EV	＋1/3 EV

1 ドライブモードレバーを[ ]に合わせる

2 ピントを合わせて撮影する

- シャッターボタンを押したままにすると連続撮影されます。
- 設定枚数分がすべて撮影されるまでオートブラケット表示が点滅します。
- 設定枚数分がすべて撮影されるまでにオートブラケットの設定やドライブモードを変更したり、電源を[OFF]にした場合は、1枚目からの撮影になります。

露出を自動的に変えながら撮る（オートブラケット撮影）（つづき）

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

■ オートブラケットの補正幅、撮影順序を変更する場合

1 撮影メニューから [オートブラケット] を選ぶ(P31)

2 ▲/▼ で [補正幅] または [ブラケット順序] を選び、▶ を押す

3 ▲/▼ で設定内容を選び、[MENU/SET] を押す

項目	設定内容
補正幅	3•1/3（3枚撮影）
	3•2/3（3枚撮影）
	5•1/3（5枚撮影）
	5•2/3（5枚撮影）
	7•1/3（7枚撮影）
	7•2/3（7枚撮影）

項目	設定内容
ブラケット順序	0/−/+
	−/0/+

4 [MENU/SET] を2回押してメニューを終了する
- シャッターボタン半押しでも終了できます。

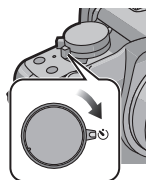
お知らせ

- 露出補正をしてからオートブラケット撮影をする場合は、補正された露出値を基準にして撮影されます。
- 被写体の明るさによっては、オートブラケットで露出補正できない場合があります。
- [オートレビュー]の設定にかかわらずオートレビューされます。(拡大/ホールドはされません)セットアップメニューで[オートレビュー]の設定はできません。
- フラッシュが発光するときは、1枚しか撮影できません。
- 記録可能枚数が設定枚数より少ないときは、設定枚数分撮影できません。
- **マルチフィルムブラケット撮影時(P88)は、マルチフィルムブラケットの設定が優先されます。**

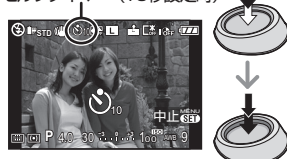
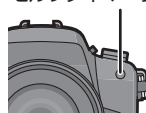
撮影モード：iA P A S M CUST SCN

セルフタイマーを使って撮る

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

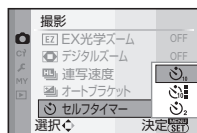
1 ドライブモードレバーを[ ]に合わせる

2 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しして撮影する

- ピントが合うまで、撮影されません。
- ピントが合っていない場合でもシャッターボタンの全押しで撮影されるようにしたいときは、カスタムメニューの[フォーカス優先]を[OFF]に設定してください。(P110)
- セルフタイマーランプが点滅し、10秒(または2秒)後に撮影動作が開始されます。
- セルフタイマー動作中に[MENU/SET]を押すと、セルフタイマーが中断されます。
- [ ]選択時は、1枚目および2枚目撮影後にセルフタイマーランプが再度点滅し、2秒後に撮影動作を開始します。

セルフタイマー（10秒設定時）

セルフタイマーランプ

■ セルフタイマーの時間を変更する場合

1 撮影メニューから[セルフタイマー]を選ぶ(P31)

2 ▲/▼でモードを選び、[MENU/SET]を押す

項目	設定内容
$_{10}$	10 秒
$_{10}$	10 秒/3 枚
$_{2}$	2 秒

- [ ]に設定すると、10秒後に約2秒間隔で3枚撮影します。

3 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

- シャッターボタン半押しでも終了できます。

お知らせ

- セルフタイマーを2秒に設定すると、三脚使用時などシャッターボタンを押したときのカメラブレを防ぐのに便利です。
- セルフタイマー撮影時は、三脚の使用をおすすめします。
- [ ]設定時、撮影状況によっては撮影間隔が 2 秒以上になることがあります。
- [ ]設定時、フラッシュ発光量は一定にならないことがあります。
- マルチフィルムブラケット撮影時(P88)は、[ ]に設定しても、[ ]と同じ動作になります。
- インテリジェントオートモード時は、[ ]または[ ]に設定できません。

撮影モード：PASM CUST SCN

ピントを合わせる方法を設定する（オートフォーカスモード）

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

被写体の位置や数に応じて、ピントの合わせかたを選択できます。
撮影状況や撮りたい構図に合わせて使い分けてください。

1 フォーカスモードダイヤルを[AFS]または[AFC]に合わせる

2 ◀( )を押し、◀/▶でオートフォーカスモードを選ぶ

- 前ダイヤルでも設定できます。

項目	効果
[ ](顔認識)	人の顔を自動的に検知します。(最大15個)認識された顔がどの位置にあっても、顔にピントや露出を合わせることができます。
[ ](追尾AF)	指定した被写体にピントや露出を合わせることができます。さらに、被写体が動いても自動でピントと露出を合わせ続けます。(動体追尾)
[ ](23点)	AFエリアごとに最大23点までピントを合わせることができます。被写体が中央にない場合に有効です。 (AFエリア枠は画像横縦比の設定と同じになります)
[ ](1点)	AFエリア内にピントを合わせます。 AFエリアの位置と大きさを変えることができます。

3 [MENU/SET]を押して終了する

- シャッターボタン半押しでも終了できます。

お知らせ

- [ ]で被写体が撮りたい構図の中央にないときなどは、被写体にAFエリアを合わせ、シャッターボタン半押しでピントと露出を固定し、半押ししたまま撮りたい構図に本機を動かして撮影することもできます。(フォーカスモードダイヤルを[AFS]に合わせたときのみ)
- [ ]でAFエリアが複数(最大23個)点灯した場合は、点灯したすべてのAFエリアにピントが合っています。ピントを合わせる位置を決めて撮影したいときは、設定を[ ]に切り換えてください。
- [ ]または[ ]に設定している場合は、ピントが合うまでAFエリアは表示されません。また、[ ]でフォーカスモードを[AFC]に設定している場合には、ピントが合っていてもAFエリアは表示されません。
- 人物以外の被写体をカメラが誤って顔と認識する場合は、[ ]以外に設定してください。
- 以下の場合、[ ]に設定できません。
  - ・クローズアップモードの[料理]
  - ・夜景&人物モードの[夜景]、[イルミネーション]

■ [顔認識アイコン]について

カメラが顔を認識すると以下の色のAFエリア枠が表示されます。

黄色：シャッターボタンを半押しし、ピントが合うと緑色に変わります。

白色：複数の顔を認識すると表示されます。黄色のAFエリア枠内の顔と同じ距離にある顔にはピントが合います。

- [顔認識アイコン]選択時、[測光モード]を[[・]]に設定すると、人の顔に合わせて露出を調整します。
- 以下の場合など、撮影状況によっては、顔認識機能が働かず、顔が検知できないことがあります。その際、オートフォーカスモードは[多点アイコン]に切り換わります。
  - ・顔が正面を向いていない／傾いている／極端に明るいまたは暗い／サングラスなどで隠れている／小さく写っている
  - ・顔の陰影が少ない
  - ・動きが速い
  - ・被写体が人物以外である
  - ・手ブレしている
- デジタルズーム使用時は、顔認識機能が働きません。

[追尾AFアイコン]（追尾AF）を設定する

1 被写体を追尾AF枠に合わせ、シャッターボタンを半押しして被写体にロックする

- 被写体を認識すると、AFエリアが緑色になり被写体がロックされます。
  シャッターボタンを離すと被写体の動きに合わせて自動で連続的にピントと露出を合わせます。（動体追尾）このときAFエリアは黄色で表示されます。
- [MENU/SET]または◀を押すと、追尾AFが解除されます。

追尾AF枠（白色）

ロック前

追尾AF枠（黄色）

ロック後

2 撮影する

お知らせ

- ロックに失敗したときは、追尾AF枠が赤く点滅したあと消えます。もう一度ロックをやり直してください。
- 追尾AFに失敗したときは、追尾AFは働きません。その際、オートフォーカスモードは[[■]]に切り換わります。
- フィルムモードの[スタンダード B&W（白黒）]、[ダイナミック B&W（白黒）]、[スムーズ B&W（白黒）]では、[[追尾AFアイコン]]は[[■]]の動作になります。
- 以下の場合は、動体追尾機能が働かないことがあります。
  - ・被写体が小さすぎる
  - ・撮影場所が明るすぎる、暗すぎる
  - ・被写体の動きが速い
  - ・被写体と背景の色が同じか類似した色があるとき
  - ・手ブレしている
  - ・ズーム操作時
- デジタルズーム使用時は、追尾AF機能が働きません。

ピントを合わせる方法を設定する（オートフォーカスモード）（つづき）

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

AFエリアを設定する

[■]選択時にAFエリアを移動することができます。また、AFエリア枠の大きさを変更することもできます。

- クイックメニュー（P33）からも、設定することができます。

1 [■] を選び、▼ を押す

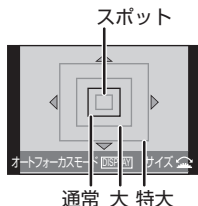
- AFエリア設定画面が表示されます。[DISPLAY]を押すと元の画面に戻ります。

2 ▲/▼/◀/▶ でAFエリアを移動する

- 画面内の自由な位置に設定できます。
（画面の端には設定できません）

3 前ダイヤルを回してAFエリア枠の大きさを変更する

前ダイヤル右回し：拡大　　前ダイヤル左回し：縮小

- 「スポット」、「通常」、「大」、「特大」の４種類の大きさに変更できます。

4 [MENU/SET] を押して設定する

■ 撮影時にAFエリアを簡単に移動する

[■]選択時にカスタムメニューの[ダイレクト１点AF移動]（P109）を[ON]に設定すると、▲/▼/◀/▶ で直接AFエリアを移動することができます。また、位置を設定する画面で前ダイヤルを回すと、AFエリア枠の大きさの変更もできます。

- ISO感度設定（P84）、Fnボタン操作（P34）、オートフォーカスモード設定（P74）、ホワイトバランス設定（P81）は ▲/▼/◀/▶ では操作できなくなります。クイックメニュー（P33）を使って設定してください。

お知らせ

- [測光モード]が[⊡]のときは、測光ターゲットもAFエリアに合わせて移動します。（P104）
- 「スポット」でピントが合いにくいときは、AFエリア枠の大きさを「通常」、「大」、「特大」のいずれかに変更してください。

撮影モード：iA P A S M CUST SCN

手動でピントを合わせて撮る（MF: マニュアルフォーカス）

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

ピントを固定したい場合や、被写体との距離が固定されていて、オートフォーカスを働かせたくない場合などに使います。

1 フォーカスモードダイヤルを[MF]に合わせる

- 画面に[MF◀]が約5秒間表示されます。

2 フォーカスリングを回してピントを合わせる

- MFアシストとして画面が約5倍に拡大表示されます。
- ▲/▼/◀/▶で拡大位置を移動させることができます。
- フォーカスリング、▲/▼/◀/▶の操作をやめると、約10秒後にMFアシストは消えます。
- 前ダイヤルを右側に回すとMFアシストが5倍から10倍に拡大されます。左側に回すと5倍に戻ります。

3 撮影する

■ MFアシストについて

カスタムメニューの[MFアシスト]（P110）を[OFF]に設定すると、フォーカスリングを回してもMFアシストとして画面は拡大表示されません。MFアシストを表示したいときは、◀を押したあと、[MENU/SET]を押すことで、拡大表示ができます。

応用撮影・

1 ◀でMFアシスト画面を表示する

2 ▲/▼/◀/▶で位置を移動する

- 以下の操作を行うと、中央のMFアシスト位置に戻ります。
  - ・フォーカスモードダイヤルを[AFS]または[AFC]に切り換えたとき
  - ・[画像横縦比]、[記録画素数]を変更したとき
  - ・電源を[OFF]にしたとき

3 [MENU/SET]を押して、MFアシスト画面を拡大する

- フォーカスリングを回してピントを合わせてください。

4 [MENU/SET]を押して、MFアシストを終了する

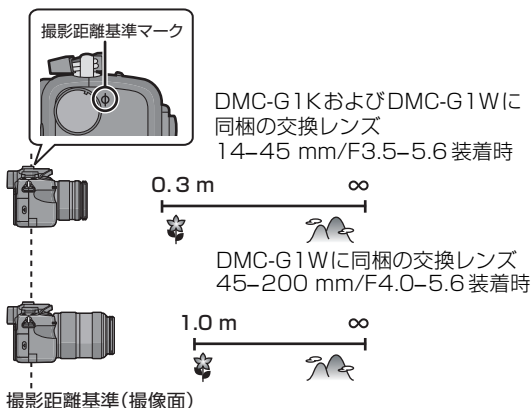
- 元の画面に戻ります。

手動でピントを合わせて撮る（MF: マニュアルフォーカス）（つづき）

■ マニュアルフォーカスのテクニック

❶ フォーカスリングを回して、ピントを合わせる
❷ さらに同じ方向に少し回す
❸ ゆっくり戻しながら微調整する

■ 撮影距離基準について

撮影距離基準マークは撮影距離の基準となるマークです。マニュアルフォーカスや接写の目安にしてください。

- 近距離を撮影する場合は…
  - ・三脚を使用し、セルフタイマー（P73）を使って撮影することをおすすめします。
  - ・ピントの合っている範囲（被写界深度）が非常に狭くなりますので、ピントを合わせたあと、カメラと被写体との距離が変化するとピントが合いにくくなります。
  - ・画像の周辺部の解像度が少し低下することがありますが、故障ではありません。

お知らせ

- ピントを合わせたあと、ズーム操作をした場合は、もう一度ピントを合わせ直してください。
- デジタルズーム使用時はMFアシストは表示されません。
- マイカラーモード時は、◀ を押してもMFアシスト画面は表示されません。
- パワーセーブ解除後は、必ずピントを合わせ直してください。

撮影モード：P A S M CUST SCN

露出やピントを固定して撮る（AF/AEロック）

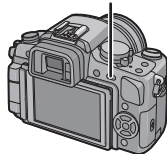
被写体のコントラストが強すぎて適正露出が得られない場合(AEロック)や、被写体がAFエリアから外れた構図で撮りたい場合(AFロック)などに便利です。

■ 露出のみを固定する

1 露出を合わせたい被写体に画面を合わせる

2 [AF/AE LOCK]を押したままにし、露出を固定する

- 絞り値とシャッタースピードの表示が点灯します。
- [AF/AE LOCK]を離すと、ロックは解除されます。

AF/AE LOCKボタン

3 [AF/AE LOCK]を押したまま、撮りたい構図に本機を動かす

AEロック表示

4 シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ、全押しする

露出やピントを固定して撮る（AF/AEロック）（つづき）

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

■ ピントまたはピント・露出を固定する

1 カスタムメニューから[AF/AEロック切替]を選ぶ(P31)

2 ▲/▼で[AF]または[AF/AE]を選び、[MENU/SET]を押す

3 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

- シャッターボタン半押しでも終了できます。

[AF]または[AF/AE]設定時の撮影方法

❶ 被写体に画面を合わせる

❷ [AF/AE LOCK]を押したままにし、ピントや露出を固定する

- [AF]設定時は、ピントが合うと、フォーカス表示が点灯します。
- [AF/AE]設定時は、ピントと露出が合うと、フォーカスおよび絞り値とシャッタースピードの表示が点灯します。
- [AF/AE LOCK]を離すと、ロックは解除されます。

❸ [AF/AE　LOCK]を押したまま、撮りたい構図に本機を動かし、シャッターボタンを全押しする

お知らせ

- カスタムメニューの[AF/AEロック維持]を[ON]に設定すると、[AF/AE LOCK]を押したあと、離してもピントや露出を固定することができます。(P109)
- マニュアルフォーカス時は、AEロックのみ有効です。
- 被写体の明るさが変わっても、露出は固定されます。
- AEロック時でも、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせ直すことができます。
- AEロック時でも、プログラムシフトを設定できます。

撮影モード：P A S M CUST SCN

ホワイトバランスを調整する

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

太陽光や白熱灯下など、白色が赤みがかったり青みがかったりする場面で、光源に合わせて見た目に近い白色に調整します。

▶（WB）を押す

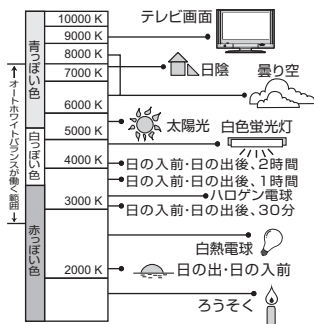
2 ◀/▶でホワイトバランスを選び、[MENU/SET]を押して決定する

- 前ダイヤルでも設定できます。
- シャッターボタン半押しでも決定できます。

項目	撮影状況
[AWB]	自動調整
[☼]	晴天の屋外での撮影時
[☁]	曇りの屋外での撮影時
[⌂]	屋外の晴天下の日陰での撮影時
[白熱灯]	白熱灯下での撮影時
[⚡WB]	フラッシュ光のみでの撮影時
[1]、[2]	あらかじめセットしている設定を使用
[K]	あらかじめセットしている色温度設定を使用

■ オートホワイトバランスについて

撮影時の状況によっては、画像が赤っぽくなったり、青っぽくなったりします。また、光源が複数の場合や白に近い色がない場合、オートホワイトバランスが正常に働かない場合があります。この場合は、ホワイトバランスを[AWB]以外に設定して調整してください。

撮影モード：P A S M CUST SCN

ホワイトバランスを調整する（つづき）

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

お知らせ
- 蛍光灯下では、その種類によって最適なホワイトバランスは異なりますので、[AWB] または [1]、[2] をご使用ください。
- フラッシュ撮影時、フラッシュ光が十分に届かない被写体はホワイトバランスが合わない場合があります。
- 設定したホワイトバランスは電源を[OFF]にしても記憶していますが、アドバンスシーンモードまたはシーンモードを変更すると、アドバンスシーンモードまたはシーンモードのホワイトバランスは [AWB] に戻ります。

手動でホワイトバランスを設定する

ホワイトバランスの設定値を設定します。撮影時の状況に合わせてお使いください。
- クイックメニュー(P33)からも、設定することができます。

1 [1] または [2] を選び、▲ を押す

2 白い紙など白いものだけを枠内に写し、[MENU/SET] を押す

お知らせ
- 被写体が明るすぎたり、暗すぎる場合は、新しくホワイトバランスを設定できないことがあります。そのときは、適切な明るさに調整して、再度設定し直してください。

色温度設定について

撮影場所のいろいろな光に合わせて自然な色合いの撮影ができるよう、手動で色温度を設定することができます。色温度とは、光の色を数値［単位：K(ケルビン)］で表したもので、温度が高いほど青っぽく、低いほど赤っぽくなります。
- クイックメニュー(P33)からも、設定することができます。

1 [K] を選び、▲ を押す

2 ▲/▼ で色温度を選び、[MENU/SET] を押す
- [2500K]～[10000K]まで設定できます。
- 前ダイヤルでも設定できます。

ホワイトバランス微調整([WB±])

ホワイトバランスを設定しても、思いどおりの色合いにならないときに、微調整することができます。
- クイックメニュー(P33)からも、設定することができます。

1 ホワイトバランスを選び、▼を押す

2 ▲/▼/◀/▶でホワイトバランスを微調整し、[MENU/SET]を押す

◀:A(アンバー:オレンジ系)　▲:G+(グリーン:緑系)
▶:B(ブルー:青系)　▼:M−(マゼンタ:赤系)

お知らせ

- ホワイトバランスをA(アンバー)またはB(ブルー)方向に微調整すると、液晶モニター/ファインダーに表示されるホワイトバランスアイコンが微調整した色に変わります。
- ホワイトバランスをG+(グリーン)またはM−(マゼンタ)方向に微調整すると、液晶モニター/ファインダーに表示されるホワイトバランスアイコンに[+](グリーン)または[−](マゼンタ)が表示されます。
- [🗑]を押すと中心点に戻ります。
- ホワイトバランスを微調整しない場合は、中心点を選んでください。
- ホワイトバランスの微調整は、フラッシュ撮影にも反映されます。
- ホワイトバランスの各項目で独立して微調整することができます。
- 電源を[OFF]にしても設定したホワイトバランス微調整は記憶されます。
- [1]、[2]で新しくホワイトバランスを設定し直したとき、または[K]で色温度を設定し直したときは、微調整レベルは標準(中心点)に戻ります。

ホワイトバランスブラケット

1回シャッターボタンを押すと、ホワイトバランス微調整の調整値を基準にブラケット設定を行い、異なった色合いの画像を自動的に3枚撮影します。

1 上記手順2でホワイトバランスを微調整し、前ダイヤルを回してブラケット設定を行う

前ダイヤル右回し:横方向(A～B)
前ダイヤル左回し:縦方向(G+～M−)

2 [MENU/SET]を押す

- 前ダイヤルでも設定できます。

お知らせ

- ホワイトバランスブラケットを設定すると、液晶モニター/ファインダーに表示されるホワイトバランスアイコンに[BKT]が表示されます。
- 電源を[OFF](パワーセーブモードを含む)にすると、ホワイトバランスブラケットの設定が解除されます。
- ドライブモードの設定に関係なく、ホワイトバランスブラケット撮影できます。
- シャッター音は1回しか鳴りません。

撮影モード：PASM CUST

ISO感度を設定する

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

光に対する感度（ISO感度）を設定できます。数値を高く設定すると、暗い場所でも明るく撮ることができます。

▲（ISO）を押す

2 ▲/▼/◀/▶でISO感度を選び、[MENU/SET]を押して決定する

- 前ダイヤルでも設定できます。
- シャッターボタン半押しでも決定できます。

ISO感度	100 ⇔	3200
撮影場所（おすすめ）	明るいとき（屋外）	暗いとき
シャッタースピード	遅くなる	速くなる
ノイズ	少ない	多い

ISO感度	設定内容
AUTO ※	明るさに応じて、自動的にISO感度を調整します。
iISO ※ （インテリジェント）	被写体の動きと明るさに応じて、ISO感度を調整します。
100/200/400/ 800/1600/3200	それぞれのISO感度に固定します。 **（撮影メニューの[ISO感度ステップ]（P107）を[1/3 EV]に設定しているときは、設定できるISO感度の項目が増加します）**

※ **撮影メニューの[ISO感度上限設定]（P107）を[OFF]以外に設定しているときは、[ISO感度上限設定]の設定値までの範囲で自動的に設定します。**
[ISO感度上限設定]を[OFF]に設定したときは以下の設定になります。
・[AUTO]を選ぶと、明るさに応じて最大[ISO400]までの範囲で自動設定します。
・[iISO]を選ぶと、明るさに応じて最大[ISO800]（フラッシュ使用時は[ISO400]）までの範囲で自動設定します。

■ iISO(インテリジェントISO感度コントロール)について

被写体の動きと明るさに応じて最適なISO感度とシャッタースピードをカメラが自動的に設定して、被写体のブレをおさえます。

- シャッタースピードはシャッターボタン半押し時に固定されず、全押しするまで常に被写体の動きに合わせて変化します。実際のシャッタースピードは再生画像の情報表示でご確認ください。

お知らせ

- ISO感度を高い数値に設定するほど、被写体ブレをおさえる効果が得られますが、ノイズは増加します。
- フラッシュで撮影できる範囲については、64ページをお読みください。
- [iISO]を選んでも、明るさや被写体の動きの速さによっては、被写体ブレをおさえられない場合があります。
- 動いている被写体が小さいときや動いている被写体が画面の端にあるとき、シャッターボタンを全押しした瞬間に被写体が動き出したときは、動きを検出できないことがあります。
- シーンモードの[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2]、または[ペット]、アドバンスシーンモードの[屋内人物]、[スポーツ(標準)]、[屋外スポーツ]または[屋内スポーツ]では[iISO]に固定されます。
- [iISO]選択時は、プログラムシフトは使えません。
- シャッター優先AEまたはマニュアル露出モード時は、[iISO]の選択はできません。また、マニュアル露出モード時は[AUTO]の選択もできません。
- ノイズが気になるときは、ISO感度を低くするか、フィルムモードの[ノイズリダクション]をプラス方向にする、または[ノイズリダクション]以外の各項目をマイナス方向に調整して撮影することをおすすめします。(P87)

撮影モード：iA P A S M CUST SCN

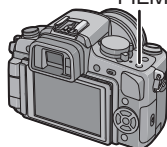
撮影する画像の色調を変更する（フィルムモード）

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

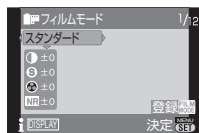
[iA、SCN、、、、、モード時は[スタンダード]、[スタンダード B&W（白黒）]のみ]

フィルムカメラで使用するフィルムの種類には、発色やコントラストなどの画質に個性があります。フィルムモードでは、フィルムを使い分けるように画像の色調を9種類から選択できます。
撮影状況、撮影イメージに合わせてフィルムモードを使い分けてください。

1 [FILM MODE]を押す

FILM MODEボタン

2 ◀/▶で項目を選ぶ

- 前ダイヤルでも設定できます。
- 右図の画面で[DISPLAY]を押すと、各フィルムモードの説明が表示されます。（もう一度押すと前の画面に戻ります）

フィルムモード 1/12
スタンダード
±0
±0
±0
NR ±0
登録 FILM MODE
DISPLAY 決定 MENU SET

3 [MENU/SET]を押して決定する

- シャッターボタン半押しでも決定できます。

項目	効果
スタンダード（カラー）	標準的な設定です。
ダイナミック（カラー）	彩度高め、コントラスト高め、記憶色よりの設定です。
ネイチャー（カラー）	青、緑、赤などを明るく、自然をより美しく撮る設定です。
スムーズ（カラー）	コントラスト低め、穏やかですっきりとした設定です。
ノスタルジック（カラー）	彩度低め、コントラスト低め、年月の経過をイメージした設定です。
バイブラント（カラー）	[ダイナミック]よりさらに彩度高め、コントラスト高め、より鮮烈な色設定です。

項目	効果
スタンダード B&W（白黒）	標準的な設定です。
ダイナミック B&W（白黒）	コントラスト高めの設定です。
スムーズ B&W（白黒）	階調重視で、肌の質感を残す設定です。
MY FILM 1（マイ フィルム）	登録したフィルムを呼び出します。
MY FILM 2（マイ フィルム）	登録したフィルムを呼び出します。
マルチフィルム	シャッターボタンを押すごとに、設定に従ってフィルムの種類を変えながら撮影します。（最大3枚）

お知らせ

- フィルムモードでは、特有の画質を生成するため、カメラ内部で減感または増感に相当する処理を行うことがあります。その際は、シャッタースピードが通常と異なることがあります。

各フィルムモードの設定をお好みに応じて調整する

- クイックメニュー(P33)からも、設定することができます。

1 ◀/▶ でフィルムを選ぶ

2 ▲/▼ で項目を選び、◀/▶ で調整する

- 前ダイヤルでも調整できます。
- 登録した内容は電源を[OFF]にしても記憶しています。

3 [FILM MODE] を押して ▲/▼ で項目を選び、[MENU/SET] を押す

- 設定を2種類 ([MY FILM 1]、[MY FILM 2]) 登録できます。(登録後は、前回登録したフィルムモード名が表示されます)
- お買い上げ時は、[MY FILM 1]に[スタンダード]、[MY FILM 2]に[スタンダード B&W (白黒)]が登録されています。

項目		効果
コントラスト	＋	画像の明暗差を大きくします。
	－	画像の明暗差を小さくします。
シャープネス	＋	画像の輪郭を強調します。
	－	画像の輪郭を柔らかくします。
彩度	＋	派手で鮮やかな色になります。
	－	落ち着いた色になります。
ノイズリダクション	＋	ノイズリダクションの効果を強め、ノイズを軽減します。解像感がわずかに低下する場合があります。
	－	ノイズリダクションの効果を弱め、より解像感のある画質を得ることができます。

お知らせ

- 暗い場面で撮影すると、ノイズが目立つことがあります。ノイズが気になるときは、[ノイズリダクション]をプラス方向にするか、[ノイズリダクション]以外の各項目をマイナス方向に調整して撮影することをおすすめします。
- フィルムモードを調整すると、液晶モニター/ファインダーに表示されるフィルムモード名に「＋」が表示されます。
- 白黒のフィルムモードは、[彩度]を調整できません。
- インテリジェントオートモード、アドバンスシーンモード、シーンモード時はフィルムモードを調整することはできません。

撮影モード：iA P A S M CUST SCN

撮影する画像の色調を変更する（フィルムモード）（つづき）

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

マルチフィルムブラケット

シャッターボタンを押すごとに、設定に従ってフィルムの種類を変えながら撮影します。（最大3枚）

- クイックメニュー（P33）からも、設定することができます。

1 ◀/▶で[マルチフィルム]を選ぶ

2 ▲/▼で[マルチフィルム1]、[マルチフィルム2]、[マルチフィルム3]を選び、それぞれに設定するフィルムを◀/▶で選ぶ

- 前ダイヤルでも設定できます。
- [マルチフィルム3]のみ[OFF]が選択できます。

3 [MENU/SET]を押して決定する

- シャッターボタン半押しでも決定できます。

お知らせ

- お買い上げ時は、[マルチフィルム1]に[スタンダード]、[マルチフィルム2]に[スタンダード B&W（白黒）]、[マルチフィルム3]に[OFF]が設定されています。
- **マルチフィルムブラケットを設定すると、ホワイトバランスブラケットは解除されます。**
- **単写時は各フィルム1枚ごとの撮影になります。連写、セルフタイマー撮影時は、1回シャッターボタンを押すと設定したフィルムが最大3枚撮影されます。**
- マルチフィルムブラケット撮影時は、セルフタイマーを[10]に設定しても、[10]と同じ動作になります。
- 設定枚数分がすべて撮影されるまで液晶モニター/ファインダーに表示されるマルチフィルム表示（[M]）が点滅します。

撮影モード：A S

絞り/シャッタースピードを決めて撮る

A：絞り優先AE

背景までピントを合わせて撮りたいときは絞り値を大きく、背景をぼかして撮りたいときは絞り値を小さくしてください。

1 モードダイヤルを[A]に合わせる

2 前ダイヤルを回して絞り値を設定する

- 前ダイヤルを押すごとに、絞り設定操作と露出補正操作が切り換わります。

3 撮影する

S：シャッター優先AE

動きを止めて撮りたいときはシャッタースピードを速く、動きを表現したいときにはシャッタースピードを遅くしてください。

1 モードダイヤルを[S]に合わせる

2 前ダイヤルを回してシャッタースピードを設定する

- 前ダイヤルを押すごとに、シャッタースピード設定操作と露出補正操作が切り換わります。

3 撮影する

お知らせ

- カスタムメニューの[露出設定切替](P110)で、露出補正の切り換えかたを変更できます。
- 液晶モニター/ファインダーの明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。再生画面で確認してください。
- 絞り優先AEのとき、明るすぎる場合は絞り値を大きくし、暗すぎる場合は絞り値を小さくしてください。
- 絞り優先AEのときに絞りリングのあるレンズを使用する場合は、絞りリングの位置を[A]にすると前ダイヤルの設定が有効になり、[A]以外では絞りリングの設定が優先されます。
- 明るすぎる、暗すぎるなど、適正露出にならないときは、絞り値とシャッタースピードの数値が赤色になり点滅します。
- シャッタースピードが遅いときは、三脚を使うことをおすすめします。
- シャッター優先AEのフラッシュ発光時は、シャッタースピードが1/160秒より速い設定はできません。(P65)
- シャッター優先AEのとき、シャッタースピードが遅いときは、シャッターボタンを全押しすると、シャッタースピードの表示がカウントダウンします。
- シャッター優先AEのとき、[⚡S]および[⚡S👁]は設定できません。
- ISO感度が[ISO]のときに、撮影モードをシャッター優先AEに切り換えると、ISO感度は[AUTO]になります。

撮影モード：Ⓜ

手動で露出を合わせて撮る（Ⓜ：マニュアル露出）

絞り値とシャッタースピードを手動で設定して、露出を決定します。

1 モードダイヤルを［Ⓜ］に合わせる

2 前ダイヤルを回して絞り値とシャッタースピードを設定する

- 前ダイヤルを押すごとに、絞り設定操作とシャッタースピード設定操作が切り換わります。
- フォーカスモードダイヤルを［MF］に合わせると、マニュアルフォーカスでピントを合わせることもできます。（P77）

3 シャッターボタンを半押しする

- 露出の状態の目安を示す、マニュアル露出アシストが画面下部に表示されます。
- 適正露出にならない場合は、絞り値とシャッタースピードを設定し直してください。

4 撮影する

■ マニュアル露出アシストについて

−3 0 +3	適正露出になります。
−3 0 +3	シャッタースピードを速くするか、絞り値を大きくしてください。
−3 0 +3	シャッタースピードを遅くするか、絞り値を小さくしてください。

- マニュアル露出アシストは目安です。再生画面で確認しながら撮影することをおすすめします。

■ B(バルブ)について

シャッタースピードをB(バルブ)に設定すると、シャッターボタンを全押ししている間、シャッターが開いた状態になります。(最大約4分間)

シャッターボタンを離すと、シャッターが閉じます。

花火や夜景撮影などで、長時間シャッターを開けておきたいときに使います。

- シャッタースピードをB(バルブ)に設定すると、画面に[B]が表示されます。
- バルブ撮影時は、十分に充電されたバッテリー(P25)を使用してください。
- バルブ撮影時は、三脚やシャッターリモコン(別売:DMW-RSL1)の使用をおすすめします。シャッターリモコンについては、136ページをお読みください。
- バルブ撮影すると、ノイズが目立つことがあります。ノイズが気になるときは、撮影メニューの[長秒ノイズ除去]を[ON]にして撮影することをおすすめします。(P107)
- マニュアル露出アシストは表示されません。

お知らせ

- カスタムメニューの[露出設定切替](P110)で、絞り設定とシャッタースピード設定の切り換えかたを変更できます。
- 液晶モニター/ファインダーの明るさは、実際に撮影される画像と異なる場合があります。再生画面で確認してください。
- シャッターボタンを半押ししたときに、適正露出にならないときは、絞り値とシャッタースピードの数値が赤色になり点滅します。
- フラッシュの[⚡A]、[⚡A👁]、[⚡S]、[⚡S👁]は設定できません。
- ISO感度が[AUTO]または[ISO]のときに、撮影モードをマニュアル露出に切り換えると、ISO感度は[ISO100]になります。
- シャッタースピードが遅いときは、シャッターボタンを全押しすると、シャッタースピードの表示がカウントダウンします。
- 絞りリングのあるレンズを使用するときは、絞りリングの設定が優先されます。

撮影モード：iA P A S M CUST SCN

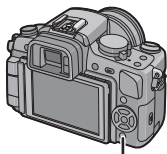
絞り効果とシャッタースピード効果を確認する（プレビューモード）

絞り効果を確認する

実際に撮影される絞り値までレンズの絞り羽根を物理的に絞り込むことにより、被写界深度（ピントの合っている範囲）を確認することができます。

[ ]（プレビュー）を押す

- プレビュー画面が表示されます。
  もう一度[ ]を押すと元の画面に戻ります。

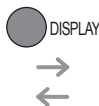
ボタン

■ 被写界深度の性質

		小さい	大きい
撮影条件	絞り値	小さい	大きい
	レンズの焦点距離	望遠	広角
	被写体までの距離	近い	遠い
被写界深度（ピントの合っている範囲）		浅い（狭い） 例：背景をぼかして撮りたいときなど	深い（広い） 例：背景までピントを合わせて撮りたいときなど

シャッタースピード効果を確認する

実際に撮影されるシャッタースピードでの画面を表示し、動きを確認することができます。シャッタースピードを速く設定すると、シャッタースピードプレビュー画面での画面表示がコマ落としのように表示されます。水の流れなど、動きを止めて撮影したいときに確認してください。

プレビュー画面表示中に [DISPLAY] を押す

- シャッタースピードプレビュー画面が表示されます。もう一度[DISPLAY]を押すと元の画面に戻ります。

お知らせ

- カスタムメニューの[プレビュー維持]（P109）で[ ]の操作方法を変更できます。
- プレビューモード中でも撮影することができます。
- シャッタースピード効果確認の範囲は、8～1/1000秒です。

撮影モード：

人物や風景を表情豊かに撮る（アドバンスシーンモード）

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

人物、風景、スポーツ、花、夜景&人物などの被写体では、撮影状況に合わせてより効果的な撮影ができます。

1 モードダイヤルを合わせる

2 ◀/▶ でアドバンスシーンモードを選ぶ

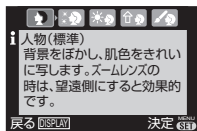
- 前ダイヤルでも設定できます。

(例) 選択時

3 [MENU/SET] を押して決定する

- 選択したアドバンスシーンモードの撮影画面になります。

■ インフォメーションについて

- 手順2でアドバンスシーンモードを選んだときに[DISPLAY]を押すと、選択されているアドバンスシーンモードの説明が表示されます。(もう一度押すと手順2の画面に戻ります)

お知らせ

- アドバンスシーンモードを変更したい場合は、[MENU/SET]を押し▲/▼/◀/▶でアドバンスシーンモードメニュー[SCN]を選んだ状態で▶を押して上記手順2に戻ります。
- アドバンスシーンモードを変更して使用すると、アドバンスシーンモードのフラッシュ設定は初期設定に戻ります。
- アドバンスシーンモードで用途に合わない場面を撮影すると、画像の色合いが変わる場合があります。
- アドバンスシーンモード時は、カメラが自動で最適に調整するため、以下の設定はできません。
  - ・ISO感度/フィルムモードの[スタンダード]、[スタンダード B&W (白黒)]以外の項目/[測光モード]/[フラッシュシンクロ]/[暗部補正]/[デジタルズーム]/[ISO感度上限設定]

■ クリエイティブ設定時の絞り・シャッタースピードについて

- アドバンスシーンモードのクリエイティブを選択すると、絞り値・シャッタースピードを変更できます。前ダイヤルを回して適正露出にならないときは、絞り値とシャッタースピードの数値および選択カーソルが赤くなります。
- ◀/▶ でも設定できます。
- 前ダイヤルを押すと、絞り設定操作またはシャッタースピード設定操作と、露出補正操作が切り換わります。

人物や風景を表情豊かに撮る（アドバンスシーンモード）（つづき）

人物モード

人物を引き立て、肌色を健康的に出します。

	人物（標準）	背景をぼかし、肌色を健康的に撮影できます。
	美肌	肌の表面を特になめらかに表現します。 ● 背景などに肌色に近い色をした個所があると、その部分も同時になめらかになります。 ● 明るさが不十分なときは、効果がわかりにくい場合があります。
	屋外人物	明るい屋外で顔が暗くなるのを防ぎます。
	屋内人物	屋内での被写体ブレを防ぐため、最適なISO感度設定を行います。
	クリエイティブ人物	絞り値（P89）を変更することで、背景のぼけ具合を変えることができます。

撮影のテクニック

● ズームの位置はできるだけT側（望遠）にし、被写体までの距離を近くにするとより効果が出ます。

お知らせ

● [屋内人物]ではインテリジェントISOが働き、最高ISO感度が[ISO400]になります。
● オートフォーカスモードの初期設定は[]になります。

風景モード

広がりのある風景を撮影できます。

	風景（標準）	遠くにある被写体に優先的にピントを合わせます。
	自然	自然の風景を撮るのに適しています。
	建物	建物がシャープに写る設定です。ガイドラインを表示します。（P60）
	クリエイティブ風景	[風景（標準）]の設定で、シャッタースピード（P89）の変更ができます。

スポーツモード

スポーツシーンなど、動きの速い場面を撮りたいときなどに合わせてください。

	スポーツ(標準)	速めのシャッタースピードで動きを止めながら、ISO感度もコントロールします。
	屋外スポーツ	天気の良い屋外撮影で動きを止めるために、速いシャッタースピードになります。
	屋内スポーツ	屋内撮影でのブレを防ぐため、ISO感度を高くしてシャッタースピードを速くします。
	クリエイティブスポーツ	[スポーツ(標準)]の設定で、シャッタースピード(P89)の変更ができます。

クローズアップモード

花などの被写体に近づいて撮りたいときに合わせてください。
(近接して撮影できる距離は、使用するレンズにより異なります)

	花	マクロの設定で屋外の花を自然な色で撮影できます。ガイドラインを表示します。(P60)
	料理	レストランなどで、周囲の光に影響されずに料理を自然な色調にします。
	コレクション	アクセサリーやコレクションなどの小物を、くっきり明るく、色鮮やかに撮影できます。
	クリエイティブクローズアップ	マクロの設定で、絞り値(P89)を変更することで、背景のぼけ具合を変えることができます。

お知らせ

- 三脚を使用し、セルフタイマーを使って撮影することをおすすめします。
- 近距離で撮影する場合は、フラッシュを[ ]にすることをおすすめします。
- ピントが合う範囲は、使用するレンズによって異なります。詳しくは、78ページの「撮影距離基準について」をお読みください。
- 被写体が近い場合は、ピントの合っている範囲が非常に狭くなりますので、ピントを合わせたあと、カメラと被写体との距離が変化するとピントが合いにくくなります。
- クローズアップモード撮影時は近距離側を優先するため、遠くの被写体を撮影する場合は、ピントが合うのに時間がかかります。
- 近距離で撮影する場合は、画像の周辺部の解像度が少し低下する場合がありますが、故障ではありません。
- レンズに指紋やほこりなどの汚れがついていると、レンズにピントが合ってしまい被写体にピントが合わない場合がありますのでお気をつけください。

人物や風景を表情豊かに撮る（アドバンスシーンモード）（つづき）

夜景&人物モード

人物とともに背景も見た目に近い明るさに撮影できます。

	夜景 & 人物	夜景を背景に人物を撮る際に使います。 ● **フラッシュを開いてください。**（[ ]に設定できます） ●オートフォーカスモードの初期設定は[ ]になります。
	夜景	スローシャッターにより、夜景が鮮やかに写ります。
	イルミネーション	イルミネーションをきれいに写します。
	クリエイティブ夜景	[夜景]の設定で、絞り値(P89)を変更することができます。

撮影のテクニック
- 三脚を使用し、セルフタイマーを使って撮影することをおすすめします。
- [夜景&人物]選択時は、被写体の人に撮影後約1秒間は動かないように伝えてください。
- [夜景 & 人物]選択時は、ズームを広角にして、被写体から約1.5 mほど離れたところから撮影することをおすすめします。

お知らせ
- 暗い場面で撮影すると、ノイズが目立つことがあります。
- 撮影後に、シャッターが閉じたままになることがありますが、信号処理のためで、異常ではありません。

撮影シーンに合わせて撮る（SCN：シーンモード）

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

被写体や撮影状況に合わせてシーンモードを選択すると、カメラが最適な露出や色調を設定し、シーンに合った撮影ができます。

1 モードダイヤルを[SCN]に合わせる

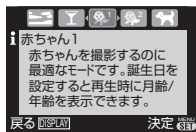
2 ◀/▶でシーンモードを選ぶ

- 前ダイヤルでも設定できます。

3 [MENU/SET]を押して決定する

- 選択したシーンモードの撮影画面になります。

■ iインフォメーションについて

- 手順2でシーンモードを選んだときに[DISPLAY]を押すと、選択されているシーンモードの説明が表示されます。（もう一度押すとシーンモードのメニュー画面に戻ります）

お知らせ

- シーンモードを変更したい場合は、[MENU/SET]を押し▲/▼/◀/▶でシーンモードメニュー[SCN]を選んだ状態で▶を押して、上記手順2に戻ります。
- シーンモードを変更して使用すると、シーンモードのフラッシュ設定は初期設定に戻ります。
- シーンモードで用途に合わない場面を撮影すると、画像の色合いが変わる場合があります。
- シーンモード時は、カメラが自動で最適に調整するため以下の設定はできません。
  ・ISO感度/フィルムモードの[スタンダード]、[スタンダードB&W（白黒）]以外の項目/[測光モード]/[フラッシュシンクロ]/[暗部補正]/[デジタルズーム]/[ISO感度上限設定]

項目	設定・お知らせ
夕焼け 夕焼けの風景を撮りたいときに合わせてください。赤色を鮮やかに撮影できます。	—
パーティー 結婚式や室内でのパーティーなどで撮影したいときに合わせてください。人物とともに背景も見た目に近い明るさに撮影できます。	**撮影のテクニック** **●フラッシュを開いてください。（[⚡S◎]に設定できます）** ●三脚を使用し、セルフタイマーを使って撮影することをおすすめします。 ●ズームを広角にして、被写体から約1.5 mほど離れたところから撮影することをおすすめします。 ●オートフォーカスモードの初期設定は[顔]になります。

撮影シーンに合わせて撮る（SCN：シーンモード）（つづき）

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

<table>
<tr><th>項目</th><th>設定･お知らせ</th></tr>
<tr><td>赤ちゃん1/
赤ちゃん2

赤ちゃんの肌を健康的に出し、フラッシュ使用時にはフラッシュの光が通常より弱めに発光します。
[赤ちゃん1]と[赤ちゃん2]のそれぞれに、異なる誕生日を設定できます。
再生時に月齢/年齢を表示させることができます。</td><td>月齢/年齢表示設定
● 月齢/年齢を表示させるために、はじめに誕生日設定を行い、撮影前に必ず[月齢/年齢あり]に設定してください。
赤ちゃん1
月齢/年齢あり
月齢/年齢なし
誕生日設定
戻る 選択 決定

誕生日設定
1 ▲/▼ で [誕生日設定] を選び、[MENU/SET] を押す
2 ◀/▶ で項目(年･月･日)を選び、▲/▼ で設定する
● 誕生日が登録されていない場合に[月齢/年齢あり]に設定すると、自動的に設定画面が表示されます。
3 [MENU/SET] を押して決定する
● 前ダイヤルでも設定できます。

月齢 / 年齢の表示を解除するには
「誕生日設定」の手順 1 で[月齢/年齢なし]に設定してください。

● CD-ROM(付属)のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO-viewer-」を使って月齢/年齢をプリントすることができます。
● [月齢/年齢なし]に設定していると、時計設定、誕生日設定をしていても月齢/年齢は記録されません。撮影後に[月齢/年齢あり]に設定しても表示されません。
● インテリジェントISOが働き、最高ISO感度は[ISO400]になります。
● 起動した場合に約５秒間、月齢/年齢が現在日時とともに画面の左下に表示されます。
● 月齢/年齢が正しく表示されないときは、時計設定または誕生日設定を確認してください。
● [設定リセット]で誕生日設定のリセットができます。
● オートフォーカスモードの初期設定は[顔]になります。</td></tr>
<tr><td>ペット

犬や猫などのペットを撮りたいときに合わせてください。
ペットの誕生日を設定できます。再生時に月齢/年齢を表示させることができます。</td><td>月齢/年齢表示設定、誕生日設定については、[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2]をお読みください。

● [AF補助光]の初期設定は[OFF]になります。
● インテリジェントISOが働き、最高ISO感度は[ISO800]になります。
● オートフォーカスモードの初期設定は[追尾]になります。
● その他のお知らせについては、[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2]をお読みください。</td></tr>
</table>

撮影モード：[マイカラー]

色を調整しながら撮る（[マイカラー]：マイカラーモード）

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

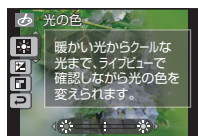
被写体を液晶モニターまたはファインダーに映して（ライブビュー）手軽に確認しながら、光の色、明るさ、色の鮮やかさを調整して撮影することができます。

1 モードダイヤルを［[マイカラー]］に合わせる

2 ▲/▼で項目を選び、◀/▶で調整する

- 前ダイヤルでも設定できます。

項目	調整内容
光の色	画像の色合い（±5の11段階）
明るさ	画像の明るさ（±5の11段階）
鮮やかさ	色の濃さ（±5の11段階）
リセット	すべての設定を標準に戻します。

- ［DISPLAY］を押すと、調整項目の説明が表示されます。（もう一度押すと選択画面に戻ります）

3 ［MENU/SET］を押して決定する

- シャッターボタン半押しでも決定できます。
- 撮影画面が表示されます。

■ マイカラー設定を標準に戻す

1 上記手順2で［リセット］を選ぶ

2 ◀で［はい］を選び、［MENU/SET］を押す

- 各項目の調整値が標準（中心点）に戻ります。

■ マイカラー設定を調整し直す

前ダイヤルまたは▲/▼/◀/▶のいずれかを押し、上記手順2に戻る

- ISO感度設定（P84）、Fnボタン操作（P34）、オートフォーカスモード設定（P74）は▲/▼/◀では操作できなくなります。クイックメニュー（P33）を使って設定してください。

お知らせ

- マイカラーモードで行った調整は、他の撮影モードには反映されません。
- 設定したマイカラー設定は、電源を［OFF］にしても記憶しています。
- マイカラー設定を調整すると、液晶モニター／ファインダーに調整した項目のアイコンが表示されます。表示されるアイコンは、調整した方向のものが表示されます。
- マイカラーモード時は、オートブラケット撮影はできません。
- ［鮮やかさ］で色を薄くなるように調整した場合は、追尾AFが働かないことがあります。

撮影モード：iA P A S M CUST SCN

お好みのメニュー設定を登録する（カスタムセット登録）

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

現在のカメラの設定内容をカスタムセットとして3つまで登録しておくことができます。

- あらかじめ、保存したい状態のモードダイヤルに合わせ、本機でメニュー設定をしておいてください。

1 カスタムメニューから[カスタムセット登録]を選ぶ(P31)

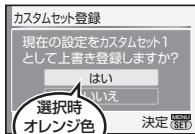
2 ▲/▼で登録したいカスタムセットを選び、[MENU/SET]を押す

3 ▲で[はい]を選び、[MENU/SET]を押す

- [はい]を選ぶと、前に保存していた設定が上書きされます。
- 以下のメニュー項目は他の撮影モードに反映されるため、保存されません。
  - ・[時計設定]
  - ・[番号リセット]
  - ・[設定リセット]
  - ・[シーンメニュー]
  - ・シーンモードの[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2]、[ペット]の誕生日設定

4 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

- シャッターボタン半押しでも終了できます。

撮影モード：[CUST]

カスタムモードで撮る（[CUST]：カスタムモード）

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

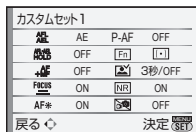
撮影状況などに合わせて、[カスタムセット登録]で保存した登録パターン（カスタムセット）を選択することができます。
お買い上げ時、カスタムセットにはプログラムAEモードの初期設定が登録されています。

1 モードダイヤルを[CUST]に合わせる

2 [MENU/SET]を押して、メニューを表示する

3 ▲/▼で使いたいカスタムセットを選ぶ

- ▶または前ダイヤルを押すと、メニューの設定内容が表示されます。（◀を押すと選択画面に戻ります）
- 一部のメニュー項目のみ表示されます。（表示されるメニュー項目については下記を参照してください）

AFL/AEL	AF/AEロック切替	P-AF	プリAF
AFL·AEL HOLD	AF/AEロック維持	Fn	Fnボタン設定
AF+MF	AF+MF	[オートレビュー]	オートレビュー·オートズーム
FOCUS	フォーカス優先	NR	長秒ノイズ除去
AF✳	AF補助光	[レンズ無し]	レンズ無しレリーズ

4 [MENU/SET]を押して決定する

- 選択されているカスタムセット表示が画面に表示されます。

■ メニュー設定を変更する場合は

カスタムセットのいずれかを選択した状態で一時的にメニュー設定を変更しても、登録内容は変更されません。
登録内容を変更する場合は、カスタムメニューの[カスタムセット登録]（P100）で登録内容を上書きしてください。

お知らせ

- 以下のメニュー項目を変更した場合、他の撮影モードにも反映されます。
  - ·[時計設定]
  - ·[番号リセット]
  - ·[設定リセット]
  - ·[シーンメニュー]
  - ·シーンモードの[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2]、[ペット]の誕生日設定

<table>
<tr><th>項目</th><th>設定・お知らせ</th></tr>
<tr><td>画像横縦比

プリントや再生方法に合わせて、画像の横縦比を選択できます。</td><td>使えるモード: iA P A S M CUST SCN
[4:3]: 4:3テレビの横縦比
[3:2]: 一般のフィルムカメラの横縦比
[16:9]: ハイビジョンテレビなどの横縦比
[4:3]設定時 [3:2]設定時 [16:9]設定時
● プリント時に端が切れることがありますので、事前にご確認ください。(P154)</td></tr>
<tr><td>記録画素数

記録画素数を設定します。画素数が大きいほど、大きな用紙にプリントしても鮮明な画像になります。</td><td>使えるモード: iA P A S M CUST SCN
画像横縦比: [4:3]のとき
<table><tr><th>項目</th><th>記録画素数</th></tr><tr><td>L</td><td>4000×3000画素(1200万画素相当)</td></tr><tr><td>M</td><td>2816×2112 画素(590万画素相当)</td></tr><tr><td>S</td><td>2048×1536画素(310万画素相当)</td></tr></table>画像横縦比: [3:2]のとき
<table><tr><th>項目</th><th>記録画素数</th></tr><tr><td>L</td><td>4000×2672画素(1070万画素相当)</td></tr><tr><td>M</td><td>2816×1880 画素(530万画素相当)</td></tr><tr><td>S</td><td>2048×1360画素(280万画素相当)</td></tr></table>画像横縦比: [16:9]のとき
<table><tr><th>項目</th><th>記録画素数</th></tr><tr><td>L</td><td>4000×2248画素(900万画素相当)</td></tr><tr><td>M</td><td>2816×1584画素(450万画素相当)</td></tr><tr><td>S</td><td>1920×1080画素(210万画素相当)</td></tr></table></td></tr>
</table>

<table>
<tr><th>項目</th><th>設定・お知らせ</th></tr>
<tr><td>記録画素数
（つづき）</td><td>●[EX光学ズーム]（P105）を[ON]に設定している場合は、各画像横縦比の[L]以外の記録画素数に[EZ]が表示されます。
EZ とは「Ex. optical Zoom」の略で、EX 光学ズームを表します。
●デジタル画像は画素という点が集まって作られています。画素が多いと大きな用紙にプリントしたときやパソコンの画面で見たときでも、きめ細かな画像になります。
画素が多い
（きめ細かい）
画素が少ない
（粗い）
※画像は効果を説明するためのイメージです。
●画像横縦比を変更したときは、記録画素数をもう一度設定してください。
●記録可能枚数については、163ページをお読みください。</td></tr>
<tr><td>クオリティ

画像を保存するときの圧縮率を設定します。</td><td>使えるモード： iA P A S M CUST SCN
[ファイン]（ファイン）：画質を優先するとき
[スタンダード]（スタンダード）：標準画質で、画素数を変えずに記録枚数を増やすとき
[RAW ファイン]（RAW+ ファイン）：ファイン相当の JPEG 画像を同時に作りたいとき※1
[RAW スタンダード]（RAW+ スタンダード）：スタンダード相当の JPEG 画像を同時に作りたいとき※1
[RAW]（RAW）：パソコンで画像を高画質で加工したいとき※2
※ 1 本機でRAW画像を削除すると、JPEG画像も同時に削除されます。
※ 2 各画像横縦比の最大記録画素数に固定されます。
●記録可能枚数については、163ページをお読みください。
●RAWファイルを利用すると、より高度な画像の編集が可能です。編集した画像はパソコンなどで表示できるファイル形式（JPEG、TIFFなど）で保存できます。
RAWファイルの現像や編集には、CD-ROM（付属）のソフトウェア（市川ソフトラボラトリー「SILKYPIX Developer Studio」）をお使いください。
●[RAW]は[RAW ファイン]または[RAW スタンダード]よりも小さいデータ容量で記録できます。
●[RAW]で撮影された画像には、[DPOFプリント]および[お気に入り]は設定できません。</td></tr>
</table>

項目	設定・お知らせ
[⊡]測光モード 明るさを測る測光方式を切り換えることができます。	**使えるモード：** P A S M CUST ✎ [⊡]（マルチ測光）： 画面全体の明るさの配分をカメラが自動的に評価して、露出が最適になるように測光する方式です。通常はこの方式に合わせて使用することをおすすめします。 [ ]（中央重点測光）： 画面中央部の被写体に重点を置いて、画面全体を平均的に測光する方式です。 [•]（スポット測光）： スポット測光ターゲット上の被写体に対して測光する方式です。 **スポット測光ターゲット** ● [⊡]選択時、オートフォーカスモードを[顔]に設定すると、人の顔に合わせて露出を調整し、[追尾]に設定すると、ロックした被写体に合わせて露出を調整します。
((✋))手ブレ補正 撮影時の手ブレを感知して、カメラが自動的に補正し、ブレの少ない画像を撮ることができます。 **レンズのOISスイッチが[ON]になっていることを確認してください。**	**使えるモード：** iA P A S M CUST ✎ SCN [MODE1]：　撮影モード時、常に手ブレを補正します。 [MODE2]：　シャッターボタンを押すと手ブレを補正します。 [MODE3]：　上下の動きに対する手ブレを補正します。流し撮り（一定の方向に向かって動いている被写体の動きに合わせて、本機を振りながら撮影する方法）するときに適しています。 ● 以下の場合、手ブレ補正が効きにくくなることがあります。 ・手ブレが大きいとき、ズーム倍率が高いとき ・デジタルズーム使用時 ・動きのある被写体を追いながら撮影するとき ・室内や薄暗い場所での撮影で、シャッタースピードが遅くなるとき シャッターボタンを押し込む際は、手ブレにお気をつけください。 ● 以下の場合、[MODE3]での流し撮りの効果が出にくくなります。 ・夏の日中など、明るいところ ・シャッタースピードが1/100より速い場合 ・被写体の動きが遅く、本機を振る速度があまりにも遅い場合（背景が流れません） ・本機が被写体の動きにうまく追いつけていない場合 ● [MODE3]での流し撮りは、ファインダー撮影をおすすめします。 ● 手ブレ補正機能のないレンズを使用した場合、[手ブレ補正]は選択できません。

項目	設定・お知らせ
フラッシュ フラッシュの設定を切り換えることができます。	使えるモード: P A S M CUST SCN [⚡A]、[⚡A◎]、[⚡]、[⚡◎]、[⚡S]、[⚡S◎] ● 詳しくは、62ページをお読みください。
デジタル赤目補正 赤目軽減([⚡A◎]、[⚡◎]、[⚡S◎])選択時にフラッシュが発光すると、赤目を自動的に検出して画像データを修正します。	使えるモード: P A S M CUST SCN [OFF]、[ON] ● 赤目の状態によっては補正できない場合があります。また、目以外の物が補正される場合があります。
フラッシュシンクロ 後幕シンクロの設定をすることができます。	使えるモード: P A S M CUST [先幕(さきまく)]、[後幕(あとまく)] ● 詳しくは、67ページをお読みください。
フラッシュ光量調整 フラッシュの発光量を調整することができます。	使えるモード: P A S M CUST SCN [−2 EV]、[−1 2/3 EV]、[−1 1/3 EV]、[−1 EV]、[−2/3 EV]、[−1/3 EV]、[0 EV]、[+1/3 EV]、[+2/3 EV]、[+1 EV]、[+1 1/3 EV]、[+1 2/3 EV]、[+2 EV] ● 詳しくは、66ページをお読みください。
i◐ 暗部補正(インテリジェント暗部補正) 背景と被写体の明暗差が大きい場合など、撮影状況に合わせて、コントラストや露出を自動的に補正します。	使えるモード: P A S M CUST [OFF]、[弱]、[中]、[強] ● ISO感度が[ISO100]のときでも、[暗部補正]有効時に撮影すると、ISO感度は[ISO100]より大きくなることがあります。 ● 撮影条件によっては、補正効果が得られない場合があります。 ● [暗部補正]有効時には、画面の[i◐]が黄色になります。 ● [弱]、[中]、[強]は効果の最大範囲を表します。
EZ EX光学ズーム 画像を劣化させずに拡大することができます。	使えるモード: P A S M CUST SCN [OFF]、[ON] ● 詳しくは、53ページをお読みください。

項目	設定・お知らせ
デジタルズーム 光学ズーム、またはEX光学ズームよりも、さらに拡大することができます。	使えるモード: P A S M CUST [OFF]、[2×]、[4×] ● 詳しくは、53ページをお読みください。 ● ズーム時に手ブレが気になるときは[手ブレ補正]を[MODE1]に設定することをおすすめします。
連写速度 連写時の速度を設定します。	使えるモード: P A S M CUST SCN [H]、[L] ● 詳しくは、69ページをお読みください。
オートブラケット オートブラケット撮影時の露出の補正幅、撮影順序を設定します。	使えるモード: P A S M CUST SCN [補正幅]: [3・1/3]、[3・2/3]、[5・1/3]、[5・2/3]、[7・1/3]、[7・2/3] [ブラケット順序]: [0/−/+]、[−/0/+] ● 詳しくは、71ページをお読みください。
セルフタイマー セルフタイマーの時間を設定します。	使えるモード: P A S M CUST SCN [10]、[10]、[2] ● 詳しくは、73ページをお読みください。
色空間 撮影した画像をパソコンの画面やプリンターなどで再現する場合に、色再現を正しく行うための方式を設定します。	使えるモード: P A S M CUST SCN [sRGB]: sRGB色空間に設定します。パソコンを中心とした機器で広く使われています。 [AdobeRGB]: AdobeRGB色空間に設定します。AdobeRGB色空間はsRGB色空間よりも色再現の範囲が広いため、主に商用印刷などの業務用途で使われています。 ● 色空間の設定によって、撮影した画像のファイル名は以下のように変わります。 P1000001.JPG P : sRGB _ : AdobeRGB ● AdobeRGBについての専門的な知識がない方は、sRGBに設定してください。

撮影メニューの設定方法はP31へ

項目	設定・お知らせ
NR 長秒ノイズ除去 夜景撮影など、シャッタースピードを遅くして撮影することで発生するノイズを、カメラが自動的に取り除き、きれいな画像を撮影することができます。	使えるモード: P A S M CUST SCN [OFF]、[ON] ● ノイズ除去中は、信号処理のために選択したシャッタースピードと同じ時間「しばらくお待ちください」と表示されます。 ● シャッタースピードを遅くして撮影する場合は、三脚の使用をおすすめします。
ISO感度上限設定 被写体の明るさに応じて、選択した数値を上限として最適な ISO 感度を設定します。	使えるモード: P A S CUST [OFF]、[200]、[400]、[800]、[1600] ● ISO感度の上限を設定できます。 ● ISO感度を高い数値に設定するほど、被写体ブレをおさえる効果が得られますが、ノイズは増加します。 ● ISO感度が [AUTO] または[ISO]時に働きます。
ISO ISO感度ステップ [ISO100]～[ISO3200]までのISO感度の設定を、1/3 EVごとの設定値に変更します。	使えるモード: P A S M CUST SCN [1/3 EV]: [100]、[125]、[160]、[200]、[250]、[320]、[400]、[500]、[640]、[800]、[1000]、[1250]、[1600]、[2000]、[2500]、[3200] [1 EV]: [100]、[200]、[400]、[800]、[1600]、[3200] ● [1/3 EV]から[1 EV]に設定を変更すると、元の設定値に最も近い値になります。(もう一度[1/3 EV]に変更した場合、設定値は戻りません)

必要に応じて設定してください。

カスタムメニューを使う

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

項目	設定(▶ はお買い上げ時の設定です)・お知らせ
カスタムセット登録 現在のカメラの設定内容をカスタムセットとして3つまで登録しておくことができます。	▶ [C1 SET1] [C2 SET2] [C3 SET3] ● 詳しくは、100ページをお読みください。
LVF表示スタイル ファインダーの表示方法を設定します。	▶ [ ]:ファインダースタイル [ ]:液晶モニタースタイル ● 詳しくは、59ページをお読みください。
LCD表示スタイル 液晶モニターの表示方法を設定します。	[ ]:ファインダースタイル ▶ [ ]:液晶モニタースタイル ● 詳しくは、58ページをお読みください。
LCD撮影情報画面 液晶モニターの撮影情報画面の色を設定します。(P58)	[OFF] ▶ [1]:青系色 [2]:赤系色 [3]:黒系色
LVF/LCD自動切替 ファインダーに目や物を近づけるとアイセンサーが働き、自動的にファインダー表示に切り換わります。離すと、液晶モニター表示に戻ります。	[OFF] ▶ [ON] ● [LVF/LCD]を押すと液晶モニター表示とファインダー表示を手動で切り換えることができます。(P41)
ヒストグラム ヒストグラムを表示するかしないかを設定します。(P61)	▶ [OFF] [ON]: ヒストグラムの位置を設定できます。 設定方法は、61 ページをお読みください。
ガイドライン表示 撮影時に表示するガイドラインのパターンを設定します。(P60)	▶ [OFF] [ ] [ ] [ ]: ガイドラインの位置を設定できます。 設定方法は、60 ページをお読みください。

項目	設定(▶ はお買い上げ時の設定です)・お知らせ
AF/AEロック切替 ピントや露出を固定して撮影する際の[AF/AE LOCK]ボタンでの固定内容を設定します。	▶ [AE]: 露出だけを固定します。 [AF]: ピントだけを固定します。 [AF/AE]: ピントと露出を固定します。 ●詳しくは、79ページをお読みください。
AF/AEロック維持 ピントや露出を固定して撮影する際の[AF/AE LOCK]のボタン動作を設定します。	▶ [OFF]: [AF/AE LOCK]を押している間だけピントや露出が固定されます。(P79) [AF/AE LOCK] を離すと、ロックが解除されます。 [ON]: [AF/AE LOCK] を押したあと、離してもピントや露出が固定されます。 もう一度[AF/AE LOCK]を押すと、ロックが解除されます。
プレビュー維持 プレビュー画面を表示する際の[ ]のボタン動作を設定します。	[OFF]: [ ]を押している間だけプレビュー画面が表示されます。 [ ]を離すと、元の画面に戻ります。 ▶ [ON]: [ ]を押したあと、離してもプレビュー画面が表示されます。(P92) もう一度 [ ]を押すと、元の画面に戻ります。
プリAF 設定に応じて、シャッターボタン半押し前にカメラがピント合わせを自動的に行います。	▶ [OFF] [Q-AF](クイックAF) [C-AF](コンティニュアスAF) **Q-AF/C-AFについて** [Q-AF]はカメラのブレが小さくなると、カメラが自動的にピントを合わせます。[C-AF]は常時ピント合わせを行います(AF連続動作)。カメラが自動的にピント合わせを行い、シャッターボタンを押した際のピント合わせが速くなります。シャッターチャンスを逃したくないときなどに有効です。 ●バッテリーの消耗は早くなる場合があります。 ●撮影中、ピントが合いにくいときは、再度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせてください。 ●[C-AF]に設定しているとき、ズームをW端からT端に回したり、急に被写体を遠くから近くに変えたあとは、ピントが合うまでに時間がかかることがあります。 ●[プリAF]は、オートフォーカスのできないレンズでは働きません。また、[C-AF]は、対応したレンズ(P18)を使用しているときのみ使えます。
ダイレクト1点AF移動 撮影時に簡単にAFエリアの移動や枠の大きさを変更します。	▶ [OFF] [ON]: オートフォーカスモードの[■]選択時に▲/▼/◀/▶でAFエリアを自由に移動することができます。 ●詳しくは、76ページをお読みください。

カスタムメニューを使う（つづき）

項目	設定（▶はお買い上げ時の設定です）・お知らせ
フォーカス優先 ピントが合っていない場合は撮影できないように設定します。	[OFF]：シャッターチャンスを優先させるため、シャッターボタンを全押しすると、撮影されます。 ▶ [ON]：ピントが合うまで撮影できません。 ●[OFF]に設定すると、フォーカスモードを[AFS]または[AFC]に設定していても、ピントが合っていない場合がありますのでお気をつけください。
AF補助光 撮影場所が暗くピントが合いにくいときに、光を当ててピントを合わせやすくすることができます。	[OFF]：点灯しません。 ▶ [ON]：暗い場所での撮影時、シャッターボタン半押しでAF補助光ランプが点灯します。（大きなAFエリアが表示されます） ●補助光の有効距離は、使用するレンズによって異なります。 ・DMC-G1KおよびDMC-G1Wに同梱の交換レンズ14–45 mm/F3.5–5.6装着、W端時：約1.0 m～約3.0 m ・DMC-G1Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6装着、W端時：約1.0 m～約2.5 m ●暗闇で動物を撮るときなど、暗い場所でAF補助光ランプを光らせたくない場合は、[OFF]に設定してください。このとき、ピントは合いにくくなります。 ●レンズフードは外してください。 ●AF補助光ランプを隠す大口径レンズをお使いの場合は、補助光がケラレるため、十分な性能を発揮できないことがあります。
AF+MF 自動でピントを合わせたあと、手動でピントを合わせることができます。	▶ [OFF] [ON]：AFロックしている間（フォーカスモードが[AFS]時のシャッターボタン半押し、または[AF/AE LOCK]でのAFロック）にフォーカスリングを回して手動でピントを微調整することができます。
MF アシスト マニュアルフォーカス時に、ピントが合わせやすくなります。	[OFF] ▶ [ON]：フォーカスリングを回すと自動で画面中央部が拡大表示されます。 ●詳しくは、77ページをお読みください。
露出設定切替 モードダイヤルをP/A/S/Mに切り換えたときの露出補正設定切り換えの方法を変更します。	▶ **[前ダイヤル押し]**： 露出補正、プログラムシフト、絞り設定、またはシャッタースピード設定を、前ダイヤルを押して切り換えます。 **[LVF/LCDボタン押し]**： 露出補正、プログラムシフト、絞り設定、またはシャッタースピード設定を、[LVF/LCD]を押して切り換えます。

項目	設定（▶ はお買い上げ時の設定です）・お知らせ
露出設定切替（つづき）	●切り換えられる設定項目は、撮影モードによって異なります。 ●[LVF/LCDボタン押し]に設定したときは、[LVF/LCD]を押して液晶モニターとファインダーを切り換えることはできません。 ●[LVF/LCD自動切替]を[OFF]に設定しているときは、[露出設定切替]は無効になります。 **撮影モードごとの設定項目** （下表参照）
ダイヤル操作ガイド モードダイヤルをP/A/S/Mに切り換えたときの操作切り換えガイドを表示するかしないかを設定します。	[OFF] ▶ [ON] ●[ON]に設定すると、露出補正、プログラムシフト、絞り設定、またはシャッタースピード設定の切り換えが可能な画面にダイヤル操作ガイドが表示されます。 ダイヤル操作ガイド
メニュー位置メモリー 最後に操作したメニューの位置を記憶します。	[OFF] ▶ [ON]
ピクセルリフレッシュ ダストリダクション(P157)を行うとともに、撮像素子と画像処理の最適化を行います。	●ダストリダクション機能は電源を[ON]にすると自動的に働きますが、特にごみが気になるときは、本機能をお使いください。 ●撮像素子と画像処理については、お買い上げ時は最適な状態に設定されていますので、お買い上げ後、1年に一度を目安に行ってください。 ●終了後は、電源を入れ直してください。
レンズ無しレリーズ 本体にレンズを取り付けていないときは、シャッターを切れないように設定することができます。	▶ [OFF]：本体にレンズを取り付けていないときやレンズが正しく取り付けられていないときには、シャッターが切れません。 [ON]：レンズの装着にかかわらず、シャッターが切れます。

撮影モードごとの設定項目

	（ダイヤル）	（押し込み）→（ダイヤル） または LVF/LCD →（ダイヤル）
P	プログラムシフト	露出補正
A	絞り値	露出補正
S	シャッタースピード	露出補正
M	シャッタースピード	絞り値

再生メニューを使う

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

撮影した画像の回転表示やプロテクト設定など、いろいろな再生機能を使うことができます。

- [リサイズ]、[トリミング]、または[横縦比変換]は、編集した画像を新しく作成します。カードの空き容量がない場合、新しい画像を作成することができませんので、容量に余裕があることを確認してから画像の編集を行うことをおすすめします。

スライドショー

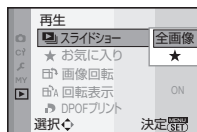
テレビに接続して画像を見るときにおすすめの再生方法です。
[お気に入り]設定(P113)しておけば不要な画像を飛ばして見ることができます。

1 再生メニューから[スライドショー]を選ぶ

- [お気に入り]を[ON]に設定しているとき→手順**2**へ
- [お気に入り]を[OFF]に設定しているとき→手順**3**へ

2 ▲/▼で[全画像]または[★]を選び、[MENU/SET]を押す

全画像: すべての画像を表示
★: お気に入り設定した画像(P113)のみ表示

- [お気に入り]を[ON]に設定していても、[★]の付いた画像が1枚もない場合は、[★]を選択できません。

3 ▲で[開始]を選び、[MENU/SET]を押す

4 ▼を押してスライドショーを終了する

■ スライドショー中の操作

再生中に表示されるカーソルは、▲/▼/◀/▶に対応しています。

※一時停止中のみ操作できます。

■ 再生間隔の設定について

手順3の画面で[再生間隔]を選んで設定してください。

項目	設定
[再生間隔]	1秒、2秒、3秒、5秒、MANUAL（マニュアル）（手動再生）

- [MANUAL]は、手順2の画面で[★]を選んだときのみ選択できます。
- [MANUAL]を選んだ場合は、◀/▶を押して前後の画像を表示してください。

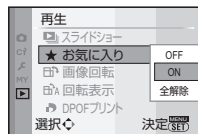
★お気に入り

画像にマークを付け、お気に入り画像として設定しておくと、以下のことができます。

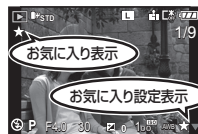
- お気に入りに設定した画像のみスライドショーする。
- お気に入りに設定した画像以外を削除する。（[★以外全削除]）

1 再生メニューから[お気に入り]を選ぶ

2 ▼で[ON]を選び、[MENU/SET]を押す

- [OFF]に設定するとお気に入り設定できません。設定済み画像の表示[★]も表示されません。

3 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

4 再生中に◀/▶で画像を選び、▼で設定する

- この手順を繰り返します。
- もう一度▼を押すと解除されます。

■ [お気に入り]設定を全解除する

1 手順2で[全解除]を選び、[MENU/SET]を押す
2 ▲で[はい]を選び、[MENU/SET]を押す
3 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

- 設定済みの画像が1枚もない場合は、[全解除]を選択できません。

お知らせ

- 999枚まで設定できます。
- お店にプリントを依頼するときに、[★以外全削除](P57)の機能を利用すると、プリントに出したい画像だけをカードに残しておけるので便利です。
- 他機で撮影された画像では、[お気に入り]設定ができない場合があります。
- CD-ROM（付属）のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO-viewer-」を使って、お気に入りの画像の設定や確認、解除をすることができます。

再生メニューを使う（つづき）

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

画像回転／回転表示

本機を縦に構えて撮影した画像を自動で縦向きに表示させたり、画像を手動で90°ごとに回転させることができます。

画像回転（画像を手動で回転する）

1 再生メニューから［画像回転］を選ぶ

- ［回転表示］を［OFF］に設定すると、［画像回転］は選択できません。

2 ◀/▶ で画像を選び、［MENU/SET］を押す

- プロテクトされた画像は回転できません。

3 ▲/▼ で回転方向を選び、［MENU/SET］を押す

↷：時計回りに90°回転します。
↶：反時計回りに90°回転します。

4 ［🗑］を押してメニュー画面に戻る

- ［MENU/SET］を押してメニューを終了します。

回転表示（画像を自動で回転して表示する）

1 再生メニューから［回転表示］を選ぶ

2 ▼で［ON］を選び、［MENU/SET］を押す

- ［OFF］に設定すると、画像は回転されずに表示されます。
- 画像を再生する方法については、54ページをお読みください。

再生
スライドショー
お気に入り　OFF
画像回転
回転表示　OFF / ON
DPOFプリント
選択　決定 MENU SET

3 ［MENU/SET］を押してメニューを終了する

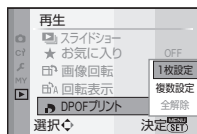
お知らせ

- ［回転表示］は、縦位置検出機能（P41）に対応したレンズ（P18）を使用しているときのみ使えます。
- パソコンで再生するとき、Exifに対応したOSまたはソフトウェアでないと、回転して表示されないことがあります。［Exifとは、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）にて制定された、撮影情報などの付帯情報を追加することができる静止画像用のファイルフォーマットです］
- 他機で撮影された画像は回転できない場合があります。

DPOFプリント

DPOFプリントに対応したお店やプリンターでプリントするときに、画像、枚数や日付プリントを指定することができます。詳しくは、お店にお尋ねください。

1 再生メニューから[DPOFプリント]を選ぶ

2 ▲/▼で[1枚設定]または[複数設定]を選び、[MENU/SET]を押す

3 画像を選び、[MENU/SET]を押す

[1枚設定]

◀/▶で選びます。

[複数設定]

▲/▼/◀/▶で選びます。

4 ▲/▼でプリント枚数を設定し、[MENU/SET]で決定する

- [複数設定]選択時は、手順**3**、**4**を繰り返してください。(一括設定することはできません)

5 [ ]を押してメニュー画面に戻る

- [MENU/SET]を押してメニューを終了します。

■ [DPOFプリント]設定を全解除する

1 手順**2**で[全解除]を選び、[MENU/SET]を押す
2 ▲で[はい]を選び、[MENU/SET]を押す
3 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

- [DPOFプリント]設定された画像が1枚もない場合は、[全解除]を選択できません。

■ 日付をプリントする

プリント枚数設定時、[DISPLAY]を押すごとに日付プリントを設定/解除できます。

- お店にデジタルプリントを依頼するときは、日付プリントすることをお店で指定してください。
- 日付プリントを設定しても、お店やプリンターによっては日付プリントできない場合があります。詳しくは、お店に尋ねるか、プリンターの説明書をお読みください。

お知らせ

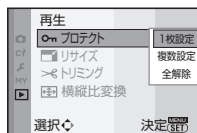
- プリント枚数は0～999枚まで設定できます。
- PictBridge対応のプリンターでは、プリンター側の日付プリント設定が優先される場合がありますので、確認してください。
- 他機で設定した[DPOFプリント]設定は利用できない場合があります。そのときはすべて解除してから再設定してください。
- DCF規格に準拠していないファイルには設定できません。

▲/▼/◄/► はカーソルボタンの上下左右を表しています。

プロテクト

画像を誤って削除することがないように、削除したくない画像にプロテクトを設定することができます。

1 再生メニューから[プロテクト]を選ぶ

2 ▲/▼で[１枚設定]または[複数設定]を選び、[MENU/SET]を押す

3 画像を選び、[MENU/SET]で設定する

[複数設定]選択時

- この手順を繰り返します。
- もう一度[MENU/SET]を押すと設定が解除されます。

[１枚設定]

◄/► で選びます。

[複数設定]

▲/▼/◄/► で選びます。

4 [ ]を押してメニュー画面に戻る

- [MENU/SET]を押してメニューを終了します。

■ [プロテクト]設定を全解除する

1 手順2で[全解除]を選び、[MENU/SET]を押す

2 ▲で[はい]を選び、[MENU/SET]を押す

3 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

- 全解除中に[MENU/SET]を押すと、途中で全解除が中止されます。

お知らせ

- [プロテクト]設定は本機以外では無効になる場合がありますので、お気をつけください。
- 画像をプロテクトしても、フォーマットした場合は削除されます。
- 画像をプロテクトしなくても、SDメモリーカードまたはSDHCメモリーカードの書き込み禁止スイッチを「LOCK」側にしておくと、削除はされません。

再生メニューの設定方法はP31へ

リサイズ　画像サイズ(画素数)を小さくする

撮影した画像の容量を小さくすることができます。
(各画像横縦比の最低画素数に設定している画像は、それ以上小さくできません)

1 再生メニューから[リサイズ]を選ぶ

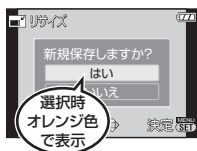
2 ◀/▶で画像を選び、[MENU/SET]を押す

3 ◀/▶でサイズを選び、[MENU/SET]を押す

● リサイズできるサイズのみ表示されます。

4 ▲で[はい]を選び、[MENU/SET]を押す

5 [㐂]を押してメニュー画面に戻る

● [MENU/SET]を押してメニューを終了します。

● Eメール添付やホームページ用に、さらに画像を小さくしたい場合は、CD-ROM(付属)のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO-viewer-」でサイズの変更を行ってください。
● リサイズを行うと画質が粗くなります。
● 他機で撮影された画像はリサイズできない場合があります。

▲/▼/◀/▶はカーソルボタンの上下左右を表しています。

✂トリミング

撮影した画像の必要な部分を拡大して切り抜くことができます。

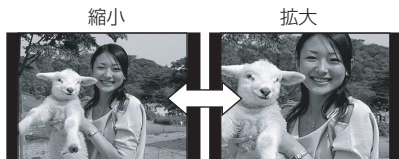
1 再生メニューから[トリミング]を選ぶ

2 ◀/▶で画像を選び、[MENU/SET]を押す

3 前ダイヤルと▲/▼/◀/▶で切り抜く部分を選ぶ

前ダイヤル(右回し): 拡大
前ダイヤル(左回し): 縮小

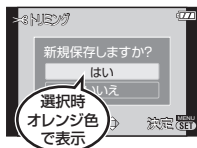
▲/▼/◀/▶: 移動

縮小　拡大

位置を移動

4 [MENU/SET]を押す

5 ▲で[はい]を選び、[MENU/SET]を押す

6 [🗑]を押してメニュー画面に戻る

- [MENU/SET]を押してメニューを終了します。

お知らせ

- トリミングを行うと、切り取るサイズによっては元の画像より記録画素数が小さくなる場合があります。
- トリミングを行うと画質が粗くなります。
- 他機で撮影された画像はトリミングできない場合があります。

再生メニューの設定方法はP31へ

横縦比変換

[16:9]で撮影した画像を、プリント用に[3:2]または[4:3]に変換することができます。

1 再生メニューから[横縦比変換]を選ぶ

2 ▲/▼で[3:2]または[4:3]を選び、[MENU/SET]を押す

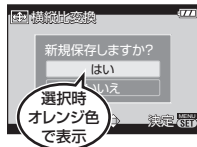
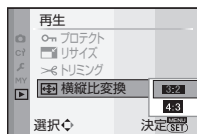
3 ◀/▶で[16:9]の画像を選び、[MENU/SET]を押す

4 ◀/▶で左右の位置を決定し、[MENU/SET]を押して決定する

- 縦に回転されている画像は ▲/▼ で枠を移動できます。

5 ▲で[はい]を選び、[MENU/SET]を押す

6 [ ]を押してメニュー画面に戻る

- [MENU/SET]を押してメニューを終了します。

お知らせ

- 横縦比変換を行うと、変換後の画素数が元の画像より大きくなる場合があります。
- 他機で撮影された画像は横縦比変換できない場合があります。

パソコンと接続する

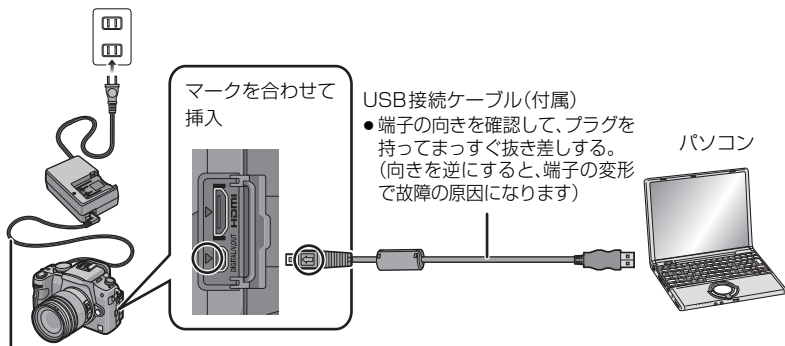
▲/▼/◄/► はカーソルボタンの上下左右を表しています。

本機をパソコンと接続すると、本機の画像をパソコンに取り込むことができます。

- 取り込んだ画像はプリントやメール送信などにお使いいただけます。CD-ROM(付属)のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO-viewer-」を使うと便利です。
- CD-ROM(付属)のソフトウェアやインストールなど詳しくは、**別冊の「パソコン接続編取扱説明書」**および**「付属ソフトについてのお知らせ」**をお読みください。

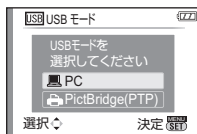
準備：本機の液晶面を表にする。
本機とパソコンの電源を入れる。
Windows®98/98SEをご使用の方は、USBドライバーのインストールを行っておく。

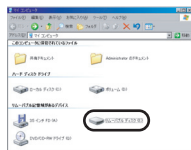
1 USB接続ケーブル(付属)を本機とパソコンに挿入する

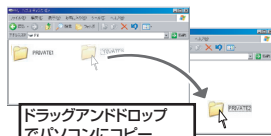
- **付属のUSB接続ケーブル以外は使わないでください。故障の原因になります。**

DCケーブル(別売 :DMW-DCC3)

- 十分に充電されたバッテリーまたはACアダプター(P137)を使用してください。バッテリー使用時、USB接続中にバッテリー残量が少なくなると、電源表示ランプが点滅し、警告音が鳴ります。「安全にUSB接続ケーブルを取り外す」(P121)をお読みのうえ、USB接続ケーブルを抜いてください。データが破壊される恐れがあります。

2 ▲/▼ で [PC] を選び、[MENU/SET] を押す

- セットアップメニューで[USBモード](P38)を[PC]に設定しておくと、[USBモード]の選択画面は表示されず、自動的にPCと接続します。接続のたびに設定する必要がないので、便利です。
- [USBモード]を[PictBridge(PTP)]にして接続した場合、パソコンの画面にメッセージが表示される場合があります。
  [キャンセル](中止)を選んで画面を閉じ、パソコンとの接続を外してください。[USBモード]を[PC]に設定し直してください。

3 「マイコンピュータ」にある「リムーバブルディスク」をダブルクリックする

- Macintoshの場合は、デスクトップ上にドライブが表示されます。(「NO_NAME」または「名称未設定」と表示されます)

「DCIM」フォルダーをダブルクリックする

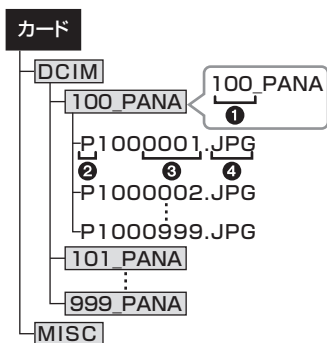
取り込みたい画像の入っているフォルダーやファイルを、パソコン上の別のフォルダーにドラッグアンドドロップする

■ 安全にUSB接続ケーブルを取り外す

- パソコンでタスクトレイの「ハードウェアの安全な取り外し」を行ってください。アイコンが表示されていない場合は、デジタルカメラの液晶モニターに[通信中]が表示されていないことを確認してから取り外してください。

お知らせ

- 本機の電源を切ってからACアダプター(P137)を抜き差ししてください。
- カードの抜き差しは電源を切って、USB接続ケーブルを抜いてから行ってください。データが破壊される恐れがあります。
- Mac OS X v10.2以前のときは、SDHCメモリーカードから画像を取り込むときに、SDHCメモリーカードの書き込みスイッチを「LOCK」側にしてください。
- HDMIミニケーブル接続時(P127)にUSB接続ケーブルを挿入すると、HDMI出力は解除され、USB接続ケーブルでの接続が優先されます。

■ カードの中をパソコンで見る(フォルダー構造)

- パソコンで加工したフォルダーや画像はカメラ本体で再生できません。パソコンからカードに画像を書き込む際には、CD-ROM(付属)のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO-viewer-」を使うことをおすすめします。

❶ フォルダー番号
❷ 色空間
P: sRGB
_: AdobeRGB
❸ ファイル番号
❹ JPG: 画像
RW2: RAW ファイルの画像
MISC: DPOFプリント
お気に入り

以下の場合に撮影すると新しいフォルダーが作成されます。
- セットアップメニューの[番号リセット](P36)実行後。
- 同じフォルダー番号のあるカードを挿入した場合。(他社のカメラで撮影した場合など)
- フォルダー内にファイル番号999の画像がある場合。

■ PTPモードで接続する (Windows® XP/Windows Vista®/Mac OS Xのみ)

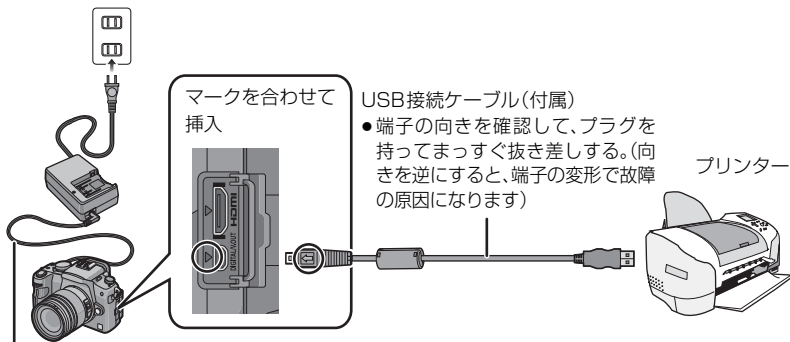
[USBモード]を[PictBridge(PTP)]にしてください。
カードからパソコンへの読み込みのみ可能です。
- PTPモードでカードの中に1000枚以上の画像があると、取り込めない場合があります。

プリントする

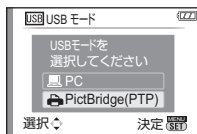
▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

PictBridgeに対応したプリンターに接続すると、本機の液晶モニター上でプリントする画像を選択したり、プリント開始を指示することができます。

準備：本機とプリンターの電源を入れる。
　　　あらかじめプリンター側で印字品質などの設定をしておく。

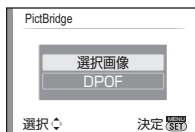
1 USB接続ケーブル(付属)を本機とプリンターに挿入する

● 十分に充電されたバッテリーまたはACアダプター(P137)を使用してください。接続中にバッテリー残量が少なくなった場合は、電源表示ランプが点滅し、警告音が鳴ります。すぐにプリントを中止してください。プリント中以外のときは、USB接続ケーブルを抜いてください。

● プリンターと接続するとケーブル切断禁止アイコン[]が表示されます。[]表示中は、USB接続ケーブルを抜かないでください。

2 ▲/▼ で [PictBridge(PTP)] を選び、[MENU/SET] を押す

お知らせ

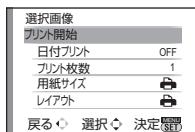
● 付属のUSB接続ケーブル以外は使わないでください。故障の原因になります。
● 本機の電源を切ってからACアダプター(P137)を抜き差ししてください。
● カードの抜き差しは電源を切って、USB接続ケーブルを抜いてから行ってください。
● HDMIミニケーブル接続時(P127)にUSB接続ケーブルを挿入すると、HDMI出力は解除され、USB接続ケーブルでの接続が優先されます。

選択画像

1 ▲で[選択画像]を選び、[MENU/SET]を押す

2 ◀/▶で画像を選び、▼を押す

- メッセージは約2秒後に消えます。

3 ▲/▼で[プリント開始]を選び、[MENU/SET]を押す

- 途中でプリントを中止するには[MENU/SET]を押してください。
- プリント終了後、USB接続ケーブルを抜いてください。

プリントの各種設定

上記手順3の画面でそれぞれの項目を選んで設定してください。

- 本機が対応していない用紙サイズやレイアウト設定でプリントしたい場合は、本機の用紙サイズ、レイアウト設定を[🖶]にして、プリンター側で設定してください。(詳しくはプリンターの説明書をお読みください)

日付プリント

項目	設定内容
OFF	日付プリントされません。
ON	日付プリントされます。

- プリンターが日付プリントに対応していない場合は、日付をプリントすることができません。
- 日付プリントの設定は、プリンター側の日付プリント設定が優先される場合がありますので、確認してください。

プリント枚数

プリントする枚数を設定してください。

プリントする（つづき）

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

用紙サイズ

項目	設定内容
🖶	プリンターの設定が優先されます。
L/3.5″×5″	89 mm×127 mm
2L/5″×7″	127 mm×178 mm
はがき	100 mm×148 mm
16:9	101.6 mm×180.6 mm
A4	210 mm×297 mm

項目	設定内容
A3	297 mm×420 mm
10×15cm	100 mm×150 mm
4″×6″	101.6 mm×152.4 mm
8″×10″	203.2 mm×254 mm
レター	216 mm×279.4 mm
カード	54 mm×85.6 mm

● プリンターが対応していない用紙サイズは表示されません。

レイアウト（本機で設定可能なレイアウト）

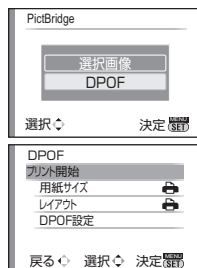
項目	設定内容
🖶	プリンターの設定が優先されます。
	1面ふちなし印刷
	1面ふちあり印刷

項目	設定内容
	2面印刷
	4面印刷

● プリンターが対応していない場合は、選択できない項目があります。

DPOF

● あらかじめ本機で［DPOFプリント］の設定をしておく。（P115）

1 ▼で［DPOF］を選び、［MENU/SET］を押す

2 ▲/▼で［プリント開始］を選び、［MENU/SET］を押す

● ［DPOFプリント］の設定をしていない場合は、［プリント開始］を選択できません。［DPOF設定］を選び、［DPOFプリント］の設定をしてください。（P115）
● 途中でプリントを中止するには［MENU/SET］を押してください。
● プリント終了後、USB接続ケーブルを抜いてください。

■ レイアウト印刷について

1枚の用紙に同じ画像を印刷する場合

例えば、1枚の用紙に同じ画像を4枚印刷する場合、[レイアウト]を[▦]、[プリント枚数]を4枚に設定してください。

1枚の用紙に異なる画像を印刷する場合(DPOFプリントのみ)

例えば、1枚の用紙に異なる画像を4枚印刷する場合、[レイアウト]を[▦]に設定し、[DPOFプリント]設定(P115)で4つの画像の[プリント枚数]を1枚に設定してそれぞれ選択してください。

お知らせ

- プリント中にオレンジ色の[●]が表示されたときは、プリンターからエラーメッセージを受け取っています。プリント終了後にプリンターに異常がないか確認してください。
- DPOFプリントでは、プリント枚数の合計やプリント設定された画像が多い場合、複数回に分けてプリントされることがあります。このとき、残り枚数の表示は設定枚数と異なりますが、故障ではありません。
- RAWファイルをプリントする場合、本機で同時に記録されたJPEG画像がプリントされます。JPEG画像がない場合はプリントできません。

画像に日付を入れるには

日付プリントを設定する

[DPOFプリント]のプリント枚数設定時に[DISPLAY]を押すと、押すごとに日付プリントを設定/解除できます。

お店に依頼する場合

設定さえしておけば、カードを取り出して、お店に日付入りで依頼するだけです。(シーンモードの[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2]、[ペット]の月齢/年齢のプリントはお店では依頼できません)

自宅でプリントする場合

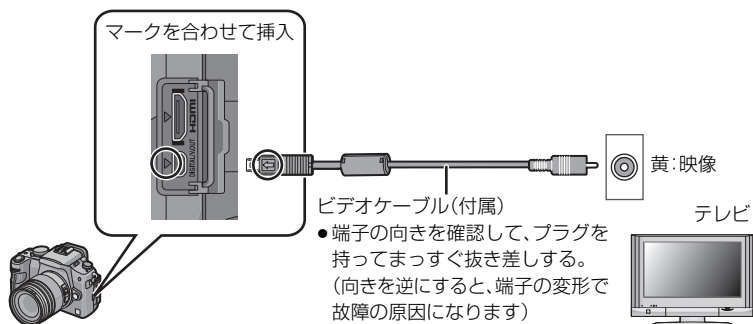
日付プリントに対応しているプリンターに本機を接続して、プリントするだけで日付プリントができます。

- CD-ROM(付属)のソフトウェア「PHOTOfunSTUDIO-viewer-」を使って日付プリントすることができます。

※日付プリントを設定しても、お店やプリンターによっては日付プリントできない場合があります。詳しくは、お店に尋ねるか、プリンターの説明書をお読みください。

テレビで見る

ビデオケーブル(付属)を使って見る

準備: [TV画面タイプ]（P37）を設定する。
　　　本機の電源を[OFF]にし、テレビの電源も切っておく。

1 テレビの映像入力端子にビデオケーブルを接続する

2 本機の [V. OUT] 端子にビデオケーブルを確実に接続する

3 テレビの電源を入れ、外部入力にする

4 本機の電源を [ON] にし、[▶] を押す

お知らせ

- [画像横縦比]によっては、画像の上下や左右に黒い帯が付いて表示されることがあります。
- 付属のビデオケーブル以外は使わないでください。
- テレビの説明書もお読みください。
- 画像を縦にして再生すると、多少ぼやけることがあります。
- ビデオケーブル接続時はファインダー表示はできません。

SDカードスロット付きテレビで見る

SDカードスロット付きテレビに撮影したSDメモリーカードを入れて、静止画を再生することができます。

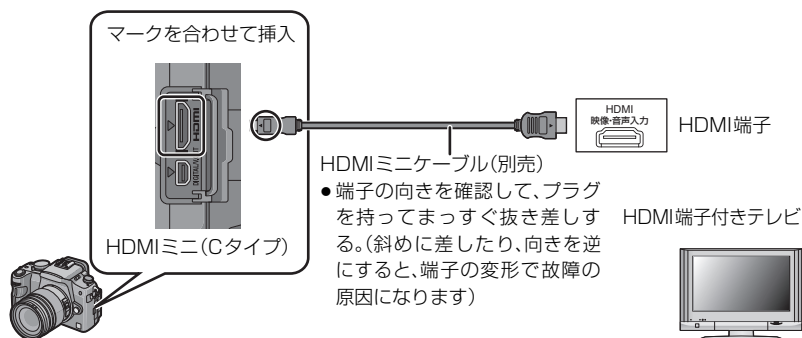
お知らせ

- テレビの機種によって、画像がテレビの全画面で表示されないことがあります。
- SDHCカードはSDHCカードに対応しているテレビでなければ再生できません。
- マルチメディアカードは再生できないことがあります。

HDMI端子付きテレビで見る

HDMIミニケーブル(別売)を使って本機をHDMI対応のハイビジョンテレビと接続すると、高画質な画像をテレビで楽しむことができます。

HDMIとは
HDMIはデジタル機器向けのインターフェースです。HDMI対応機器と接続すると、デジタル信号で映像を出力することができます。本機をHDMI対応のハイビジョンテレビと接続して再生すると、撮影した画像を高画質で楽しむことができます。また、ビエラリンク(HDMI)に対応した当社製テレビ(ビエラ)と接続すると連動操作(ビエラリンク)ができます。(P129)

準備: [HDMI出力解像度](P37)を確認する。
本機の電源を[OFF]にし、テレビの電源も切っておく。

1 テレビのHDMI端子にHDMIミニケーブルを接続する

2 本機の[HDMI]端子にHDMIミニケーブルを確実に接続する

3 テレビの電源を入れ、HDMI入力に切り換える

4 本機の電源を[ON]にし、[▶]を押す

- [ビエラリンク](P38)を[ON]に設定していてビエラリンク対応テレビに接続した場合は、テレビの入力切換が自動で切り換わり、再生画面が表示されます。(P129)

お知らせ

- [画像横縦比]によっては、画像の上下や左右に帯が付いて表示されることがあります。
- 当社製HDMIミニケーブル(別売)をお使いいただくことをおすすめします。
  ・品番:RP-CDHM15(1.5 m)、RP-CDHM30(3.0 m)
- ビデオケーブルとHDMIミニケーブルを同時に接続しているときは、HDMIミニケーブルからの出力が優先されます。
- パソコンやプリンターと接続しているときは、HDMIミニケーブルを接続してもHDMI出力できません。
- HDMIミニケーブル接続時にUSB接続ケーブルを挿入すると、HDMI出力は解除され、USB接続ケーブルでの接続が優先されます。
- HDMIミニケーブル接続時、液晶モニター/ファインダーに画像が表示されません。
- 画像が表示される際、テレビの機種によって画像が乱れる場合があります。
- テレビの説明書もお読みください。

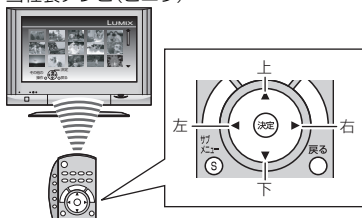
ビエラリンク(HDMI)(HDAVI Control™)を使う

ビエラリンク(HDMI)とは
- 本機とHDMIミニケーブル(別売)を使って接続したビエラリンク対応機器を自動的に連動させて、ビエラのリモコンで簡単に操作できる機能です。(すべての操作ができるものではありません)
- ビエラリンク(HDMI)はHDMI CEC (Consumer Electronics Control)と呼ばれる業界標準のHDMIによるコントロール機能をベースに、当社独自機能を追加したものです。他社製HDMI CEC対応機器との動作保証はしておりません。ビエラリンク(HDMI)に対応した他社製品については、その製品の取扱説明書をご確認ください。
- 本機は、ビエラリンク(HDMI) Ver.3に対応しています。ビエラリンク(HDMI) Ver.3とは、従来の当社製ビエラリンク機器にも対応した最新の当社基準です。(2007年12月現在)

準備: [ビエラリンク](P38)を[ON]に設定する。

1 HDMIミニケーブルで、本機とビエラリンク(HDMI)に対応した当社製テレビ(ビエラ)をつなぐ(P127)

2 テレビのリモコンで操作する

当社製テレビ(ビエラ)

■ 使用できる機能

❶ マルチ再生

テレビのリモコンの▲/▼/◀/▶で画像を選ぶ
- [決定]を押すと、選択されていた画像が1画面表示されます。
- [サブメニュー]を押すとスライドショーの設定などを行うことができます。

❷ 1画面表示

テレビのリモコンの◀/▶で画像を送る
- [決定]を押すとスライドショーを開始します。
- [戻る]を押すと操作アイコンを非表示にすることができます。もう一度[戻る]を押すとマルチ再生に戻ります。また、操作アイコン非表示中に[サブメニュー]を押すと操作アイコンを表示します。
- ▼でマルチ再生に戻ります。

❸ スライドショー

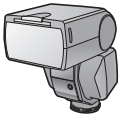
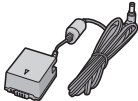
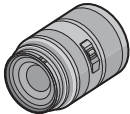
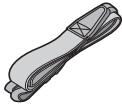
テレビのリモコンの[決定]を押してスライドショー開始/一時停止操作をする
- スライドショー一時停止中は、◀/▶で画像を送ることができます。
- ▼で1画面表示に戻ります。
- [戻る]を押すと操作アイコンを非表示にすることができます。
  もう一度[戻る]を押すとマルチ再生に戻ります。
  また、操作アイコン非表示中に[サブメニュー]を押すと操作アイコンを表示します。

- テレビに2つ以上のHDMI入力端子がある場合は、本機をHDMI1以外に接続することをおすすめします。
- 本機の[ビエラリンク](P38)を[ON]に設定している場合は、本機のボタンを使っての操作は制限されます。
- 接続したテレビ側のビエラリンク(HDMI)が働くように設定しておいてください。(設定方法などはテレビの取扱説明書をお読みください)
- ビエラリンク(HDMI)を使用しない場合は、本機の[ビエラリンク](P38)を[OFF]に設定してください。

■ その他の連動操作について

電源OFF

テレビのリモコンを使ってテレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。(USB接続ケーブルでパソコンと接続時などは電源は切れません)

自動入力切換

- HDMIミニケーブルで接続して本機の電源を入れると、テレビの入力切換を自動で本機の画面に切り換えます。また、テレビの電源が待機状態のときは自動で電源が入ります。(テレビの「電源オン連動」を「する」に設定している場合)
- テレビのHDMI端子によっては、入力切換が自動で切り換わらない場合があります。そのときはテレビのリモコンを使って入力切換してください。(入力切換の方法はテレビの取扱説明書をお読みください)
- ビエラリンク(HDMI)が正しく働かない場合は、154ページをご確認ください。

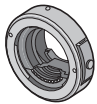
お知らせ

- お使いのテレビがビエラリンク(HDMI)対応かわからないときは、接続した当社製テレビにビエラリンク(HDMI)のロゴマークが付いているかご確認いただくか、それぞれの取扱説明書をお読みください。

- HDMI規格に準拠していないケーブルでは動作しません。
- 当社製HDMIミニケーブル(別売)をお使いいただくことをおすすめします。
  - ・品番:RP-CDHM15(1.5 m)、RP-CDHM30(3.0 m)
- パソコンやプリンターと接続しているときは、HDMIミニケーブルを接続してもビエラリンクが働きません。

別売品のご紹介

品名: バッテリーパック **品番:** DMW-BLB13	
品名: フラッシュライト **品番:** DMW-FL360 DMW-FL500	
品名: 交換レンズ **品番:** H-FS045200	
品名: MCプロテクター※1 NDフィルター※1 PLフィルター※1 (サーキュラータイプ) **品番:** DMW-LMC52 DMW-LND52 DMW-LPL52	

※1 DMC-G1KおよびDMC-G1Wに同梱の交換レンズでは、これらのフィルターをお使いいただくことをおすすめします。
その他のレンズをお使いの場合は、お使いのレンズに対応したフィルターをお使いください。

品名: シャッターリモコン **品番:** DMW-RSL1	
品名: DCケーブル **品番:** DMW-DCC3	
品名: ソフトバッグ **品番:** DMW-BAG1	
品名: ソフトケース※2 **品番:** DMW-CG1	
品名: ショルダーストラップ **品番:** DMW-SSTG1 DMW-SSTG2 DMW-SSTG3	

※2 DMC-G1K専用です。

別売品のご紹介（つづき）

品名: HDMIミニケーブル **品番:** RP-CDHM15 RP-CDHM30	
品名: SDメモリーカード SDHCメモリーカード	
品名: マウントアダプター **品番:** DMW-MA1	

マウントアダプターを使うと、以下のレンズが使えます。(一部の機能に制限があります)

L-ES014050
L-X025
L-RS014050
L-RS014150

- 対応レンズの最新情報は、カタログ/ホームページなどをご覧ください。

http://panasonic.jp/support/dsc/

別売品は販売店でお買い求めいただけます。
パナソニックグループのショッピングサイト「パナセンス」でお買い求めいただけるものもあります。
詳しくは「パナセンス」のサイトをご覧ください。

Pana Sense

http://www.sense.panasonic.co.jp/

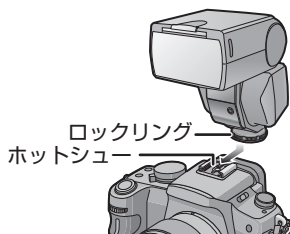
外部フラッシュ（別売）を使う

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

外部フラッシュを使用すると、内蔵フラッシュに比べてフラッシュ撮影可能範囲が広がります。
準備：本機の電源を[OFF]にし、内蔵フラッシュを閉じる。

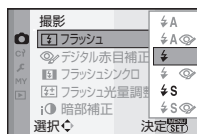
■ 専用フラッシュライト(別売：DMW-FL360)を使う場合

1 ホットシューに専用フラッシュライトを取り付け、本機と専用フラッシュライトの電源を入れる

- 専用フラッシュライトのロッキングリングは、確実に締め込んでください。

2 撮影メニューから[フラッシュ]を選ぶ(P31)

3 ▲/▼ でモードを選び、[MENU/SET] を押す

- 外部フラッシュ接続中は以下のアイコンが表示されます。

⚡： 外部フラッシュ強制発光
⚡S：外部フラッシュスローシンクロ

4 [MENU/SET] を押して、メニューを終了する

- シャッターボタン半押しでも終了できます。

■ 本体(DMC-G1)との通信機能のない市販の外部フラッシュを使う場合

- 外部フラッシュ使用時の露出は、外部フラッシュ側で設定する必要があります。外部フラッシュをオートモードでお使いになる場合は、本体側で設定されている絞り値とISO感度に合わせることのできる製品をお使いください。
- 絞り優先AEまたはマニュアル露出モードにして使用し、本機で設定した絞り値とISO感度を外部フラッシュ側でも設定してください。（シャッター優先AEモードでは絞り値が変化するので適正露出が得られません。またプログラムAEモードでは絞り値が固定できないので、外部フラッシュの調光が適切に働きません。）

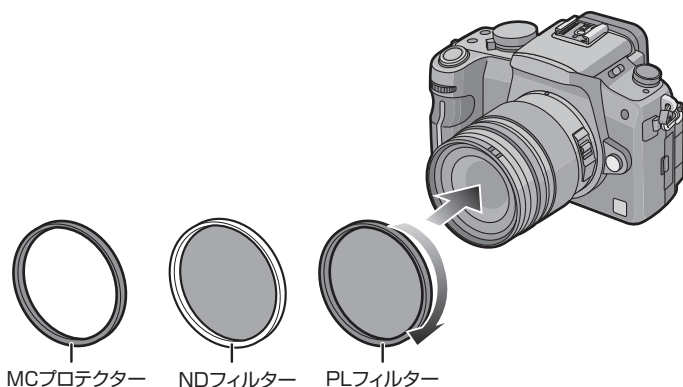
外部フラッシュ（別売）を使う（つづき）

お知らせ

- 外部フラッシュ装着時も本機の絞り値やシャッタースピード、ISO感度を設定できます。
- 市販の外部フラッシュには、シンクロ端子が高圧のものや、極性が逆のものがあります。このようなフラッシュを使用した場合、本機を故障させる原因になったり、正常に動作しない場合があります。
- 専用フラッシュライト以外の通信機能のある外部フラッシュを使用すると正常に動作しないだけでなく、故障の原因になる場合がありますので、使用しないでください。
- 外部フラッシュの電源が[OFF]でも、装着すると外部フラッシュモードになるものがあります。外部フラッシュを使用しないときは、外部フラッシュを外してください。
- 外部フラッシュ装着時は、内蔵フラッシュは使えません。
- 外部フラッシュ装着時は、内蔵フラッシュを開かないでください。
- 外部フラッシュを装着すると置いたときに不安定になるため、撮影時は三脚の使用をおすすめします。
- 取り外しの際は、本機の電源を[OFF]にしてから行ってください。
- 持ち運びするときは、外部フラッシュを取り外してください。
- 外部フラッシュ装着時は、脱落の恐れがありますので、外部フラッシュのみを持たないようにしてください。
- 外部フラッシュ使用時にホワイトバランスを[⚡WB]に設定した場合、撮影結果によってはホワイトバランスを微調整してください。(P83)
- 広角時に近くで撮影すると、画面の下部がケラレる場合があります。
- 詳しくは、外部フラッシュの説明書をお読みください。

フィルター（別売）を使う

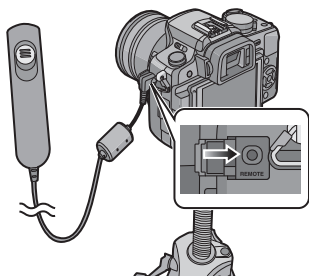
MCプロテクター(別売:DMW-LMC52)は、色調や光量にほとんど変化を与えない透明なフィルターで、レンズ保護用として使うことができます。
NDフィルター(別売:DMW-LND52)は、色調に変化を与えずに、光量だけを1/8(3絞り分)に減少させることができます。
PLフィルター(別売:DMW-LPL52)は、金属や球面以外(平らな非金属、水蒸気や空気中の見えない微粒子など)からの反射光をおさえ、コントラストを強調する写真を撮影することができます。

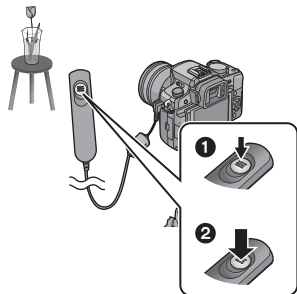
フィルターを取り付ける

お知らせ

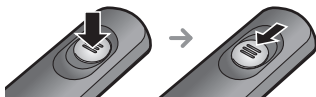
- 複数のフィルターを同時に取り付けないでください。
- フィルターを強く締めすぎると、外れなくなる恐れがありますので、強く締めないようにしてください。
- フィルターが落下すると、壊れる恐れがあります。取り付けるときは、落とさないようにお気をつけください。
- フィルターに指紋やほこりなどの汚れがついていると、フィルター面にピントが合ってしまい被写体にピントが合わないことがありますので、お気をつけください。
- フィルターを付けたまま、レンズキャップやレンズフードを取り付けることができます。
- 詳しくは、各種フィルターの説明書をお読みください。
- DMC-G1KおよびDMC-G1Wに同梱の交換レンズでは、MCプロテクター(別売:DMW-LMC52)、NDフィルター(別売:DMW-LND52)、PLフィルター(別売:DMW-LPL52)をお使いいただくことをおすすめします。

シャッターリモコン（別売）を使う

シャッターリモコン(別売:DMW-RSL1)を使用すると、三脚使用時に手ブレを防いだり、B(バルブ)撮影時や連写時にシャッターボタンを全押しした状態で固定することができます。本体のシャッターボタンと同様の働きをします。

1 本機の[REMOTE]端子にシャッターリモコンを奥まで確実に接続する

2 撮影する

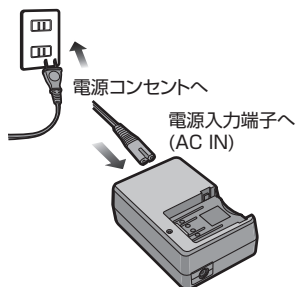
❶軽く押して半押しする
❷全押しで撮影する(奥まで押し込む)

■ シャッターボタンの[LOCK]について

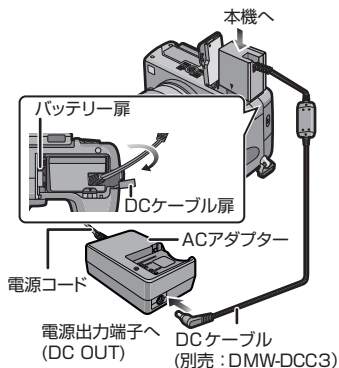
- シャッターボタンを全押しした状態で、固定することができます。
  連写時(P69)やB(バルブ)撮影時(P91)に有効です。
- シャッターボタンを全押ししたまま、[LOCK]側にスライドさせてください。
- [LOCK]を解除するときは[LOCK]と反対側にスライドさせてください。

- 以下の場合、シャッターリモコンでは操作できません。
  ・パワーセーブを解除するとき

ACアダプターを使う

DCケーブル(別売:DMW-DCC3)を使ってバッテリーチャージャー/ACアダプター(付属)に接続し電源コンセントにつなぐと、本機をパソコンやプリンターに接続するときに、バッテリーの消耗を気にせず使うことができます。

- 電源が[OFF]になっていることを確認する。
- フラッシュを閉じる。

電源コードをつなぐ

2 DCケーブルをつなぐ

- DCケーブル扉を引っ張り出してからDCケーブルをバッテリーと同じ手順で本体へ入れ(P26)、右図のようにケーブルを外に出し、バッテリー扉を閉じてください。
- バッテリー扉を閉じるときに、ケーブルを挟まないようにお気をつけください。
- DCケーブル(別売:DMW-DCC3)をつなぐとバッテリーの充電はできなくなります。

お知らせ

- DCケーブル(別売:DMW-DCC3)を使用してください。それ以外のDCケーブルを使用すると、故障の原因になります。
- 使用中は本機が温かくなりますが、異常ではありません。
- バッテリーチャージャー/ACアダプターは海外でも使うことができます。(P138)
- 必要がない場合はバッテリーチャージャー/ACアダプターとDCケーブルを抜いておいてください。

電源コードは、本機専用ですので、他の機器には使用しないでください。また、他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。

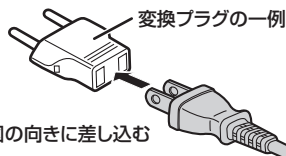
海外旅行先で使う

チャージャーは、日本国内で使用することを前提として設計されておりますが、海外旅行等での一時的な使用は問題ありません。

- 電源電圧（100 V～240 V）、電源周波数（50 Hz、60 Hz）でご使用いただけます。
- 市販の変圧器などを使用すると、故障する恐れがあります。

ただし、国、地域によって電源コンセントの形状は異なるため変換プラグが必要です。

■ 変換プラグの付けかた

- ご使用にならないときは変換プラグをACコンセントから外してください。

■ 主な国、地域の代表的な電源コンセントのタイプ

北米											
アメリカ合衆国	A	カナダ	A	ハワイ	A						
ヨーロッパ											
イギリス	BF, B3	イタリア	C	オーストリア	C,SE	オランダ	C,SE	ギリシャ	A,B, B3,C, SE	スイス	A,B, C,SE
スウェーデン	B,C, SE	スペイン	A,C, SE	デンマーク	C	ドイツ	A,C, SE	ノルウェー	C	ハンガリー	C
フィンランド	B,C	フランス	A,C, SE	ベルギー	B,C, SE	ロシア	A,C, SE				
アジア											
インド	B,BF, B3,C	インドネシア	B,B3, C,SE	シンガポール	B,BF, B3	タイ	A,BF, C	大韓民国	A,C, SE	台湾	A,C, O
中華人民共和国	すべて	フィリピン	A,O	ベトナム	A,BF, C, SE	香港特別行政区	B,BF, B3,C	マカオ特別行政区	B,BF, B3,C	マレーシア	B,BF, B3,C
オセアニア											
オーストラリア	O	グァム島	A	サイパン島	A	トンガ	O	ニュージーランド	O	フィジー	A,B, C,O
中南米											
アルゼンチン	BF,C, SE	プエルトリコ	A,BF, C	ブラジル	A,C, SE	メキシコ	A,C, SE				
中東・アフリカ											
アラブ首長国連邦	B,BF, B3	エジプト	BF,B3, C,SE	クウェート	B,B3, C	トルコ	A,B, C,SE	南アフリカ共和国	B,BF, B3,C	モロッコ	A,C, SE

タイプ	A	B	BF	B3	C	SE	O
	アメリカンタイプ	U.K. タイプ			ヨーロピアンタイプ		オーストラリアンタイプ
コンセント形状							
プラグ形状	不要です						

■ 海外のテレビで画像を見る

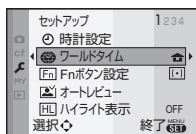
セットアップメニューの[ビデオ出力]で[NTSC]または[PAL]に設定してください。

▲/▼/◀/▶ はカーソルボタンの上下左右を表しています。

海外旅行先の日時を記録する（ワールドタイム）

旅行先の時刻を表示し、撮影画像に記録することができます。
- **あらかじめ[時計設定]（P29）で、現在の時刻を合わせておいてください。**

1 セットアップメニューから[ワールドタイム]を選び、▶ を押す（P31）

- お買い上げ時は、「ホームエリアを設定してください」と表示されます。[MENU/SET]を押し、手順3の画面から設定してください。

2 ▼で[ホーム]（お住まいの地域）を選び、[MENU/SET]を押す

3 ◀/▶ でお住まいの地域を選んで、[MENU/SET]を押す

- ホームがサマータイム[ ]（夏時間）を採用している場合は、▲を押してください。もう一度押すと元に戻ります。
- ホームでのサマータイム設定は、現在の日時は進みません。時計設定を1時間進めてください。

4 ▲で[旅行先]を選び、[MENU/SET]で決定する

「旅行先」または「ホーム」の選ばれているほうの時間を表示します。

5 ◀/▶ で旅行先のあるエリアを選び、[MENU/SET]で決定する

- 旅行先がサマータイム [ ]（夏時間）を採用している場合は、▲を押してください。（時計が1時間進みます）もう一度▲を押すと元に戻ります。

6 [MENU/SET]を押してメニューを終了する

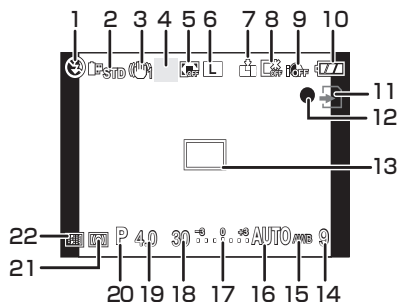
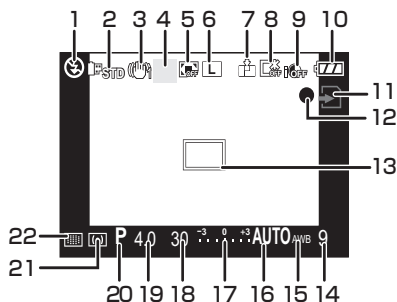
お知らせ

- 旅行から戻ったら、手順1、2、3の操作を行って、設定をホームに戻してください。
- すでにホームを設定している場合は、旅行先のみ変更してお使いください。
- 画面に表示されるエリアで旅行先が見つからない場合は、ホームエリアからの時差を参考に設定してください。
- 旅行先で撮影された画像には、再生時、画面に[ ]が表示されます。

液晶モニター/ファインダーの表示

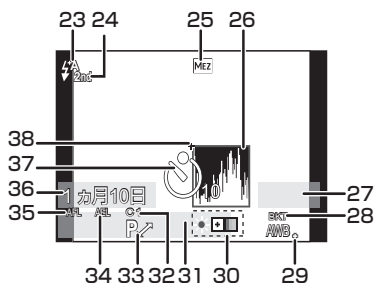
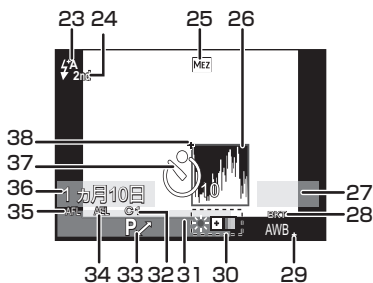
液晶モニター/ファインダーの画面表示は、本機の操作状態を示しています。

プログラムAEモード[P]時（お買い上げ時）

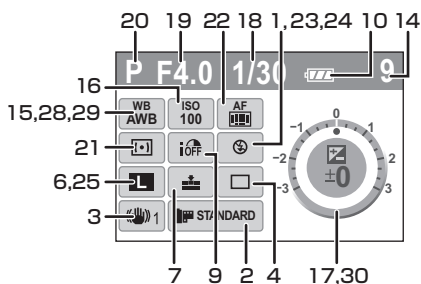
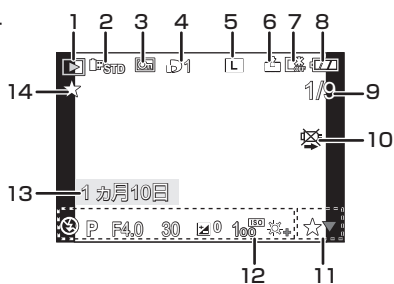
[ ]（液晶モニタースタイル）

[ ]（ファインダースタイル）

■ 撮影時

1 フラッシュモード(P62)
2 フィルムモード(P86)
3 手ブレ補正(P104)
手ブレ警告(P51)：
4 単写(P49)※1：
連写(P69)：
オートブラケット(P71)：
セルフタイマー(P73)：
5 デジタルズーム(P53、106)
6 記録画素数(P102)
7 クオリティ(P103)
8 LCDモード(P36)※2
9 暗部補正(P105)
10 バッテリー残量(P25)
11 カード(P28)（記録時のみ表示）
12 記録動作（赤点滅）/
フォーカス(P51)（緑点灯）
13 AFエリア(P51、74)
14 記録可能枚数(P163)※3
15 ホワイトバランス(P81)
16 ISO感度(P84)
17 露出補正値(P68)/
マニュアル露出アシスト(P90)
18 シャッタースピード(P51)
19 絞り値(P51)
20 撮影モード
21 測光モード(P104)
22 オートフォーカスモード(P74)

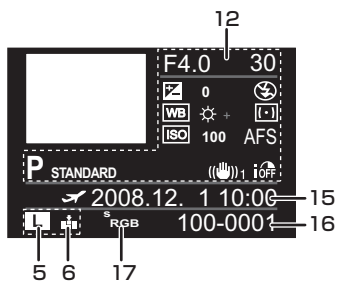
※1 LCD撮影情報画面にのみ表示されます。
※2 液晶モニターにのみ表示されます。
※3 残り枚数が10000枚を超える場合は、[9999+]と表示されます。

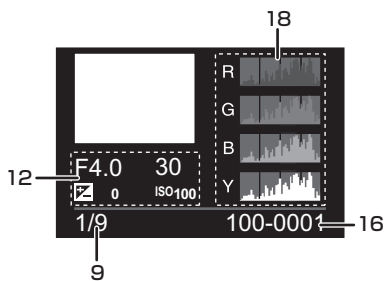
撮影時（各種設定後）

23 フラッシュ光量調整(P66)
24 後幕(P67)
25 EX光学ズーム(P53、105)
26 ヒストグラム(P61)
27 追尾AF操作(P46、75)
28 ホワイトバランスブラケット(P83)
29 ホワイトバランス微調整(P83)
30 マイカラーモード(P99)
31 現在日時/旅行先設定(P139)※2、4:
32 カスタムセット(P100)
33 プログラムシフト(P52)
34 AEロック(P79)
35 AFロック(P79)
36 月齢/年齢(P98)※2、5
37 セルフタイマー(P73)※6
38 スポット測光ターゲット(P104)

※4 起動時/時計設定後/再生から撮影モードへ切り換え後、約5秒間表示されます。
※5 シーンモードの[赤ちゃん1]/[赤ちゃん2]や[ペット]で起動した場合に約5秒間表示されます。
※6 カウントダウン中に表示されます。

LCD撮影情報画面

再生時

■ 再生時

1 再生モード(P54)
2 フィルムモード(P86)
3 プロテクト(P116)
4 DPOFプリント枚数(P115)
5 記録画素数(P102)
6 クオリティ(P103)
7 LCDモード(P36)
8 バッテリー残量(P25)
9 画像番号/トータル枚数
10 ケーブル切断禁止アイコン(P122)
11 お気に入り設定(P113)
12 撮影情報
13 月齢/年齢(P98)
14 お気に入り表示(P113)

詳細情報表示

ヒストグラム表示

15撮影日時/旅行先設定(P139)
16フォルダー・ファイル番号(P121)
17色空間(P106)

18ヒストグラム(P61)

メッセージ表示

確認/エラー内容を液晶モニター/ファインダーに文章で表示します。
ここではその主なメッセージを例として説明しています。

メッセージ	実行していただきたいこと
このメモリーカードはロックされています	SDメモリーカードまたはSDHCメモリーカードの書き込み禁止スイッチの「LOCK」を解除してください。(P28)
表示できる画像がありません	画像を記録する、または画像が記録されたカードを入れてから再生してください。
この画像はプロテクトされています	画像のプロテクトを解除してから(P116)削除をしてください。
削除できない画像があります/この画像は削除できません	DCF規格に準拠していない画像は削除できません。 パソコンなどに必要なデータを保存してから本機でフォーマット(P38)してください。
設定枚数をこえました	[複数削除](P57)、[お気に入り](P113)の複数設定時に一度に設定できる枚数を超えています。 設定枚数を減らしてから、もう一度操作を行ってください。 お気に入り設定が999枚を超えています。
この画像には設定できません	DCF規格に準拠していない画像は[DPOFプリント]ができません。
メモリーカードエラー・フォーマットしますか?	本機では認識できないカードです。パソコンなどを使って必要なデータを保存してから本機でフォーマット(P38)し直してください。
レンズの装着をご確認ください/システムエラー	レンズが正しく装着されているか確認し、再度電源を入れ直してください。それでも表示される場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。
メモリーカードエラー カードのパラメータが異常です	本機に対応したカードをお使いください。(P28) 4 GB以上のメモリーカードはSDHCメモリーカードのみ使用できます。
メモリーカードエラー カードを確認してください	●カードへのアクセスに失敗しました。もう一度カードを入れ直してください。もしくは、別のカードでお試しください。 ●miniSDカード/microSDカード/microSDHCカードは、必ずアダプターに入れてから本機に挿入してください。
リードエラー/ライトエラー カードを確認してください	●データの読み込み、書き込みに失敗しました。 電源を[OFF]にしてからカードを抜いてください。再度カードを入れ、電源を[ON]にして記録してください。またはカードが破壊されている可能性があります。 ●別のカードでお試しください。

メッセージ	実行していただきたいこと
フォルダーを作成できません	使用できるフォルダー番号がなくなったため、フォルダーを作成できません。(P121) パソコンなどを使って必要なデータを保存してから本機でフォーマット(P38)してください。フォーマットを行ったあとにセットアップメニューの[番号リセット]を実行すると、フォルダー番号が100にリセットされます。(P36)
4:3TV用で出力します/ 16:9TV用で出力します	● 本機にビデオケーブルが接続されました。メッセージをすぐに消したい場合は、[MENU/SET]を押してください。 ● [TV画面タイプ]を変更したい場合は、セットアップメニューで変更してください。(P37) ● USB接続ケーブルが本機のみに接続された場合も、メッセージが表示されます。 USB接続ケーブルのもう一方をパソコンやプリンターに接続すると、このメッセージは消えます。(P120、122)
プリンタービジー プリンターを確認してください	プリンター側が印刷できない状態です。 プリンターを確認してください。
レンズが正しく装着されていません	レンズを一度外し、再度付け直してください。(P20)
このバッテリーは使えません	● 本機で使用できるバッテリー(DMW-BLB13)をお使いください。 ● バッテリーを取り出し、再度入れ直してください。(P26) 何度も繰り返し表示される場合は、お買い上げの販売店にご連絡ください。

状況により設定できない/働かない機能

本機では仕様上、お使いの状況により、設定できなくなったり、働かなくなる機能があります。
下の表は、その機能と状況の一覧です。

- インテリジェントオートモード時の設定できない/働かない機能については、47ページの「インテリジェントオートモード時の設定内容」をお読みください。

設定できない/働かない機能	主な設定できない/働かない状況
オートレビュー(P34)	● 連写時　● オートブラケット撮影時
ハイライト表示(P35)	● マルチ再生時　● カレンダー再生時　● 再生ズーム時
パワーセーブ(P35)	● ACアダプター使用時　● パソコンまたはプリンター接続時 ● スライドショー時
自動液晶OFF(P35)	● ACアダプター使用時　● パソコンまたはプリンター接続時
オートパワーLCD(P36)	● 再生時
縦位置検出機能(P41)	● 縦位置検出機能非対応レンズ使用時
EX光学ズーム(P53、105)	●[クオリティ]の[RAW]、[RAW]、[RAW]設定時
デジタルズーム(P53、106)	● アドバンスシーンモード　● SCNモード　●[ISO]設定時 ●[クオリティ]の[RAW]、[RAW]、[RAW]設定時
フラッシュ(P62、105)	● モード　● モードの 、 、 ● SCNモードの　● モード
フラッシュシンクロ(P67、105)	● アドバンスシーンモード　● SCNモード　● モード
露出補正(P68)	● Mモード　● モード
連写(P69、106)	● フラッシュ発光時
オートブラケット(P71、106)	● フラッシュ発光時　● モード ● マルチフィルムブラケット設定時
オートフォーカスモード(P74)	● デジタルズーム時
追尾AF(P75)	●フィルムモードの[スタンダード B&W(白黒)]、[ダイナミック B&W(白黒)]、[スムーズ B&W(白黒)]設定時 ● デジタルズーム時
MFアシスト(P77、110)	● デジタルズーム時
AFロック(P79)	● マニュアルフォーカス時　● プレビューモード
AEロック(P79)	● Mモード

設定できない/働かない機能	主な設定できない/働かない状況
ホワイトバランス(P81)	● モードの、 ● モード ● モードの、 ● モードの ● モード ● SCNモードの、 ● モード
ホワイトバランス微調整(P83)	● モードの、 ● モード ● モードの、 ● モードの ● モード ● SCNモードの、 ● モード
ホワイトバランスブラケット(P83)	● モードの、 ● モード ● モードの、 ● モードの ● モード ● SCNモードの、 ● モード ● マルチフィルムブラケット設定時 ●[クオリティ]の[RAW]、[RAW]、[RAW]設定時
ISO感度(P84)	● アドバンスシーンモード ● SCNモード
インテリジェントISO(P84)	● Sモード ● Mモード ● アドバンスシーンモード ● SCNモード
フィルムモード(P86)	● モード
マルチフィルムブラケット(P88)	● アドバンスシーンモード ● SCNモード ● モード
記録画素数(P102)	●[クオリティ]の[RAW]設定時
測光モード(P104)	● アドバンスシーンモード ● SCNモード
手ブレ補正(P104)	● 手ブレ補正機能非対応レンズ使用時
暗部補正(P105)	● アドバンスシーンモード ● SCNモード
ISO感度上限設定(P107)	● Mモード ● アドバンスシーンモード ● SCNモード ● モード
プリAF(P109)	● モード ● プレビューモード ● 非対応レンズ使用時
ダイレクト1点AF移動(P109)	● アドバンスシーンモード ● SCNモード ● モード
AF補助光(P110)	● モード ● モードの 、 ● SCNモードの

状況により設定できない/働かない機能（つづき）

設定できない/働かない機能	主な設定できない/働かない状況
お気に入り(P113)	● RAW で撮影された画像
画像回転(P114)	● プロテクトされた画像
回転表示(P114)	● マルチ再生　● カレンダー再生
DPOFプリント(P115)	● RAW で撮影された画像
リサイズ(P117)	● RAW、RAW、RAW で撮影された画像
トリミング(P118)	● RAW、RAW、RAW で撮影された画像
横縦比変換(P119)	● RAW、RAW、RAW で撮影された画像 ● 3:2、4:3 で撮影された画像

Q & A　故障かな？と思ったら

まず、以下の方法(P149〜155)をお試しください。

それでも解決できない場合は、**セットアップメニューの[設定リセット](P37)を行うと症状が改善する場合があります。**
これらの処置をしても直らないときは、169、171ページをお読みください。

■ バッテリー、電源について

Q(質問)	A(回答)
電源を[ON]にしても動作しない。	●バッテリーが正しい向きに入っていません。(P26) ●バッテリーが消耗しています。充電してください。 ●ACアダプターが正しく接続されていません。(P137)
電源を[ON]にしているのに、液晶モニターが消灯している。	●ファインダー表示になっていませんか？ →[LVF/LCD]を押して、液晶モニター表示に切り換えてください。(P41) ●[エコモード]の[自動液晶OFF](P35)が働いていませんか？ →シャッターボタンを半押しして、解除してください。 ●液晶モニターが消灯になっていませんか？ →[DISPLAY]を押して表示情報を切り換えてください。(P58) ●バッテリーが消耗しています。充電してください。
電源を[ON]にしてもすぐに切れる。	●バッテリーが消耗しています。充電してください。 ●電源を入れたまま放置しているとバッテリーは消耗します。 →[エコモード](P35)を使うなどして、こまめに電源を切ってください。
電源が勝手に切れる。	●ビエラリンク(HDMI)対応のテレビとHDMIミニケーブル(別売)で接続した場合、テレビのリモコンを使ってテレビの電源を切ると、本機の電源も連動して切れます。 →ビエラリンク(HDMI)を使用しない場合は、本機の[ビエラリンク]を[OFF]に設定してください。(P38)
充電[CHARGE]ランプが点滅する。	●バッテリーが高温、あるいは低温になりすぎていませんか？その場合、充電時間が通常よりも長くなるか、充電が完了しない場合もあります。 ●チャージャーやバッテリーの端子部が汚れていませんか？ →乾いた布でふき取ってください。

■ 撮影について

Q(質問)	A(回答)
画像が撮れない。 シャッターが切れない。	● モードダイヤルは正しいモードに設定されていますか？ ● カードは入っていますか？ ● カードのメモリー残量はありますか？ → 不要な画像を削除して容量を増やしてください。(P57) ● ピントは合っていますか？ → お買い上げ時は、ピントが合うまで撮影されない設定になっています。ピントが合っていない場合でもシャッターボタンの全押しで撮影されるようにしたいときは、[フォーカス優先]を[OFF]に設定してください。(P110)
撮影した画像が白っぽい。	● レンズや撮像素子に指紋などの汚れが付くと画像が白っぽくなることがあります。 → 汚れたときは、電源を[OFF]にし、レンズの表面を乾いた柔らかい布で軽くふき取ってください。撮像素子が汚れたときは、157ページをお読みください。
撮影した画像が明るすぎたり、暗すぎる。	→ 露出が正しく補正されているか確認してください。(P68) ● 不適切な状態でAEロック(P79)がかかっていませんか？
1回の撮影で、2～3枚の画像が撮れるときがある。	→ ホワイトバランスブラケット(P83)の設定を解除してください。
ピントが合わない。	● ピントが合う範囲から外れています。(P49) ● 手ブレや被写体ブレしています。(P51) ● [フォーカス優先]が[OFF]になっていませんか？(P110) この場合、フォーカスモードを[AFS]または[AFC]に設定していても、ピントが合っていないことがあります。 ● 不適切な状態でAFロック(P79)がかかっていませんか？
撮影した画像がブレている。 手ブレ補正が効かない。	● 特に暗い場所で撮影すると、シャッタースピードが遅くなり、手ブレ補正が十分に働かないことがあります。 → 本機を両手でしっかり持って撮影してください。(P44) → 遅いシャッタースピードで撮影するときは三脚を使用し、セルフタイマー(P73)を使って撮影してください。
ホワイトバランスブラケット撮影ができない。	● 記録可能枚数が2枚以下ではありませんか？

■ 撮影について(つづき)

Q(質問)	A(回答)
撮影した画像が粗い。ノイズが出る。	● ISO感度が高い、またはシャッタースピードが遅くないですか？ → ISO感度を低くしてください。(P84) → フィルムモードの[ノイズリダクション]をプラス方向にするか、[ノイズリダクション]以外の各項目をマイナス方向に調整してください。(P87) → 明るい場所で撮影してください。 → [長秒ノイズ除去]を[ON]に設定してください。(P107)
撮影した画像の明るさや色合いが実際とは異なる。	● 蛍光灯下での撮影時、シャッタースピードが速くなると、明るさや色合いが多少変化する場合があります。これは蛍光灯の特性により発生するものであり、異常ではありません。
露出補正ができない。	● 露出補正操作になっていますか？ → 前ダイヤルを押して露出補正操作に切り換えてください。(P68)
被写体をロックできない。(動体追尾できない)	● 周囲と異なる色の部分がある場合は、その部分を追尾AF枠に合わせるなど、被写体の特徴的な色の部分を追尾AF枠に合わせて設定してください。(P75)

■ レンズについて

Q(質問)	A(回答)
撮影された画像がゆがんだり、被写体の周りに実際にはない色が付く。	● 使用するレンズによっては、ズームの倍率によりレンズの特性上わずかにゆがんだり、輪郭などに着色して撮影されることがあります。また広角では遠近感が強調されるため、画面の周辺がゆがんだように写る場合もあります。これらは異常ではありません。

■ フラッシュについて

Q(質問)	A(回答)
フラッシュが発光しない。	● フラッシュを閉じていませんか？ → [ϟOPEN]レバーをスライドさせて、フラッシュを開いてください。(P62)
フラッシュが２回発光する。	● フラッシュは２回発光します。特に赤目軽減(P62)に設定している場合は、間隔が長くなりますので、2回目の発光終了まで動かないようにしてください。

■ 液晶モニター/ファインダーについて

Q(質問)	A(回答)
電源[ON]中に、液晶モニターが消える。	● [エコモード]の[自動液晶OFF](P35)では、液晶モニターが消灯します。[ただし、ACアダプター(P137)使用時を除く] バッテリーの残量が少ないと、フラッシュの充電に時間がかかり、液晶モニターの消灯時間が長くなる場合があります。 ● アイセンサーの近くに手や物があると、ファインダー表示に切り換わります。(P41)
液晶モニター/ファインダーが明るすぎたり、暗すぎる。	→ 液晶モニター/ファインダーの明るさなどを正しく調整してください。(P36) ● [パワーLCD]になっていませんか？(P36)
液晶モニターに画像が出ない。	● ファインダー表示になっていませんか？ → [LVF/LCD]を押して、液晶モニター表示に切り換えてください。(P41) ● 液晶モニターが消灯になっていませんか？ → [DISPLAY]を押して表示情報を切り換えてください。(P58)
[LVF/LCD]を押しても液晶モニターとファインダーが切り換わらない。	● [露出設定切替]が[LVF/LCDボタン押し]に設定されていませんか？(P110) ● パソコンやプリンターと接続しているときは、本機の画面は液晶モニター表示のみになります。
液晶モニターの画面上に黒、赤、青、緑の点が現れる。	● これは故障ではありません。これらの点は記録されませんので、安心してご使用ください。
液晶モニターにノイズが出る。	● 暗い場所では、液晶モニターの明るさを維持するためにノイズが出ることがあります。撮影する画像に影響はありません。
室内で液晶モニターがちらつく。	● 電源周波数が50 Hzの地域では、電源を入れてから数秒間、液晶モニターがちらつく場合があります。これは蛍光灯の影響によるちらつきを補正している動作で、異常ではありません。
蛍光灯下で液晶モニターに横しま状のちらつきが出る。	● これは、本機の撮像素子であるMOSセンサーの特徴であり、異常ではありません。撮影する画像には影響しません。
ファインダー内で目を動かしたり、カメラを速く動かしたときに赤や緑、青のちらつきが見える。	● これは本機ファインダーの駆動方式の特徴であり異常ではありません。記録される画像には問題ありません。

■ 再生について

Q(質問)	A(回答)
再生した画像が回転しない/意図しない方向に回転して表示される。	●[回転表示](P114)を[OFF]にすると画像は回転せずに表示されます。 ●[画像回転](P114)で画像を回転することができます。 ●縦位置検出機能(P41)に対応したレンズ(P18)のみ[回転表示]を[ON]にすると画像が回転されて表示できます。
再生できない。	●[▶]を押しましたか？ ●カードは入っていますか？ ●カードに再生できる画像はありますか？ ●パソコンでファイル名を変更した画像ではないですか？その場合、本機で再生することはできません。
フォルダー・ファイル番号が[ー]で表示されたり、画面が黒くなる。	●規格外の画像やパソコンで編集された画像、または他社のデジタルカメラで撮影した画像ではないですか？ ●撮影直後にバッテリーを取り出したり、残量が少なくなったバッテリーで撮影していませんか？ →このような画像を削除するには、フォーマット(P38)してください。(他の画像も削除され、元に戻すことができませんので、よく確認してからフォーマットしてください)
カレンダー再生で、撮影した日付と異なる日付に画像が表示される。	●本機の時計設定を正しい日時に設定して撮影しましたか？(P29) ●パソコンで編集された画像や他機で撮影された画像では、カレンダー再生時、撮影した日付と異なる日付で表示されることがあります。
撮影した画像にシャボン玉のような白く丸い点が写り込んでいる。	●室内や暗い場所でフラッシュを使い撮影した場合に、空気中のほこりがフラッシュに反射して白く丸い点として写り込む場合がありますが、異常ではありません。 撮影ごとに丸い点の位置や数が変化するのが特徴です。
画面に「サムネイル表示」と表示される。	●他機で撮影された静止画ではないですか？その場合、画質が劣化して表示されることがあります。

■ テレビ、パソコン、プリンターについて

Q(質問)	A(回答)
テレビに画像が出ない。テレビ画面が流れたり色が付かない。	● 正しく接続されていますか？ →テレビの入力切換を外部入力にしてください。 →本機の[ビデオ出力]を[NTSC]に設定してください。(P37) ● パソコンやプリンターと接続しているとき、[HDMI]端子からの出力はできません。 →本機をテレビにのみ接続してください。
テレビ画面と本機の液晶モニターの表示される領域が違う。	● テレビの機種によっては、画像が縦や横に伸びたり、画像の端が切れて表示されることがあります。
テレビ画面いっぱいに画像が表示されない。	→本機の[TV画面タイプ]を確認してください。(P37)
ビエラリンク(HDMI)が働かない。	● HDMIミニケーブル(別売)で正しく接続されていますか？(P127) →HDMIミニケーブル(別売)が奥まで確実に入っていることを確認してください。 ● 本機の[ビエラリンク]を[ON]に設定していますか？(P38) →テレビのHDMI端子によっては、入力切換が自動で切り換わらない場合があります。そのときはテレビのリモコンを使って入力切換してください。(入力切換の方法はテレビの取扱説明書をお読みください) →接続した機器側のビエラリンク(HDMI)の設定を確認してください。 →本機の電源を入れ直してください。 →テレビ(ビエラ)の「ビエラリンク制御(HDMI機器制御)」の設定を「しない」に変更し、再度「する」に設定してください。(詳しくはビエラの取扱説明書をお読みください) →[ビデオ出力]を[NTSC]に設定してください。(P37)
パソコンに接続して画像を転送できない。	● 正しく接続されていますか？ ● パソコンが本機を正常に認識していますか？ →本機の[USBモード]を[PC]に設定してください。(P38、120)
パソコンにカードが認識されない。	→USB接続ケーブルを抜き、カードを入れた状態でUSB接続ケーブルを接続し直してください。
プリンターに接続して、プリントができない。	● PictBridgeに対応していないプリンターではプリントできません。 →本機の[USBモード]を[PictBridge(PTP)]に設定してください。(P38、122)
プリントすると、画像の端が切れる。	→トリミングや「ふちなし」印刷機能のあるプリンターをお使いのときは、トリミングまたは「ふちなし」の設定を解除してお試しください。(プリンターの説明書をお読みください) →お店によっては、横縦比を[16:9]に設定して撮影した画像を16:9のサイズでプリントできる場合がありますので、事前にお店にお尋ねください。

■ その他

Q(質問)	A(回答)
レンズ部から音がする。	●電源[ON]または[OFF]時にレンズ移動や絞り動作を行う音で、故障ではありません。 ●ズーム操作や本機を動かしたときなどで明るさが変化した場合、レンズ部から音がして、液晶モニター内の画像が急激に変わることがありますが、撮影に影響はありません。このときの音は本機の自動絞り動作によるもので、異常ではありません。
画像の一部が白と黒に点滅する。	●白とびが起こっている部分を示す、ハイライト表示機能です。(P35) ●[ハイライト表示]が[ON]になっていませんか?
シャッターボタンを半押しすると、赤いランプが点灯することがある。	●暗い場所ではピントを合わせやすくするために、AF補助光ランプ(P110)が赤く点灯します。
AF補助光が点灯しない。	●カスタムメニューの[AF補助光]を[ON]に設定していますか?(P110) ●明るい場所ではAF補助光は点灯しません。
本機が熱くなる。	●ご使用中、本機表面や液晶の裏側が多少熱くなることがありますが、性能・品質には問題ありません。
時計が合っていない。	●本機を長期間放置すると、時計がリセットされることがあります。 →「時計を設定してください」とメッセージが出ますので、再度時計設定をしてください。(P29)時計設定をしない状態で撮影すると、[0. 0. 0 0:00]の日付が記録されます。
ファイル番号が連続して記録されない。	●特定の操作を行ったあとに操作を行うと、それまでとは異なった番号のフォルダーの中に画像が記録されることがあります。(P121)
ファイル番号がさかのぼって記録される。	●電源を[OFF]にせずバッテリーを出し入れした場合、撮影していたフォルダー・ファイル番号を記憶することができません。従って、再度電源を[ON]にして撮影した場合、ファイル番号がさかのぼって記録される場合があります。
月齢/年齢が正しく表示されない。	●時計設定(P29)または誕生日設定(P98)を確認してください。

使用上のお願い

本機について

本機を落としたり、ぶつけたりしない
また、本機に強い圧力をかけない

- 強い衝撃が加わると、レンズや液晶モニター、外装ケースが壊れ、故障の原因になります。
- 本機を入れたかばんを落としたり、ぶつけたりすると、本機に衝撃が加わりますのでお気をつけください。

磁気が発生するところや電磁波が発生するところ（電子レンジ、テレビやゲーム機など）からはできるだけ離れて使う

- テレビの上や近くで操作すると、電磁波の影響で画像が乱れることがあります。
- スピーカーや大型モーターなどが出す強い磁気により、記録が損なわれたり、画像がゆがんだりします。
- マイコンを含めたデジタル回路の出す電磁波により、お互いに影響を及ぼし、画像が乱れることがあります。
- 本機が影響を受け、正常に動作しないときは、バッテリーを取り出したりACアダプター（P137）を一度抜いてから、あらためて挿入または接続し、電源を入れ直してください。

電波塔や高圧線が近くにあるときは、なるべく使わない

- 近くで撮ると、電波や高電圧の影響で撮影画像が悪くなることがあります。

付属のコード、ケーブルを必ず使用してください。別売品をお使いの場合は、別売品に付属のコード、ケーブルを使用してください。
また、コード、ケーブルは延長しないでください。

周囲で殺虫剤や揮発性のものを使うときは、本機にかけない

- かかると、外装ケースが変質したり、塗装がはげる恐れがあります。
- ゴム製品やビニール製品などを長期間接触させたままにしないでください。

お手入れについて

お手入れの際は、バッテリーを取り出しておく、または電源プラグをコンセントから抜き、乾いた柔らかい布でふいてください。

- 汚れがひどいときは、水にひたした布をよく絞ってから汚れをふき取り、そのあと、乾いた布でふいてください。
- ズームリングやフォーカスリングに付いたほこりや汚れは、ほこりの出にくい乾いた布でふいてください。
- ベンジン、シンナー、アルコール、台所洗剤などの溶剤は、外装ケースが変質したり、塗装がはげる恐れがありますので使用しないでください。
- 化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

■ 撮像素子のごみの付着について

本機はレンズ交換方式のため、レンズ交換の際に本体の内部にごみが入り込むことがあり、撮影条件によっては、撮像素子に付着したごみが写り込む場合があります。
本体の内部にごみやほこりが付着するのを防ぐために、ほこりの多い場所でのレンズ交換は避け、レンズを外して本体を保管するときは、必ずボディキャップを付けてください。その際、ボディキャップのごみも必ず除去してください。

ダストリダクション機能について
本機は、撮像素子前面に付着したごみやほこりを払い落とすダストリダクション機能を備えています。この機能は、電源を[ON]にすると自動的に働きますが、特にごみが気になる場合はカスタムメニューの[ピクセルリフレッシュ](P111)を行ってください。

撮像素子のごみの除去

撮像素子は非常に精密で、傷つきやすいので、やむを得ずご自身でクリーニングされる場合は、以下のことを必ずお守りください。

- ブロワー(市販)で撮像素子の表面のほこりを吹き飛ばします。強く吹きすぎないようにお気をつけください。
- ブロワーをレンズマウントより中に入れないでください。
- ブロワーが撮像素子に触れないようにしてください。万一、ブロワーが撮像素子に触れると傷が付きます。
- ブロワー以外のものは使用しないでください。
- ブロワーでもごみやほこりを除去できない場合は、お買い上げの販売店または修理ご相談窓口(P172～174)にお問い合わせください。

■ ファインダーのアイカップのお手入れについて

- アイカップは取り外しできませんので、汚れた場合などお手入れの際は、乾いた柔らかい布で軽くふき、外れないようお気をつけください。
- 万一、強くこすってアイカップが外れた場合は、お買い上げの販売店または修理ご相談窓口にお問い合わせください。

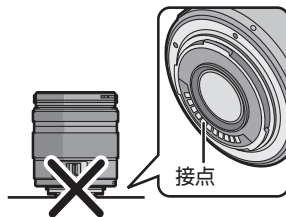
使用上のお願い（つづき）

液晶モニター/ファインダーについて

- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒冷地などで本機が冷えきっている場合、電源を入れた直後は液晶モニター/ファインダーが通常より少し暗くなります。内部の温度が上がると通常の明るさに戻ります。

液晶モニター/ファインダーは、精密度の高い技術で作られていますが、液晶モニターの画面上に黒い点が現れたり、常時点灯（赤や青、緑の点）することがあります。これは故障ではありません。液晶モニター/ファインダーの画素については99.99%以上の高精度管理をしておりますが、0.01%以下で画素欠けするものがあります。またこれらの点は、カードの画像には記録されませんのでご安心ください。

レンズについて

- レンズ面を強く押さないでください。
- レンズを太陽に向けたまま放置すると、集光により故障の原因になります。屋外や窓際に置くときにはお気をつけください。
- レンズ表面に汚れ（水、油、指紋など）がついた場合、画像に影響を及ぼすことがあります。撮影前後は、レンズの表面を乾いた柔らかい布で軽くふき取ってください。
- レンズ取付部を下にして置かないでください。また、レンズの接点を汚さないようにお気をつけください。

バッテリーについて

本機で使用するバッテリーは、充電式リチウムイオン電池です。
このバッテリーは温度や湿度の影響を受けやすく、温度が高くなる、または、低くなるほど影響が大きくなります。

使用後は、必ずバッテリーを取り出す

出かけるときは予備のバッテリーを準備する

- スキー場などの寒冷地では撮影できる時間がより短くなりますので、お気をつけください。
- 旅行をされるときは、現地でバッテリーを充電できるようにチャージャー(付属)も忘れずに準備してください。海外で使う場合は、変換プラグが必要な場合があります。(P138)

バッテリーを誤って落下させてしまった場合、端子部が変形していないか確認する

- 端子部が変形したまま本機に入れると、本機をいためます。

不要になった電池は、捨てないで充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

使用済み充電式電池の届け先

最寄りのリサイクル協力店へ
詳細は、有限責任中間法人JBRCのホームページをご参照ください。

- ホームページ　http://www.jbrc.net/hp

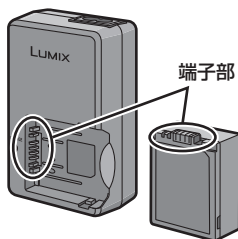
使用済み充電式電池の取り扱いについて

- 端子部をセロハンテープなどで絶縁してください。
- 分解しないでください。

充電式
リチウムイオン
電池使用

使用上のお願い（つづき）

チャージャーについて

- ラジオ（特にAM受信中）の近くで使うと、ラジオに雑音が入る場合があります。使用時は１ m以上離してください。
- 使用中、チャージャーの内部で発振音がする場合がありますが、異常ではありません。
- 使用後は、必ず電源コンセントから抜いてください。（接続したままにしておくと、最大約0.1 Wの電力を消費しています）
- チャージャーやバッテリーの端子部を汚さないでください。汚れた場合は、乾いた布でふいてください。

カードについて

カードを高温になるところや直射日光のあたるところ、電磁波や静電気の発生しやすいところに放置しない

また、折り曲げたり、落としたり、強い振動を与えない

- カードが破壊される恐れがあります。また、カードの内容が破壊されたり、消失する恐れがあります。
- 使用後や保管、持ち運びするときはケースや収納袋に入れてください。
- カード裏の端子部にごみや水、異物などを付着させないでください。また手などで触れないでください。

メモリーカードを廃棄/譲渡するときのお願い

本機やパソコンの機能による「フォーマット」や「削除」では、ファイル管理情報が変更されるだけで、メモリーカード内のデータは完全には消去されません。

廃棄/譲渡の際は、メモリーカード本体を物理的に破壊するか、市販のパソコン用データ消去ソフトなどを使ってメモリーカード内のデータを完全に消去することをおすすめします。

メモリーカード内のデータはお客様の責任において管理してください。

長期間使用しないときは

- バッテリーは涼しくて湿気がなく、なるべく温度が一定のところに保管してください。
（推奨温度：15 ℃～25 ℃、推奨湿度：40%～60%です）
- バッテリーとカードは必ず本機から取り出してください。
- バッテリーを入れたままにしておくと、本機の電源が[OFF]であっても、絶えず微少電流が流れています。
これをそのままにしておくと過放電になり、充電してもバッテリーが使用できなくなる恐れがあります。
- 長期間保管する場合、1年に1回は充電し、バッテリー残量がなくなってから、本機から取り出して再保管することをおすすめします。
- 押入れや戸棚に保管するときは、乾燥剤（シリカゲル）と一緒に入れることをおすすめします。
- **長期間使用していないときは、撮影前に各部を点検してから使用してください。**

画像データについて

- 不適切な取り扱いにより故障した結果、記録したデータが破壊されたり、消滅したりすることがあります。記録したデータの消滅による損害については、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。

三脚について

- 三脚を使用する場合は、本機を取り付けた状態で三脚が安定していることを確認してください。
- 三脚使用時は、バッテリーが取り出せないことがあります。
- 三脚の取り付けまたは取り外し時に、ねじが斜めにならないようお気をつけください。無理な力で回すと本機のねじを損傷する恐れがあります。締めすぎると本体や定格ラベルを傷つけたり、はがれたりすることがありますので、お気をつけください。
- 三脚の説明書もよくお読みください。

ストラップについて

- 本体に重いレンズ（約1 kg以上）を付けた場合、ストラップだけを持ってつり下げないでください。本体とレンズを持って持ち運びしてください。

使用上のお願い（つづき）

－このマークがある場合は－

ヨーロッパ連合以外の国の廃棄処分に関する情報

このシンボルマークはEU域内でのみ有効です。
製品を廃棄する場合には、最寄りの市町村窓口、または販売店で、正しい廃棄方法をお問い合わせください。

- 本製品に付属するソフトウェアを無断で営業目的として複製（コピー）したり、ネットワークに転載したりすることを禁止します。
- 本製品の使用、または故障により生じた直接、間接の損害につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本製品によるデータの破損につきましては、当社は一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本書で説明する製品の外観と仕様は、改良により実際とは異なる場合があります。

- Micro Four Thirdsは商標です。
- Four Thirds™は商標です。
- SDHCロゴは商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または、登録商標です。
- HDAVI Control™ は商標です。
- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Microsoft Windowsは、米国Microsoft Corporationの商標です。
- Macintosh、Mac OSはApple Inc.の登録商標または商標です。
- その他、本書に記載されている各種名称、会社名、商品名などは各社の商標または登録商標です。
- Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

G MICRO SYSTEMは、マイクロフォーサーズシステム規格に準拠したLUMIXのレンズ交換式デジタルカメラシステムです。

記録可能枚数

- 記録可能枚数は目安です。(撮影条件、カードの種類によって変化します)
- 被写体により記録可能枚数は変動します。

画像横縦比		4:3							
記録画素数		L：4000×3000 画素 (1200万画素相当)				M：2816×2112画素 (590万画素相当)			
クオリティ				RAW	RAW			RAW	RAW
カード	32 MB	3	8	1	1	8	18	1	1
	64 MB	9	19	2	3	19	39	3	3
	128 MB	19	40	5	6	40	81	6	7
	256 MB	39	80	11	13	80	160	13	15
	512 MB	80	160	23	27	160	320	27	30
	1 GB	160	320	47	55	320	640	55	60
	2 GB	330	650	96	110	650	1270	110	120
	4 GB	650	1280	185	220	1290	2510	220	240
	6 GB	990	1950	280	330	1970	3820	330	360
	8 GB	1320	2610	380	450	2630	5110	450	490
	12 GB	2000	3930	580	670	3980	7710	680	740
	16 GB	2660	5250	770	900	5310	10290	900	990
	32 GB	5350	10540	1550	1810	10650	20650	1820	1980

画像横縦比		4:3				3:2			
記録画素数		S：2048×1536画素 (310万画素相当)				L：4000×2672画素 (1070万画素相当)			
クオリティ				RAW	RAW			RAW	RAW
カード	32 MB	17	35	1	1	4	9	1	1
	64 MB	37	74	3	3	10	21	2	3
	128 MB	77	150	7	8	22	45	6	7
	256 MB	150	290	15	15	44	90	13	15
	512 MB	300	590	30	31	90	180	26	30
	1 GB	600	1180	60	63	180	360	53	62
	2 GB	1220	2360	120	125	370	730	105	125
	4 GB	2410	4640	240	250	730	1430	210	240
	6 GB	3660	7050	360	380	1110	2180	320	370
	8 GB	4910	9440	490	510	1480	2920	430	500
	12 GB	7400	14240	730	770	2240	4400	650	760
	16 GB	9880	19000	980	1030	2990	5880	870	1010
	32 GB	19820	38120	1970	2070	6000	11800	1750	2040

記録可能枚数（つづき）

画像横縦比		3:2							
記録画素数		M：2816×1880画素（530万画素相当）				S：2048×1360画素（280万画素相当）			
クオリティ		▲▲	▲	RAW▲▲	RAW▲	▲▲	▲	RAW▲▲	RAW▲
カード	32 MB	9	21	1	1	20	39	1	2
	64 MB	21	44	3	4	42	82	4	4
	128 MB	45	91	7	8	87	165	8	9
	256 MB	90	180	15	17	170	330	16	17
	512 MB	180	350	30	33	340	650	33	35
	1 GB	360	710	62	68	680	1310	67	71
	2 GB	730	1420	125	135	1360	2550	135	140
	4 GB	1450	2800	240	270	2680	5020	270	280
	6 GB	2200	4260	370	410	4070	7640	410	430
	8 GB	2950	5710	500	550	5450	10230	550	570
	12 GB	4460	8610	760	830	8230	15430	830	870
	16 GB	5950	11490	1020	1110	10980	20590	1100	1160
	32 GB	11940	23050	2040	2230	22020	41300	2220	2330

画像横縦比		16:9							
記録画素数		L：4000×2248画素（900万画素相当）				M：2816×1584画素（450万画素相当）			
クオリティ		▲▲	▲	RAW▲▲	RAW▲	▲▲	▲	RAW▲▲	RAW▲
カード	32 MB	5	12	1	1	12	25	2	2
	64 MB	12	26	3	4	26	53	4	4
	128 MB	26	54	7	9	54	105	9	10
	256 MB	53	105	15	18	105	210	18	20
	512 MB	105	210	31	36	210	420	36	40
	1 GB	210	430	62	73	430	850	73	80
	2 GB	430	860	125	145	870	1700	145	160
	4 GB	860	1690	250	290	1720	3350	290	320
	6 GB	1300	2580	380	440	2620	5090	440	480
	8 GB	1750	3450	510	590	3500	6820	600	650
	12 GB	2640	5210	770	900	5290	10280	900	980
	16 GB	3520	6950	1030	1200	7050	13720	1200	1310
	32 GB	7070	13960	2060	2410	14160	27530	2420	2640

画像横縦比		16:9			
記録画素数		S：1920×1080画素（210万画素相当）			
クオリティ				RAW	RAW
カード	32 MB	26	52	2	2
	64 MB	56	105	5	5
	128 MB	115	220	10	10
	256 MB	220	430	20	21
	512 MB	440	860	40	42
	1 GB	900	1720	81	84
	2 GB	1800	3410	160	170
	4 GB	3540	6700	320	330
	6 GB	5390	10190	490	510
	8 GB	7220	13640	650	680
	12 GB	10890	20580	990	1030
	16 GB	14530	27450	1320	1380
	32 GB	29150	55070	2650	2770

画像横縦比		4:3	3:2	16:9
クオリティ		RAW		
カード	32 MB	2	2	2
	64 MB	4	4	5
	128 MB	8	9	11
	256 MB	16	18	22
	512 MB	33	37	44
	1 GB	67	75	89
	2 GB	135	150	180
	4 GB	260	300	350
	6 GB	400	450	540
	8 GB	540	610	720
	12 GB	820	920	1090
	16 GB	1090	1230	1450
	32 GB	2190	2470	2920

お知らせ

- 液晶モニター/ファインダーに表示される記録可能枚数は、規則正しく減少しない場合があります。
- [EX光学ズーム]（P105）を[ON]に設定している場合は、各画像横縦比の[L]以外の記録画素数に[EZ]が表示されます。

仕様

電源	DC 9.3 V
消費電力	2.8 W(液晶モニター撮影時) 2.6 W(ファインダー撮影時) 1.7 W(液晶モニター再生時) 1.6 W(ファインダー再生時)

カメラ有効画素数	1210万画素
撮像素子	4/3型 Live MOSセンサー　総画素数1306万画素、 原色カラーフィルター
デジタルズーム	最大4倍
EX光学ズーム (各画像横縦比設定の最大記録画素数以外)	ON/OFF単純拡大(他社レンズにも対応)
フォーカス	オートフォーカス/マニュアルフォーカス 顔認識/追尾AF/23点/1点
シャッターシステム	フォーカルプレーンシャッター
連写撮影: 連写速度 **連写枚数**	3コマ/秒(高速)、2コマ/秒(低速) 最大7コマ(RAWファイルあり) カードの空き容量に依存(RAWファイルなし)
ISO感度	オート/インテリジェントISO/100/200/400/800/1600/ 3200
シャッタースピード	B(バルブ)(最大約4分間)、60 ～ 1/4000秒
測光範囲	EV 0 ～ EV 18
ホワイトバランス	オートホワイトバランス/晴天/曇り/日陰/白熱灯/フラッシュ/ ホワイトセット1/ホワイトセット2/色温度設定
露出	プログラムAE(P)、絞り優先 AE(A)、シャッター優先 AE(S)、 マニュアル露出(M)、オート 露出補正(1/3 EVステップ、−3 EV～+3 EV)
測光方式	マルチ測光/中央重点測光/スポット測光
液晶モニター	3.0 型 TFT 液晶(約46万ドット)(視野率約100%)
ファインダー	カラー液晶ビューファインダー(約144万ドット相当) (視野率約100%) (視度調整付き −4～+4diopter)
フラッシュ	内蔵ポップアップ式　GN11相当(ISO100・m) 撮影可能範囲:約45 cm～約6.2 m [DMC-G1KおよびDMC-G1Wに同梱の交換レンズ14–45 mm/F3.5–5.6装着、W 端、[ISO AUTO]設定時] 撮影可能範囲:約1.0 m～約5.5 m [DMC-G1Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6装着、W 端、[ISO AUTO]設定時]
	オート/赤目軽減オート/強制発光/赤目軽減強制発光/ スローシンクロ/赤目軽減スローシンクロ/発光禁止
フラッシュ同調速度	1/160 秒以下

記録メディア	SDメモリーカード/SDHCメモリーカード/マルチメディアカード
記録画素数 　静止画	 画像横縦比[4:3]設定時 4000×3000画素/2816×2112画素/2048×1536画素 画像横縦比[3:2]設定時 4000×2672画素/2816×1880画素/2048×1360画素 画像横縦比[16:9]設定時 4000×2248画素/2816×1584画素/1920×1080画素
クオリティ(圧縮率)	RAW/RAW+ファイン/RAW+スタンダード/ファイン/ スタンダード
記録画像ファイル形式	JPEG(DCF準拠、Exif2.21準拠)、DPOF対応
インターフェース 　デジタル 　アナログビデオ	 USB 2.0(High Speed) NTSC/PALコンポジット(メニュー切り換え)
端子 　REMOTE 　DIGITAL/V. OUT 　HDMI 　DC IN	 Ø2.5 mm ジャック 専用ジャック(8 pin) miniHDMI Cタイプ(1.3b対応) なし(ACアダプター使用時は別売DCケーブル使用)
寸法	約 幅124 mm×高さ83.6 mm×奥行き45.2 mm(突起部除く)
質量	約385 g(本体) 約635 g[カード、DMC-G1KおよびDMC-G1Wに同梱の交換レンズ14–45 mm/F3.5–5.6、バッテリー含む] 約819 g[カード、DMC-G1Wに同梱の交換レンズ45–200 mm/F4.0–5.6、バッテリー含む]
推奨使用温度	0 ℃～40 ℃
許容相対湿度	10%～80%

専用バッテリーチャージャー/AC アダプター: DE-A49A

定格出力	DC 9.3 V　1.2 A(デジタルカメラ時) DC 8.4 V　0.65 A(充電時)
定格入力	AC100 V—240 V　50/60 Hz
入力容量	25 VA(100 V)、34 VA(240 V)

リチウムイオンバッテリーパック : DMW-BLB13

電圧	7.2 V

仕様（つづき）

交換レンズ　H-FS014045
(LUMIX G VARIO 14–45 mm/F3.5–5.6 ASPH./MEGA O.I.S.)

項目	仕様
焦点距離	f=14 mm ～ 45 mm （35 mm フィルムカメラ換算：28 mm ～ 90 mm）
絞り形式	7枚羽根　虹彩絞り/円形絞り
開放絞り	F3.5（W 端時）～ F5.6（T 端時）
最小絞り値	F22
レンズ構成	9群　12枚（非球面1枚）
撮影範囲	0.3 m ～∞（撮像面から）
最大撮影倍率	0.17×（35 mm フィルムカメラ換算：0.34×）
手ブレ補正	あり
マウント	マイクロフォーサーズマウント
画角	75 °（W端時）～ 27°（T端時）
フィルター径	52 mm
最大径	60 mm
全長	約60 mm（レンズ先端からレンズマウント基準面まで）
質量	約195 g

交換レンズ　H-FS045200
(LUMIX G VARIO 45–200 mm/F4.0–5.6/MEGA O.I.S.)

項目	仕様
焦点距離	f=45 mm ～ 200 mm （35 mm フィルムカメラ換算：90 mm ～ 400 mm）
絞り形式	7枚羽根　虹彩絞り/円形絞り
開放絞り	F4.0（W端時）～ F5.6（T端時）
最小絞り値	F22
レンズ構成	13群　16枚（非球面なし）
撮影範囲	1.0 m ～∞（撮像面から）
最大撮影倍率	0.19×（35 mm フィルムカメラ換算：0.38×）
手ブレ補正	あり
マウント	マイクロフォーサーズマウント
画角	27 °（W端時）～ 6.2°（T端時）
フィルター径	52 mm
最大径	70 mm
全長	約100 mm（レンズ先端からレンズマウント基準面まで）
質量	約380 g

修理を依頼されるときは

まず「Q & A 故障かな？と思ったら」をお読みください。それでも解決しない場合は故障の可能性があります。
お買い上げの販売店または修理ご相談窓口（P172 ～ 174）にお問い合わせください。
万一、故障が発生し、修理をご依頼される場合は、円滑な対応をさせていただくために、下記内容をご記入のうえ、製品に添付していただきますようお願いいたします。

- 修理の際に、セットアップメニュー、撮影メニュー、再生メニューなどの設定を出荷状態に戻さなければならない場合があります。あらかじめご了承ください。
- 画質・ピント・手ブレ関連の故障の場合、支障のない範囲でできるだけご指摘の画像を製品に添付していただきますようお願いいたします。

ご記入日：　　　年　　月　　日

きりとり線

■ 商品に関して

機種名	DMC-G1K DMC-G1W DMC-G1
お買い上げ日	年　　月　　日
製造番号 （保証書または本体底面に記載）	
保証書添付	□有り　　□無し

■ 確認事項

修理代金の見積もり （有償修理時のみ）	□不要　　□_____万円以上必要　　□必要
修理ご依頼時の添付品 （本体以外の添付品をご記入ください）	

裏面につづく

■ 故障の症状について

<table>
<tr><td colspan="2">発生時期</td><td>ご購入後　□直後　□1ヵ月以内　□1ヵ月以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">発生頻度</td><td>□常時　□時々　□1回のみ</td></tr>
<tr><td rowspan="4">故障発生時の使用状況</td><td>使用していた電源</td><td>□バッテリー　□ACアダプター
（品番：　）</td></tr>
<tr><td>使用していたレンズ</td><td>同梱品
□H-FS014045
□H-FS045200
□その他
（焦点距離／絞り値：　）
（メーカー：　）</td></tr>
<tr><td>外部フラッシュ</td><td>□装着していた　□装着していない
（品番：　）
（メーカー：　）</td></tr>
<tr><td>パソコンとの接続</td><td>□接続していた　□接続していない
（OS：　）
（メーカー：　）
（機種：　）</td></tr>
<tr><td colspan="2">故障の症状
（できるだけ具体的にご記入ください）</td><td></td></tr>
</table>

きりとり線

保証とアフターサービス（よくお読みください）

修理･お取り扱い･お手入れなどのご相談は･･･
まず､お買い上げの販売店へお申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は･･･

- **修理は､サービス会社･販売会社の｢修理ご相談窓口｣へ！**
- **使いかた･お買い物などのお問い合わせは､｢お客様ご相談センター｣へ！**

■ 保証書（別添付）

お買い上げ日･販売店名などの記入を必ず確かめ､お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと､保管してください。

保証期間：お買い上げ日から本体１年間
（｢本体｣にはソフトウェアの内容は含みません）

■ 補修用性能部品の保有期間 8年

当社は､このデジタルカメラ/レンズキット/ダブルズームレンズキット/ボディの補修用性能部品を､製造打ち切り後8年保有しています。

注）補修用性能部品とは､その製品の機能を維持するために必要な部品です。

■ 修理を依頼されるとき

この説明書をよくお読みのうえ､直らないときは､まず接続している電源を外して､お買い上げの販売店へご連絡ください。

ご連絡いただきたい内容	
製品名	デジタルカメラ/レンズキット/ダブルズームレンズキット/ボディ
品　番	DMC-G1K DMC-G1W DMC-G1
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に

●保証期間中は

保証書の規定に従ってお買い上げの販売店が修理をさせていただきますので､恐れ入りますが､製品に保証書を添えてご持参ください。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる製品については､ご要望により修理させていただきます。
下記修理料金の仕組みをご参照のうえ､ご相談ください。

●修理料金の仕組み

修理料金は､技術料･部品代･出張料などで構成されています。

- 技術料 は､診断･故障個所の修理および部品交換･調整･修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
- 部品代 は､修理に使用した部品および補助材料代です。
- 出張料 は､製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご相談窓口における個人情報のお取り扱い

パナソニック株式会社およびその関係会社は､お客様の個人情報やご相談内容を､ご相談への対応や修理､その確認などのために利用し､その記録を残すことがあります。
また､折り返し電話させていただくときのため､ナンバー･ディスプレイを採用しています。
なお､個人情報を適切に管理し､修理業務等を委託する場合や正当な理由がある場合を除き､第三者に提供しません。
お問い合わせは､ご相談された窓口にご連絡ください。

修理に関するご相談

パナソニック 修 理 ご 相 談 窓 口

ナビダイヤル（全国共通番号） **0570-087-087**

- 呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS・IP/光電話等、ナビダイヤルがご利用できない場合は、最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

使いかた・お買い物などのご相談

パナソニック お客様ご相談センター

365日／受付9時～20時

電 話 フリーダイヤル **0120-878-365**（パナは 365日）

■携帯電話・PHSでのご利用は… **06-6907-1187**

FAX フリーダイヤル **0120-878-236**

Help desk for foreign residents in Japan
Tokyo (03) 3256 - 5444 **Osaka** (06) 6645 - 8787
Open : 9:00 - 17:30 (closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

パナソニック 修 理 ご 相 談 窓 口

- 地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

北 海 道 地 区					
札幌	札幌市厚別区厚別南2丁目17-7 ☎ (011)894-1251	**帯広**	帯広市西20条北2丁目23-3 ☎ (0155)33-8477	**函館**	函館市西桔梗589番地241（函館流通卸センター内） ☎ (0138)48-6631
旭川	旭川市2条通16丁目1166 ☎ (0166)22-3011				

※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

パナソニック 修理ご相談窓口

- 地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

東北地区

地域	住所・電話	地域	住所・電話	地域	住所・電話
青森	青森市大字浜田 字豊田364 ☎ (017)775-0326	岩手	盛岡市厨川5丁目 1-43 ☎ (019)645-6130	山形	山形市平清水1丁目 1-75 ☎ (023)641-8100
秋田	秋田市外旭川 字小谷地3-1 ☎ (018)868-7008	宮城	仙台市宮城野区扇町 7-4-18 ☎ (022)387-1117	福島	郡山市亀田1丁目 51-15 ☎ (024)991-9308

首都圏地区

地域	住所・電話	地域	住所・電話	地域	住所・電話
栃木	宇都宮市上戸祭 3丁目3-19 ☎ (028)689-2555	埼玉	桶川市赤堀2丁目4-2 ☎ (048)728-8960	山梨	甲府市宝1丁目4-13 ☎ (055)222-5822
群馬	前橋市箱田町325-1 ☎ (027)254-2075	千葉	千葉市中央区末広 5丁目9-5 ☎ (043)208-6034	神奈川	横浜市港南区日野 5丁目3-16 ☎ (045)847-9720
茨城	つくば市筑穂3丁目 15-3 ☎ (029)864-8756	東京	東京都世田谷区 宮坂2丁目26-17 ☎ (03)5477-9780	新潟	新潟市東区東明 1丁目8-14 ☎ (025)286-0180

中部地区

地域	住所・電話	地域	住所・電話	地域	住所・電話
石川	金沢市横川3丁目20 ☎ (076)280-6608	長野	松本市寿北7丁目3-11 ☎ (0263)86-9209	岐阜	岐阜市中鶉4丁目42 ☎ (058)278-6720
富山	富山市根塚町1丁目 1-4 ☎ (076)424-2549	静岡	静岡市葵区千代田 7丁目7-5 ☎ (054)287-9000	高山	高山市花岡町3丁目 82 ☎ (0577)33-0613
福井	福井市問屋町2丁目 14 ☎ (0776)21-0622	愛知	名古屋市瑞穂区 塩入町8-10 ☎ (052)819-0225	三重	津市久居野村町 字山神421 ☎ (059)254-5520

近畿地区

地域	住所・電話	地域	住所・電話	地域	住所・電話
滋賀	栗東市霊仙寺1丁目 1-48 ☎ (077)582-5021	大阪	大阪市城東区関目 2丁目15-5 ☎ (06)6359-6225	和歌山	和歌山市中島499-1 ☎ (073)475-2984
京都	京都市伏見区竹田 中川原町71-4 ☎ (075)646-2123	奈良	大和郡山市筒井町 800番地 ☎ (0743)59-2770	兵庫	神戸市須磨区弥栄台 3丁目13-4 ☎ (078)796-3140

保証とアフターサービス（よくお読みください）（つづき）

※電話番号をよくお確かめの上、おかけください。

パナソニック 修理ご相談窓口

- 地区・時間帯によって、集中修理ご相談窓口に転送させていただく場合がございます。

中国地区		
鳥取 鳥取市安長295-1 ☎(0857)26-9695 **米子** 米子市米原4丁目2-33 ☎(0859)34-2129 **松江** 松江市平成町182番地14 ☎(0852)23-1128	**出雲** 出雲市渡橋町416 ☎(0853)21-3133 **浜田** 浜田市下府町327-93 ☎(0855)22-6629 **岡山** 岡山市田中138-110 ☎(086)242-6236	**広島** 広島市西区南観音1丁目13-5 ☎(082)295-5011 **山口** 山口市小郡下郷220-1 ☎(083)973-2720

四国地区		
香川 高松市勅使町152-2 ☎(087)868-6388 **徳島** 徳島市沖浜2丁目36 ☎(088)624-0253	**高知** 高知市仲田町2-16 ☎(088)834-3142	**愛媛** 愛媛県伊予郡砥部町八倉75-1 ☎(089)905-7544

九州地区		
福岡 春日市春日公園3丁目48 ☎(092)593-9036 **佐賀** 佐賀市鍋島町大字八戸字上深町3044 ☎(0952)26-9151 **長崎** 長崎市東町1919-1 ☎(095)830-1658	**大分** 大分市萩原4丁目8-35 ☎(097)556-3815 **宮崎** 宮崎市本郷北方字草葉2099-2 ☎(0985)63-1213 **熊本** 熊本市健軍本町12-3 ☎(096)367-6067	**天草** 天草市港町18-11 ☎(0969)22-3125 **鹿児島** 鹿児島市与次郎1丁目5-33 ☎(099)250-5657 **大島** 奄美市名瀬朝仁町11-2 ☎(0997)53-5101

沖縄地区	
沖縄 浦添市城間4丁目23-11	☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0608

さくいん

さくいん（つづき）

英字

お役に立つ、いろいろな情報は次のサイトで！	
■ 撮りかたのコツや新製品情報	http://panasonic.jp/
■ サポート情報	http://panasonic.jp/support/
■ 便利なLUMIX修理サービス	http://lumix.jp/repair/

愛情点検 長年ご使用のデジタルカメラ/レンズキット/ダブルズームレンズキット/ボディの点検を！

こんな症状はありませんか	・電源コードやプラグが異常に熱い ・煙が出たり、異常なにおいや音がする ・水や異物が入った ・画像が乱れたり、きれいに映らない ・その他の異常や故障がある

▼

このような症状のときは、使用を中止し、故障や事故の防止のため、電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて、必ず販売店に点検をご相談ください。

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です）

お買い上げ日	年　月　日	品　番	DMC-G1K DMC-G1W DMC-G1
販売店名	☎（　　）		

パナソニック株式会社
AVCネットワークス社　ネットワーク事業グループ
〒571-8504　大阪府門真市松生町１番15号

F0908HN1108 (　10000 Ⓒ)